

図 面 (建築)

仕様書番号 上第 8 改-4 号

工 事 名 美佐野加圧ポンプ場更新工事

工事設計図

令和 年 月 (金 木 水 火 土 日 月)

特記仕様書

I 工事概要

1. 工事場所

岐阜県可児郡御嵩町美佐野地内

2. 敷地面積

254㎡

3. 工事種目

機 名 称

ポンプ機

構 造

鉄筋コンクリート造 地上1階

建築面積

15.91㎡

延床面積

15.91㎡

工事種目

建築工事（躯体・仕上）一式

4. 工事範囲

※「3. 工事種目」の、印が付いたものを工事範囲とする。

工事種目	工事範囲
②仮設工事	
③土工	
④地業工事	
⑤鉄筋工事	
⑥コンクリート工事	
7 鉄骨工事	
8 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事	
⑨防水工事	
10 石工事	
⑪タイル工事	
12 木工	
⑬屋根及びとい工事	
14 金属工事	
⑮左官工事	
⑯建具工事	
17 カーテンウォール工事	
⑰塗装工事	
⑱内装工事	
20 ユニット及びその他の工事	
21 排水工事	
22 舗装工事	
23 補装及び屋上緑化工事	

II 建築工事仕様

1. 標準仕様

図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部制定の「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（令和4年版）」（以下「標準仕様書」という。）による。

2. 電気設備工事及び機械設備工事を本工事に含む場合は、電気設備工事及び機械設備工事はそれぞれの特記仕様書を適用する。なお、電気設備工事の特記仕様書は（ / ）図、機械設備工事の特記仕様書は（ / ）図による。

3. 特記仕様書の表記

(1) 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。

(2) 特記事項は、○印の付いたものを適用する。

○印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。

○印と○印の付いた場合は、共に適用する。

(3) 特記事項に記載の（ / ）内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。

章 項 目 特 記 事 項

1 一般共通事項

①適用基準等

図面、本特記仕様書、標準仕様書に記載のない事項は次の基準による。
・建築物解体工事共通仕様書（令和4年版） 国土交通省大臣官房官庁営繕部
・建築工事写真撮影要領（平成28年版） 国土交通省大臣官房官庁営繕部
・建築工事標準詳細図（令和4年版）（以下「標準詳細図」という） 国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課
その他
・
・
※適用する

(1.1.4)

②工事実績情報システム（ORINS）への登録

③法令等の適用区分

建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の算定には次の条件を用いる。
○風圧力
風速（Vo= 32 m/s）
地表面粗度区分（・Ⅰ ・Ⅱ ○Ⅲ ・Ⅳ）
○積雪荷重
平成12年5月31日建設省告示第1455号における区域 別表（ / ）

(1.2.4)

④工事の記録等

報告に用いる書式等
○現場説明書による
・
○標準仕様書1.2.4（4）により整備する工事写真については次による。
『営繕工事写真撮影要領（平成28年版）による工事写真撮影ガイドブック 建築工事編 及び解体工事編 平成30年版』国土交通省大臣官房官庁営繕部整備

(1.3.3)

⑤電気保安技術者

※適用する

(1.3.5)

⑥施工条件

※ 標準仕様書1.3.5（1）以外の施工条件については、現場説明書による。

(1.3.11)

7 発生材の処理等

・発注者に引渡しを要するもの
・現場説明書による
・
・特別管理産業廃棄物の種類及び処理方法
・現場説明書による
・
・工事現場において再利用を図るもの及び再資源化を図るもの
・現場説明書による

(1.4.2)

⑧材料の品質等

(1) 本工事に使用する材料は、設計図面に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。
(2) 備考欄に商品名が記載された材料は、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は監督職員の承認を受ける。
(3) 標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする。
(4) 本工事に使用する材料のうち、（5）に指定する材料の製造業者等は、次の①から⑥の事項を満たすものとし、その証明となる資料（外部機関〔（一社）公共建築協会が発行する「建築材料・設備機材等品質評価事業」〕の評価書の写し等）を監督職員に提出して承認を受ける。ただし、あらかじめ監督職員の承認を受けた場合はこの限りでない。
①品質及び性能に関する試験データを整備していること。
②生産施設及び品質の管理を適切に行っていること。
③安定的な供給が可能であること。
④法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得していること。
⑤製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。
⑥販売、保守等の営業体制を整えていること。
(5) 製造業者等に関する資料の提出を求める材料
・（一社）公共建築協会の「建築材料・設備機材等品質評価事業」において評価書が発行されている材料
床型特用鋼製デッキプレート、鉄骨柱下無収縮モルタル、無収縮グラウト材、押出成形セメント板、成形伸縮目地材、乾式保護材、セラミックタイル、既調合モルタル、既調合目地材、ルーフトレン、吸水調整材、防水剤、アルミニウム製建具（コンクリート系下地及び鉄骨下地）、樹脂製建具（コンクリート系下地及び鉄骨下地）、鋼製建具、鋼製軽量建具、ステンレス製建具、錠前類、クローザ類、自動ドア機構、自閉式上吊り引戸機構、重量シャッター、軽量シャッター、オーバーヘッドドア、ガラス、現場発泡断熱材、フリーアクセスフロア、可動間仕切、移動間仕切、トイレブース、煙突用成形ライニング材、天井点検口、床点検口、グレーチング、屋上緑化システム、トップライト、ポリマーセメントモルタル、鋼鉄製ふた
・
・

(2.3.1)

⑨技能士

10 化学物質の濃度測定

(1.5.9)

11 技術検査

(1.6.2)

⑩完成時の提出図書

(1.7.1～1.7.3) (表1.7.1)

⑪完成写真

⑫設計GL

2 仮設工事

(2.3.1)

3 土工

(3.2.3) (表3.2.1)

2 建設発土の処理

(3.2.5)

適用工事種類

職 種

技能検定の作業の種類

(1.5.2)

仮設工事

とび

○とび作業

鉄筋工事

鉄筋施工

○鉄筋組立て作業

コンクリート工事

型枠施工

○型枠工事作業

コンクリート工事

コンクリート圧送施工

○コンクリート圧送工事作業

鉄骨工事

鉄工

・構造物鉄工作業

コンクリートブロック・ALCパネル及び押出成形セメント板工事

ブロック建築

・コンクリートブロック工事作業

エーエルシーパネル施工

・エーエルシーパネル工事作業

防水工事

防水施工

・アスファルト防水工事作業
・ウレタンゴム系塗膜防水工事作業
・アクリルゴム系塗膜防水工事作業
・合成ゴム系シート防水工事作業
・塩化ビニル系シート防水工事作業
・セメント系防水工事作業
○シーリング防水工事作業
・改質アスファルトシートトーチ工法防水工事作業
・改質アスファルトシート常温粘着工法防水工事作業
・FRP防水工事作業

石工事

石材施工

・石張り作業

タイル工事

タイル張り

・タイル張り作業

木工

建築大工

・大工工事作業

屋根及びとい工事

建築板金

○内外装板金作業

金属工事

内装仕上げ施工

・鋼製下地工事作業

金属工事

建築板金

・内外装板金作業

左官工事

左官

○左官作業

建具工事

サッシ施工

○ビル用サッシ施工作業

建具工事

ガラス施工

○ガラス工事作業

カーテンウォール工事

自動ドア施工

・自動ドア施工作業

カーテンウォール工事

カーテンウォール施工

・金属製カーテンウォール工事作業

カーテンウォール工事

サッシ施工

・ビル用サッシ施工作業

カーテンウォール工事

ガラス施工

・ガラス工事作業

塗装工事

塗装

○建築塗装作業

内装工事

内装仕上げ施工

・プラスチック系床仕上げ工事作業
・カーペット系床仕上げ作業
・ボード仕上げ工事作業

排水工事

表装

・壁装作業

排水工事

配管

・建築配管作業

舗装工事

路面標示施工

・溶融ペイントハンドマーカー工事作業
・加熱ペイントマシンマーカー工事作業

舗装工事

造園

・造園工事作業

※適用する

測定時期

・現場説明書による

測定対象化学物質

・ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレン
・

測定方法

・バッシュ型採取機器による

測定対象室及び測定箇所

・仕上表による

中間技術検査

実施回数（ / ）回
実施する段階（ / ）

⑪完成時の提出図書

工事完成時の提出図書
※標準仕様書1.7.2及び1.7.3による
・
完成図の提出（ / ）部
提出仕様（・紙ベース ・電子データ ・ / ）
保全に関する資料の提出（ / ）部
提出仕様（・紙ベース ・電子データ ・ / ）
工事完成時に次の写真を撮影し、監督職員に提出する。
撮影箇所（ / ）
撮影仕様（ / ）
提出仕様（ / ）
○図示による ・

①監督職員事務所

(2.3.1)

※設ける
規模、仕上の程度、設備、並びに備品等の種類及び数量は現場説明書による。

②工事用水

構内既存の施設 ※利用できない ・利用できる（※有償 ・無償）

③工事用電力

構内既存の施設 ※利用できない ・利用できる（※有償 ・無償）

1 埋戻し及び盛土

(3.2.3) (表3.2.1)

埋戻し及び盛土の材料及び工法
※標準仕様書 表3.2.1による
・A種 施工箇所（ / ）
・B種 施工箇所（ / ）
・C種 施工箇所（ / ）土質（ / ）受渡場所（ / ）
・D種 施工箇所（ / ）

2 建設発土の処理

(3.2.5)

※構外搬出適切処理
・構内指定場所に堆積 ・構内指定場所に敷均し

4 地業工事

1 試験及び報告書

(4.2.1) (4.2.2) (4.3.4) (4.3.5) (4.5.6)

2 既製コンクリート杭

(4.3.3)

杭の種類、性能及び曲げ強度区分（種別）、寸法、継手の箇所数等

(4.2.2) (4.3.3)

	種別	コンクリート強度(N/mm ²)	杭径(mm)	厚さ(mm)	杭長(mm)	継手数	セッ数	長期設計支持力(kN/本)	備考
試験杭	上杭 中杭 下杭								
本 杭	上杭 中杭 下杭								

杭先端部形状
・開放形 ・半開放形 ・閉そく形 ・
(4.3.1) (4.3.4)
・セメントミルク工法
掘削深さ
・図示による
杭の支持層への掘入れ深さ
・図示による
杭の水平方向の位置ずれ精度
・杭径の1/4かつ100mm以下
根固め液及び杭周面定液の管理試験
※標準仕様書4.3.4(6) (3)による
・特定埋込杭工法
・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力方式でα=250を採用できる工法
・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力方式のうちα、β、γが以下の値を採用できる工法
α=（ / ）、β=（ / ）、γ=（ / ）
工法
・プレローリング拡大掘固め工法
・中掘り拡大掘固め工法
杭継手工法
・アーク溶接継手
溶接材料
・標準仕様書7.2.5(1) (2)による
・機械式継手（継手部に接続金具を用いた方式のもの）
杭頭の処理
・処理しない
・処理する
処理方法（切断に伴う補強方法含む）
・図示による

工 事 名

美佐野加圧ポンプ場

更新工事

施工箇所名

御嵩町 美佐野 地内

図面の種類

ポンプ室
建築工事特記仕様書(1)

縮 尺

—— 図面番号 A-1

事務所名

岐阜県御嵩町

コンクリート工事へ続く

13 無筋コンクリート

コンクリートの種類
※普通コンクリート

設計基準強度
※18(N/mm²)

スランプ
※15cm又は18cm

適用箇所
・標準仕様書 6.14.1(4)による
・図示による

・標準仕様書 表6.2.1以外のコンクリートを用いる場合
()

(6.14.1)
(6.14.1)
(6.14.1)
(6.14.1)
(6.14.1)

14 流動化コンクリート

適用箇所
・図示による

(6.15.1)

15 コンクリートの単位
水量測定

・行う
・行わない

実施要領
(1)単位水量の測定は、150m³に1回以上及び荷下し時に品質の異常が認められた時に実施する。
(2)単位水量の上限値は、標準仕様書6.3.2(イ)(ロ)による。
(3)単位水量の管理目標値は次の通りとして、施工する。
1)測定した単位水量が、計画調合書の設計値(以下、「設計値」という。)±15kg/m³の範囲にある場合はそのまま施工する。
2)測定した単位水量が、設計値±15を超え±20kg/m³の範囲にある場合は、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示しなければならない。その後の全運搬車の測定を行い設計値±20kg/m³以内であることを確認する。さらに、設計値±15kg/m³以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。
3)設計値±20kg/m³を超える場合は、生コンを打込み前に持ち帰らせ、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示しなければならない。その後の全運搬車の測定を行い設計値±20kg/m³以内であることを確認する。さらに、設計値±15kg/m³以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。
4)3)の不合格生コンを確実に持ち帰ったことを確認する。
(4)単位水量管理についての記録を書画(計画調合書、製造管理記録、打込み時の外気温、コンクリート温度等)と写真により提出する。
(5)単位水量の測定方法は、高周波誘電加熱乾燥法(電子レンジ法)、エアメータ法又は静電容量測定法による。また、試験機関は該当コンクリート製造所以外の機関とする。

(6.5.1)

7 鉄骨工事

1 鉄骨製作工場

鉄骨製作工場の加工能力
・国土交通大臣から構造方法等の認定を取得している鉄骨製作工場又は同等以上の能力のある工場
() グレード以上
・監督職員の承諾する工場

(7.1.3)

2 施工管理技術者

※適用する

(7.1.3)(7.1.4)

3 鋼材

材質等

(7.2.1)

種類

適用箇所(主要な部分)

規格

・JIS規格による
・JIS規格による
・JIS規格による
・JIS規格による
・JIS規格による
・JIS規格による

形状及び寸法
・図示による
板厚方向に引張力を受ける鋼材の試験
・行う(適用箇所:)
・行わない

(7.2.1)
(7.2.10)

4 高力ボルト

高力ボルトの種類
・トルシヤ高力ボルト
・JIS高力ボルト
・溶融亜鉛めっき高力ボルト
・建築基準法に基づき認定を受けた高力ボルト

(7.2.2)

ボルトの寸法
ねじの呼び
・図示による
ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等
・図示による

(7.2.2)
(7.3.2)

摩擦面の性能及び処理
・すべり試験
試験の方法等
・図示による
・溶融亜鉛めっき面の摩擦面の処理方法
※標準仕様書7.12.5(1)(7)、(イ)による

(7.4.2)
(7.12.5)

JIS 高力ボルトの締付け(本締め)
ナット回転法の場合で、ボルトの長さがねじの呼びの5倍を超える場合の回転量
・図示による

(7.4.7)

5 普通ボルト

ボルト及びナットの材料
※標準仕様書 表7.2.3による
ボルトの形状及び寸法
ねじの呼び
・図示による
ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等
・図示による
母屋又は鋼線の取付けに使用するボルトの孔径
※ねじの呼び径+1.0mm

(7.2.3)
(7.2.3)
(7.3.2)

6 アンカーボルト

種類
・構造用アンカーボルト
・ABR400
・ABR490
・建方用アンカーボルト
・SS400
アンカーボルト及びナットのねじの公称域クラス及び仕上げの程度
※標準仕様書表7.2.3による
ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等
・図示による

(7.2.4)
(7.3.2)

7 溶接材料

溶接材料
・標準仕様書 7.2.5(1)(2)による
・図示による

(7.2.5)

8 ターンバックル

種類
建築用ターンバックルボルト
※羽子板ボルト
建築用ターンバックル胴
※割弁式
ねじの呼び等
・図示による

(7.2.6)
(7.2.6)

9 床構造用デッキ
プレート

材質、形状及び寸法

(7.2.7)

・デッキプレート単独の構造
・デッキプレートとコンクリートとの合成スラブとする構造
・

適用箇所

材質・形状・寸法

備考

鉄骨部材への溶接方法
・図示による

(7.7.8)

10 スタッ

11 柱底均しモルタル

・無収縮モルタル
無収縮モルタルの材料、調合等
※標準仕様書7.2.9(2)による
・標準仕様書7.2.9(1)によるモルタル
(7.2.9)(表7.2.5)

(7.2.9)

12 鉄骨の仮組

※行う
仮組を行う範囲
・図示による

(7.3.10)

13 溶接技能者の技能付加試験

試験の要領
・図示による

(7.6.3)

14 溶接接合

開先の形状
・図示による
鋼製エンドタブを切断する箇所及び切断範囲
・図示による
切断面の仕上げ
※標準仕様書7.6.7(1)(a)(b)②による
スカラップの形状
・図示による
低応力高サイクル疲労を受ける部位
・図示による

(7.6.4)
(7.6.7)
(7.6.12)

15 溶接部の試験

溶接部の外観試験
平成12年建設省告示第1464号第二号に関する試験
試験の方法
・「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル(鉄骨製作管理技術者登録機構)」3.5.2 突入検査による。
・抜き取り検査① ※抜き取り検査②
・JASS6付則6の付表3「溶接」に関する試験
試験の方法
・JASS 6 10.4〔突入検査〕e.溶接部の外観検査(1)から(5)までによる。ただし、完全溶込み溶接部の外観検査の抜き取り箇所は、超音波探傷試験の試験箇所と同一とする。
・完全溶込み部の超音波探傷試験
工場溶接の場合
AOQL(%) ※4.0
・2.5
節
・全て
検査水準 ※第6水準

(7.6.12)
(7.6.12)
(7.6.12)

16 錆止め塗装

塗料の範囲
耐火被覆材の接着する面の塗装範囲
・図示による
耐火被覆材の接着する面以外の塗装範囲
・標準仕様書7.8.2(1)による
・図示による
下記以外の塗料の種類は、18 章による
・鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブで鉄骨に溶接されたものの内側の錆止めの塗料の種類
※A種
・B種
・耐火被覆が接着する面の塗料の種類
・

(7.8.2)
(表18.3.1)

17 耐火被覆

種類、材料、工法等

(7.9.2～7.9.8)

種類

材料・工法

耐火性能(時間)

適用箇所(部位・部分)

・乾式吹付けロックウール
・半乾式吹付けロックウール
・湿式ロックウール
・繊維混入けい酸カルシウム板
・耐火板張り
・耐火材巻付け
・高断熱ロックウール
・ラス張り
モルタル塗り
・耐火塗料

18 アンカーボルトの設置等

構造用アンカーボルトの形状及び寸法
・図示による
構造用アンカーフレームの形状及び寸法
・図示による
建方用アンカーボルトの保持及び埋込み工法
種類
・A種
・B種
柱底均しモルタルの厚さ及び工法の種類
厚さ
・mm
種類
※A種

(7.10.3)
(7.10.3)
(7.10.3)(表7.10.1)
(7.10.3)(表7.10.2)

19 軽量形鋼構造

ボルト接合方法
・普通ボルト接合

(7.11.2)

8 コンクリートブロック・ALCパネル及び押出成形セメント板工事

1 補強コンクリート
ブロック造

材料
(8.2.2)(表8.2.3)

断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ (mm)	呼び寸法 (mm)		化粧の有無	適用箇所	備考
		長さ	高さ			
※空室ブロック(16)				・無・有		
・				・無・有		
・				・無・有		

モルタルの割合 (容積比)
ブロックの区分が A(08)、B(12)、C(16)の場合で、目地巾が10mm程度の場合
※標準仕様書 表8.2.1による
上記以外の場合
各部の配筋
・図示による
目地仕上げ
・押し目地仕上げ
・化粧目地仕上げ
まぐさを受ける開口部両側のブロックにおいて、モルタル又はコンクリートで充填するブロックの範囲
・図示による

(8.2.2)
(8.2.3)
(8.2.5)
(8.2.7)
(8.2.8)

2 コンクリートブロック
横壁及び壁

材料
(8.3.2)(表8.3.1)

断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ (mm)	呼び寸法 (mm)		化粧の有無	適用箇所	備考
		長さ	高さ			
※空室ブロック(16)				・無・有	※表8.3.1	
・	・120			・無・有	※準	
・	・150			・無・有		

モルタルの割合 (容積比)
ブロックの区分がA(08)、B(12)、C(16)の場合で、目地巾が10mm程度の場合
※標準仕様書 表8.2.1による
上記以外
鉄筋の継手、定着及び末端部の折り曲げ形状
・図示による
各部の配筋
・図示による

(8.3.2)
(8.3.3)
(8.3.4)
(8.3.4)

3 ALCパネル

材料、構造
(8.4.2～8.4.5)(表8.4.2～表8.4.4)

パネルの区分		単位荷重 (N/m ²)	厚さ (mm)	幅及び長さ (mm)	耐火性能 (時間)	構造の種類
用途	形状					
・外壁用	・一般	・平	・100	・図示	・有(1)	・A種 ・B種
	・コーナー	・意匠	・			
・間仕切壁用	・一般	・平	・100	・図示	・有(1)	・C種 ・D種
	・コーナー	・意匠	・			
・屋根版用	—	—	・100	・図示	・有(0.5)	・F種
・床版用	—	—	・100			

パネル相互の接合部に挿入する耐火目地材
・図示による
・外壁パネル構造、屋根及び床パネル構造
耐風圧性能 ()
耐震性能 ()
・間仕切壁パネル構造
耐震性能 ()
パネル幅の最小限度 (mm)
・300未満 (・図示)
パネルの短辺小口相互の接合部、出隅及び入隅のパネル接合部並びにパネルと他部材との取り合い部の伸縮目地の目地幅 (mm)
※10～20mm
・図示による
伸縮目地への耐火目地材の充填
・適用する
・適用しない

(8.4.2)
(8.4.3)
(8.4.4)
(8.4.3)
(8.4.3)
(8.4.3)
(8.4.3)
(8.4.3)

4 押出成形セメント板
(ECP)

材料、工法
(8.5.2～8.5.4)(表8.5.1)(表8.5.2)

パネルの種類	形状	厚さ (mm)	幅 (mm)	工法の種類	備考
・外壁パネル	・F (フラットパネル)	・50・60	600	・A種 ・B種	
	・D (デザインパネル)	・50・60			
	・T (タイルベースパネル)	60			
・間仕切壁パネル	・F (フラットパネル)	・50・60	600	・B種 ・C種	
	・D (デザインパネル)	・50・60			
	・T (タイルベースパネル)	60			

・外壁パネル工法
耐風圧性能 ()
耐震性能 ()
・間仕切壁パネル工法
耐震性能 ()
耐火構造以外の目地及び隙間の処理
※パネルの製造所の仕様による
パネル幅の最小限度 (mm)
・300未満 (・図示)
パネルの相互の目地幅 (mm)
長辺の目地幅
・10以上
短辺の目地幅
・15以上
出隅及び入隅のパネル接合部の伸縮目地の目地幅 (mm)
※15程度 (シーリング材を充填)
・図示による
溝掘及び開口部の措置
やむを得ず設備開口等を設置する場合のパネルの開口寸法等の限度
・図示による

(8.5.3)
(8.5.3)
(8.5.3)
(8.5.3)
(8.5.3)
(8.5.3)
(8.5.3)
(8.5.3)
(8.5.3)
(8.5.3)

工 事 名

美佐野加圧ポンプ場
更新工事

施工箇所名

御嵩町 美佐野 地内

図面の種類

ポンプ室
建築工事特記仕様書(3)

縮 尺

—— 図面番号 A-3

事務所名

岐阜県御嵩町

9 防水工事	1 アスファルト防水	(9. 2. 2) (9. 2. 3) (表9. 2. 3～表9. 2. 6)	屋根保護防水 防水層の種類 <table><tr><th>種別</th><th>施工箇所</th><th>断熱材</th><th>絶縁用シート</th></tr><tr><td>・A-1</td><td></td><td rowspan="5"> </td><td rowspan="5">※ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上又はフラットヤーンクロス70g/㎡程度</td></tr><tr><td>・A-2</td><td></td></tr><tr><td>・A-3</td><td></td></tr><tr><td>・B-1</td><td></td></tr><tr><td>・B-2</td><td></td></tr><tr><td>・A1-1</td><td></td><td rowspan="5">(厚さ) mm</td><td rowspan="5">※フラットヤーンクロス 70g/㎡程度</td></tr><tr><td>・A1-2</td><td></td></tr><tr><td>・A1-3</td><td></td></tr><tr><td>・B1-1</td><td></td></tr><tr><td>・B1-2</td><td></td></tr></table> 改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ ※標準仕様書 表9. 2. 3及び表9. 2. 4による ・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ 用途による区分 ・材料構成による区分 ・R種 ・N種 厚さ mm以上 部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ ※標準仕様書 表9. 2. 5及び表9. 2. 6による ・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ 用途による区分 ・材料構成による区分 ・R種 ・N種 厚さ mm以上 押え金物の材質及び形状寸法 ※アルミニウム製 L-30×15×2.0mm程度 立上り部への断熱材及び絶縁用シートの設置 ・適用する ・適用しない (表9. 2. 4) (表9. 2. 6) 屋根露出防水 防水層の種類 <table><tr><th>種別</th><th>施工箇所</th><th>断熱材</th><th colspan="2">仕上塗料</th></tr><tr><th></th><th></th><th></th><th>種類</th><th>使用量</th></tr><tr><td>・D-1</td><td></td><td rowspan="5"> </td><td rowspan="4"></td><td rowspan="5">※製造所の仕様による</td></tr><tr><td>・D-2</td><td></td></tr><tr><td>・D-3</td><td></td></tr><tr><td>・D-4</td><td></td></tr><tr><td>・D1-1</td><td></td><td>(種類)</td></tr><tr><td>・D1-2</td><td></td><td></td><td>(厚さ) 25mm</td><td></td></tr></table> 改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ ※標準仕様書 表9. 2. 8による ・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ 用途による区分 ・材料構成による区分 ・R種 ・N種 厚さ mm以上 部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ ※標準仕様書 表9. 2. 7及び表9. 2. 8による ・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ 用途による区分 ・材料構成による区分 ・R種 ・N種 厚さ mm以上 押え金物の材質及び形状寸法 ※アルミニウム製 L-30×15×2.0mm程度 絶縁工法及び断熱絶縁工法の脱気装置の種類及び設置数量 種類 ※アスファルトルーフィング製の製造所の指定 設置数量 ※アスファルトルーフィング製の製造所の指定 個 屋内防水 防水層の種類 <table><tr><th>種別</th><th>施工箇所</th><th>種別</th><th>施工箇所</th></tr><tr><td>・E-1</td><td></td><td>・E-2</td><td></td></tr></table> 保護層 ・設ける (※図示) ・設けない E-1 の工程3を行う場合の部位 ※防水槽、浴槽等の常時水に接する部位 施工 防水層の下地のモルタル塗り ・適用する (施工範囲) ・適用しない 防水層の下地、立上りコンクリート打放し仕上げ ※標準仕様書 表6. 2. 4のB種 絶縁断熱工法のルーフトレンドレン回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置 ・図示による 保護層等の施工 平場の保護コンクリートの厚さ こて仕上げ ※水下 80mm以上 床タイル張り ※水下 60mm以上 立上り部の保護工法 ・乾式保護材 乾式保護材の材料 ・コンクリート押え ・モルタル押え (屋内等) ・れんが押え (・図示) れんがの材料 ・JIS R 1250 (普通れんが及び化粧れんが) 屋上排水溝の設置 ・図示による	種別	施工箇所	断熱材	絶縁用シート	・A-1			※ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上又はフラットヤーンクロス70g/㎡程度	・A-2		・A-3		・B-1		・B-2		・A1-1		(厚さ) mm	※フラットヤーンクロス 70g/㎡程度	・A1-2		・A1-3		・B1-1		・B1-2		種別	施工箇所	断熱材	仕上塗料					種類	使用量	・D-1				※製造所の仕様による	・D-2		・D-3		・D-4		・D1-1		(種類)	・D1-2			(厚さ) 25mm		種別	施工箇所	種別	施工箇所	・E-1		・E-2		2 改質アスファルトシート防水	(9. 3. 2) (9. 3. 3) (表9. 3. 1) (表9. 3. 3)	防水層の種類 <table><tr><th rowspan="2">種別</th><th rowspan="2">施工箇所</th><th rowspan="2">断熱材</th><th rowspan="2">防湿層</th><th colspan="2">仕上塗料</th></tr><tr><th>種類</th><th>使用量</th></tr><tr><td>・AS-T1</td><td></td><td rowspan="5"> </td><td rowspan="5"> </td><td rowspan="5"></td><td rowspan="5">※製造所の仕様による</td></tr><tr><td>・AS-T2</td><td></td></tr><tr><td>・AS-T3</td><td></td></tr><tr><td>・AS-T4</td><td></td></tr><tr><td>・AS-J1</td><td></td></tr><tr><td>・AS1-T1</td><td></td><td>(種類)</td><td rowspan="2">・設ける ・設けない</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td></tr><tr><td>・AS1-J1</td><td></td><td>(厚さ) mm</td></tr></table> 改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※標準仕様書表9. 3. 1から表9. 3. 3による ・粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※標準仕様書表9. 3. 2及び表9. 3. 3による ・部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※標準仕様書表9. 3. 2及び表9. 3. 3による ・押え金物の材質及び形状寸法 ※アルミニウム製 L-30×15×2.0mm程度 屋根露出防水絶縁工法及び屋根露出防水絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量 種類 ※改質アスファルトシートの製造所の指定 設置数量 ※改質アスファルトシートの製造所の指定 個	種別	施工箇所	断熱材	防湿層	仕上塗料		種類	使用量	・AS-T1					※製造所の仕様による	・AS-T2		・AS-T3		・AS-T4		・AS-J1		・AS1-T1		(種類)	・設ける ・設けない			・AS1-J1		(厚さ) mm	3 合成高分子系ルーフィングシート防水	(9. 4. 2～9. 4. 4) (表9. 4. 1～表9. 4. 2)	防水層の種類 <table><tr><th rowspan="2">種別</th><th rowspan="2">施工箇所</th><th rowspan="2">可置剤移行防止シートの材質</th><th rowspan="2">断熱材</th><th rowspan="2">歩行の仕様</th><th colspan="2">仕上塗料</th></tr><tr><th>種類</th><th>使用量</th></tr><tr><td>・S-F1</td><td></td><td rowspan="2"> </td><td rowspan="2"> </td><td rowspan="2">※非歩行用 ・軽歩行用</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2">※製造所の仕様による</td></tr><tr><td>・S-F2</td><td></td></tr><tr><td>・S-M1</td><td></td><td rowspan="2"> </td><td rowspan="2"> </td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2">※製造所の仕様による</td></tr><tr><td>・S-M2</td><td></td></tr><tr><td>・SI-F1</td><td></td><td rowspan="2"> </td><td rowspan="2">(種類) ・(厚さ) mm</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2">※製造所の仕様による</td></tr><tr><td>・SI-F2</td><td></td></tr><tr><td>・SI-M1</td><td></td><td rowspan="2"> </td><td rowspan="4">(種類) ・(厚さ) mm</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2">※製造所の仕様による</td></tr><tr><td>・SI-M2</td><td></td></tr></table> 屋上防水層の種類 <table><tr><th rowspan="3">種別</th><th rowspan="3">施工箇所</th><th colspan="2">保護層</th><th rowspan="3">立上り部の保護 モルタル塗り厚さ</th></tr><tr><th colspan="2">平場のモルタル塗り</th></tr><tr><th>塗厚 (mm)</th><th>工法</th></tr><tr><td>・S-C1</td><td></td><td>・床塗り ・下地モルタル塗り</td><td></td><td>※7mm以下</td></tr></table> ルーフィングシートの種類及び厚さ ※標準仕様書表9. 4. 1から表9. 4. 3による ・固定金具の材質及び形状 材質 ※防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板又はそれらの鋼板の片面及び両面に樹脂を積層加工したもの 厚さ (mm) ※0.4以上 接着工法の場合の脱気装置の種類及び設置数量 種類 ※ルーフィングシートの製造所の仕様 設置数量 ※ルーフィングシートの製造所の仕様 個 断熱工法 (SI-M1、SI-M2の場合) の防湿用フィルム ・設置する ・設置しない 接着工法の場合のP Cコンクリート部材防水下地の目地処理 ・行う (・図示) ・行わない P Cコンクリート下地の入隅部の増張り (S-F1、SI-F1の場合) ・行う (・図示) ・行わない 機械的固定工法の場合の一般部のルーフィングシートの張付け 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法 ・図示による	種別	施工箇所	可置剤移行防止シートの材質	断熱材	歩行の仕様	仕上塗料		種類	使用量	・S-F1				※非歩行用 ・軽歩行用		※製造所の仕様による	・S-F2		・S-M1						※製造所の仕様による	・S-M2		・SI-F1			(種類) ・(厚さ) mm			※製造所の仕様による	・SI-F2		・SI-M1			(種類) ・(厚さ) mm			※製造所の仕様による	・SI-M2		種別	施工箇所	保護層		立上り部の保護 モルタル塗り厚さ	平場のモルタル塗り		塗厚 (mm)	工法	・S-C1		・床塗り ・下地モルタル塗り		※7mm以下	5 ケイ酸質系塗布膜防水	(9. 6. 4)	防水層の下地 (壁及び天井) ※コンクリート打放し仕上げ (標準仕様書 表6. 2. 4のB種) 下地処理 コンクリートの打継箇所の処理 ※標準仕様書9. 6. 4(2) (7) による 標準仕様書9. 6. 4(2) (4) 及び (9) 以外の下地処理 ・図示による 材料 種類及び施工箇所 ※下表以外は、標準仕様書 表9. 7. 11による ただし、外壁タイル接着剤張りの場合のシーリングは11章に、カーテンウォールの場合のシーリングは17章による。 <table><tr><th>施工箇所</th><th>シーリング材の種類 (記号)</th></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr></table> 仕上げを行わない施工箇所 () シーリング材の目地寸法 ※標準仕様書9. 7. 3(1) による 接着性試験 ※簡易接着性試験 ・引張接着性試験	施工箇所	シーリング材の種類 (記号)									⑩シーリング	(9. 7. 2)	5 外壁乾式工法 外壁乾式工法的方式による金物の種類、形状、寸法等 ※標準仕様書 表10. 2. 4による 方式 ・スライド方式 ・ロッキング方式 ・図示による アンカーの材質及び寸法 材質：※ステンレス (SUS304) 製 寸法： あと施工アンカーの種類、材質及び寸法 種類： 材質： 寸法： 上記以外の金物の材質、形状及び寸法 ・図示による 石材の厚さ (mm) ・ だぼ用の穴の位置 ※標準仕様書10. 5. 2(2) (7) による ・図示による 裏打ち処理 ・適用する ・適用しない 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法 ・図示による 石材の厚さ (mm) ・ 目地幅 (mm) ※8以上 シーリング材 ・適用する ・適用しない 伸縮調整目地 位置 ※標準仕様書 表10. 5. 2(2) (7) による ・図示による 裏打ち処理 ・適用する ・適用しない 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法 ・図示による 目地 目地幅 (mm) ※8以上 シーリング材 ・適用する ・適用しない 伸縮調整目地 位置 ※標準仕様書 表10. 5. 2(2) (7) による ・図示による 裏打ち処理 ・適用する ・適用しない 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法 ・図示による 目地 目地幅 (mm) ※8以上 シーリング材 ・適用する ・適用しない 伸縮調整目地 位置 ※標準仕様書 表10. 5. 2(2) (7) による ・図示による 裏打ち処理 ・適用する ・適用しない 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法 ・図示による	6 床及び階段の石張り	(10. 6. 2) (10. 6. 3) (10. 6. 2)	天然石 <table><tr><th colspan="6">(10. 2. 1) (表10. 2. 1) (表10. 2. 2)</th></tr><tr><th>施工箇所</th><th>岩石の種類</th><th>形状及び寸法</th><th>表面仕上の種類</th><th>バフ仕上の有無</th><th>備考</th></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> テラゾブロック <table><tr><th colspan="6">(10. 2. 1) (表10. 2. 1) (表10. 2. 2)</th></tr><tr><th>施工箇所</th><th>種石の種類</th><th>種石の大きさ (mm)</th><th>形状による区分</th><th>仕上げ面による区分</th><th>寸法 (mm)</th><th>表面仕上の種類</th><th>備考</th></tr><tr><td></td><td>※大理石 ・花こう岩</td><td>※1.5～12</td><td>・平もの ・役もの</td><td>・片面 ・両面</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> テラゾタイル <table><tr><th>施工箇所</th><th>種石の種類</th><th>種石の大きさ (mm)</th><th>寸法による区分 (mm)</th><th>表面仕上の種類</th><th>備考</th></tr><tr><td></td><td>※大理石 ・花こう岩</td><td>※1.5～12</td><td>・300×300 ・400×400</td><td></td><td></td></tr></table> 取り付用モルタル、既調合の目地用モルタル、浸透性吸水防止剤、石表面処理材、裏打ち処理材、金物の固定に使用する充填材料 ※専門工事業者の指定する製品 受金物 材質 ※ステンレス (SUS304) 製 形状及び寸法 ※ L-75×75×6 (mm) (・長さ=100mm ・長さ=150mm) アンカーの材質及び寸法 材質：※SS400 寸法： あと施工アンカーの種類、材質及び寸法 種類： 材質： 寸法： 上記以外の金物の材質、形状及び寸法 ・図示による ドレンパイプの材質 ・樹脂ネット製パイプ クロスメッシュ巻き 25～35φ 石材の厚さ (mm) 石表面処理 ・適用する ・適用しない 裏打ち処理 ・適用する ・適用しない 下地ごしらえ ※あと施工アンカー・横筋流し工法 ・流し筋工法 ・あと施工アンカー工法 目地 一般目地 目地幅 (mm) ※6以上 シーリング材 ・適用する ・適用しない 伸縮調整目地 位置 ※標準仕様書 表11. 1. 11による ・図示による シーリング材の目地寸法 ※幅・深さとも10mm以上 ・図示による 受金物 材質 ※ステンレス (SUS304) 製 形状及び寸法 ※ L-75×75×6 (mm) (・長さ=100mm ・長さ=150mm) アンカーの材質及び寸法 材質：※SS400 寸法： あと施工アンカーの種類、材質及び寸法 種類： 材質： 寸法： 上記以外の金物の材質、形状及び寸法 ・図示による 石材の厚さ (mm) 石表面処理 ・適用する ・適用しない 裏打ち処理 ・適用する ・適用しない 下地ごしらえ ※あと施工アンカー・横筋流し工法 ・あと施工アンカー工法	(10. 2. 1) (表10. 2. 1) (表10. 2. 2)						施工箇所	岩石の種類	形状及び寸法	表面仕上の種類	バフ仕上の有無	備考							(10. 2. 1) (表10. 2. 1) (表10. 2. 2)						施工箇所	種石の種類	種石の大きさ (mm)	形状による区分	仕上げ面による区分	寸法 (mm)	表面仕上の種類	備考		※大理石 ・花こう岩	※1.5～12	・平もの ・役もの	・片面 ・両面				施工箇所	種石の種類	種石の大きさ (mm)	寸法による区分 (mm)	表面仕上の種類	備考		※大理石 ・花こう岩	※1.5～12	・300×300 ・400×400			7 笠木、甲板等の石張り	(10. 7. 2) (10. 2. 2)	取付け工法 ・湿式工法 ・乾式工法 湿式工法の取付け金物 ・標準仕様書10. 2. 2(1) による ・図示による 乾式工法の取付け金物 ・標準仕様書10. 2. 2(2) による ・図示による 方式・スライド方式 ・ロッキング方式 特殊部位用金物 ・標準仕様書10. 2. 2(3) による ・図示による ファスナー アンカーの材質及び寸法 湿式工法の材質：※ステンレス (SUS304) 製 寸法： 乾式工法の材質：※SS400 寸法： あと施工アンカーの種類、材質及び寸法 種類： 材質： 寸法： 上記以外の金物の材質、形状及び寸法 ・図示による 石材の厚さ (mm) 石表面処理 ・適用する ・適用しない 乾式工法の場合の取付け代 ※標準仕様書10. 5. 3(2) による 石裏の補強用モルタル ・適用する ・適用しない 目地 湿式工法の場合 一般目地 目地幅 (mm) ※6以上 シーリング材 ・適用する ・適用しない 伸縮調整目地 位置 ※標準仕様書 表11. 1. 11による ・図示による シーリング材の目地寸法 ※幅・深さとも10mm以上 ・図示による 乾式工法の場合 目地幅 (mm) ※8以上 シーリング材 ・適用する (※標準仕様書9. 7による ・図示) ・適用しない	8 隔て板	(10. 7. 3)	石材の厚さ (mm) ※40
	種別	施工箇所	断熱材	絶縁用シート																																																																																																																																																																																																																																													
	・A-1			※ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上又はフラットヤーンクロス70g/㎡程度																																																																																																																																																																																																																																													
	・A-2																																																																																																																																																																																																																																																
	・A-3																																																																																																																																																																																																																																																
	・B-1																																																																																																																																																																																																																																																
	・B-2																																																																																																																																																																																																																																																
	・A1-1		(厚さ) mm	※フラットヤーンクロス 70g/㎡程度																																																																																																																																																																																																																																													
	・A1-2																																																																																																																																																																																																																																																
	・A1-3																																																																																																																																																																																																																																																
・B1-1																																																																																																																																																																																																																																																	
・B1-2																																																																																																																																																																																																																																																	
種別	施工箇所	断熱材	仕上塗料																																																																																																																																																																																																																																														
			種類	使用量																																																																																																																																																																																																																																													
・D-1				※製造所の仕様による																																																																																																																																																																																																																																													
・D-2																																																																																																																																																																																																																																																	
・D-3																																																																																																																																																																																																																																																	
・D-4																																																																																																																																																																																																																																																	
・D1-1			(種類)																																																																																																																																																																																																																																														
・D1-2			(厚さ) 25mm																																																																																																																																																																																																																																														
種別	施工箇所	種別	施工箇所																																																																																																																																																																																																																																														
・E-1		・E-2																																																																																																																																																																																																																																															
種別	施工箇所	断熱材	防湿層	仕上塗料																																																																																																																																																																																																																																													
				種類	使用量																																																																																																																																																																																																																																												
・AS-T1					※製造所の仕様による																																																																																																																																																																																																																																												
・AS-T2																																																																																																																																																																																																																																																	
・AS-T3																																																																																																																																																																																																																																																	
・AS-T4																																																																																																																																																																																																																																																	
・AS-J1																																																																																																																																																																																																																																																	
・AS1-T1		(種類)	・設ける ・設けない																																																																																																																																																																																																																																														
・AS1-J1		(厚さ) mm																																																																																																																																																																																																																																															
種別	施工箇所	可置剤移行防止シートの材質	断熱材	歩行の仕様	仕上塗料																																																																																																																																																																																																																																												
					種類	使用量																																																																																																																																																																																																																																											
・S-F1				※非歩行用 ・軽歩行用		※製造所の仕様による																																																																																																																																																																																																																																											
・S-F2																																																																																																																																																																																																																																																	
・S-M1						※製造所の仕様による																																																																																																																																																																																																																																											
・S-M2																																																																																																																																																																																																																																																	
・SI-F1			(種類) ・(厚さ) mm			※製造所の仕様による																																																																																																																																																																																																																																											
・SI-F2																																																																																																																																																																																																																																																	
・SI-M1			(種類) ・(厚さ) mm			※製造所の仕様による																																																																																																																																																																																																																																											
・SI-M2																																																																																																																																																																																																																																																	
種別	施工箇所	保護層		立上り部の保護 モルタル塗り厚さ																																																																																																																																																																																																																																													
		平場のモルタル塗り																																																																																																																																																																																																																																															
		塗厚 (mm)	工法																																																																																																																																																																																																																																														
・S-C1		・床塗り ・下地モルタル塗り		※7mm以下																																																																																																																																																																																																																																													
施工箇所	シーリング材の種類 (記号)																																																																																																																																																																																																																																																
(10. 2. 1) (表10. 2. 1) (表10. 2. 2)																																																																																																																																																																																																																																																	
施工箇所	岩石の種類	形状及び寸法	表面仕上の種類	バフ仕上の有無	備考																																																																																																																																																																																																																																												
(10. 2. 1) (表10. 2. 1) (表10. 2. 2)																																																																																																																																																																																																																																																	
施工箇所	種石の種類	種石の大きさ (mm)	形状による区分	仕上げ面による区分	寸法 (mm)	表面仕上の種類	備考																																																																																																																																																																																																																																										
	※大理石 ・花こう岩	※1.5～12	・平もの ・役もの	・片面 ・両面																																																																																																																																																																																																																																													
施工箇所	種石の種類	種石の大きさ (mm)	寸法による区分 (mm)	表面仕上の種類	備考																																																																																																																																																																																																																																												
	※大理石 ・花こう岩	※1.5～12	・300×300 ・400×400																																																																																																																																																																																																																																														
工 事 名		美佐野加圧ポンプ場 更新工事																																																																																																																																																																																																																																															
施工箇所名		御嵩町 美佐野 地内																																																																																																																																																																																																																																															
図面の種類		ポンプ室 建築工事特記仕様書(4)																																																																																																																																																																																																																																															
縮 尺		—— 図面番号 A-4																																																																																																																																																																																																																																															
事務所名		岐阜県御嵩町																																																																																																																																																																																																																																															

11
タイル工事

1
伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地

(11.1.3)

2
見本焼、試験施工

(11.1.4)

③セメントモルタルによるタイル張り

(11.2.2)(11.2.3)(11.2.6)

既調合モルタル

(11.2.3)

下地モルタル塗り

(11.2.4)

壁タイル張りの工法

(表11.2.3)

4 有機系接着剤によるタイル張り

(11.3.2~11.3.4)(11.3.7)

位置 ※標準仕様書 表11.1.1による
・図示による

見本焼き ・行う ・行わない
試験張り ・行う ・行わない

タイルの形状、寸法等

施工箇所	種類	形状寸法(mm)	吸水率による区分			うわぐすり	役物	色	耐凍害性	耐摩り性	備考
			I類	II類	III類						
ポーセ (段鼻)	外装被	60×150	○	・	・	○	○	・	○	・	○
			・	・	・	・	・	・	・	・	・

既調合モルタル
○既調合モルタルの製造所の仕様による

下地モルタル塗りのコンクリート素地面の地下処理方法
・目荒し工法 (標準仕様書15.3.4(4)による)
・MOR工法 (標準仕様書6.8による)

壁タイル張りの工法
内装タイル ・密着張り ・改良圧着張り
内装タイル以外のユニットタイル ・マスク張り ・モザイクタイル張り

タイルの形状、寸法等

施工箇所	種類	形状寸法(mm)	吸水率による区分			うわぐすり	役物	色	耐凍害性	耐摩り性	備考
			I類	II類	III類						
			・	・	・	・	・	・	・	・	・
			・	・	・	・	・	・	・	・	・
			・	・	・	・	・	・	・	・	・

接着剤のホルムアルデヒド放散量
※ F☆☆☆☆

外装タイルにおける目地詰め
・行う ・行わない

目地のシーリング材
打継ぎ目地 ※ポリウレタン系シーリング材 ・
ひび割れ誘発目地 ※ポリウレタン系シーリング材 ・
伸縮調整目地 ※変成シリコン系シーリング材 ・
その他の目地 ※変成シリコン系シーリング材 ・

下地調整塗材塗りを行うコンクリート素地面の地下処理方法
・目荒し工法 (標準仕様書15.3.4(4)による)
・MOR工法 (標準仕様書6.8による)

12
木工事

1
施工一般

(12.2.1)

2
製材

(12.2.1)(表12.2.1)

3
造作用集成材

(12.2.1)

ホルムアルデヒド放散量
※標準仕様書12.1.1(9)のいずれかによる

・「製材の日本農林規格」による下地用製材

施工箇所	寸法(mm)	等級	含水率	保存処理
		※A級	※A種 ・B種	
		※2級	※A種 ・B種	

・「製材の日本農林規格」による造作用製材

施工箇所	寸法(mm)	等級	含水率	保存処理
見え掛り面		※上小節	※A種 ・B種	
見え掛り面以外		※小節以上	※A種 ・B種	
			※A種	

・「製材の日本農林規格」による広葉樹製材

施工箇所	寸法(mm)	等級	含水率	保存処理
		※1等	※10%以下 ・A種 ・B種	
		※1等	※10%以下	

・「製材の日本農林規格」以外の製材

施工箇所	寸法(mm)	材面の品質	含水率	防虫処理
		() 造作材の場合 (※A種 ・B種)	※A種 ・B種	・行う ・行わない
		() 造作材の場合 (※A種 ・B種)	※A種 ・B種	・行う ・行わない

・「集成材の日本農林規格」による造作用集成材

施工箇所	品名	樹種名	寸法(mm)	見付け材面	見付け材面の品質
					※1等 ・2等
					※1等 ・2等

・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり造作用集成材

施工箇所	品名	樹種名	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面	見付け材面の品質
		化粧薄板: 芯材:				※1等 ・2等
		化粧薄板: 芯材:				※1等 ・2等

4 造作用単板積層材

(12.2.1)(12.3.1)

5 合板等

(12.2.1)(12.3.2)

・「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	見付け材面の品質	含水率(%)
				※15以下 ・
				※15以下 ・

・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり造作用集成材

施工箇所	樹種名	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面の品質	含水率
	化粧薄板: 芯材:				※15以下 ・
	化粧薄板: 芯材:				※15以下 ・

・「単板積層材の日本農林規格」による造作用単板積層材

施工箇所	品名	寸法(mm)	表面の品質 (表面の化粧加工)	防虫処理
			・有り(加工: ・天然木化粧加工 ・塗装加工)	・行う ・行わない
			・無し(等級: ・1等 ・2等 ・3等)	

・「単板積層材の日本農林規格」以外の造作用単板積層材

施工箇所	寸法(mm)	表面の品質 (表面の化粧加工)	含水率	防虫処理
		・有り(加工: ・天然木化粧加工 ・塗装加工)	※14%以下 ・	・行う ・行わない
		・無し ()		

・CLT (直交集成板)

施工箇所	品名	強度等級	種別	接着性能 (使用環境)	樹種名	寸法(mm)

・「合板の日本農林規格」による普通合板

施工箇所	品名	厚さ(mm)	単板の樹種名	接合の程度	板面の品質	防虫処理
		※5.5 ・	※1類	広葉樹 ・1等 ※2等以上	・行う ・行わない	
		・	※2類	針葉樹 ※C-D以上 ・		

・「合板の日本農林規格」による構造用合板

施工箇所	品名	厚さ(mm)	等級	単板の樹種名	板面の品質	保存処理	防虫処理	強度等級
		※12 ・	・1級				・行う ・行わない	
		※12 ・	※2級以上		※C-D以上		・行う ・行わない	
		・	・1級		・適用する		・行う ・行わない	

接着の程度 常温湿潤状態となる場所での使用
※特類 ・
その他の場合
※1類以上 ・

・「合板の日本農林規格」による化粧ばり構造用合板

施工箇所	品名	厚さ(mm)	単板の樹種名	接合の程度	防虫処理
				・1類 ・2類	・行う ・行わない

・「合板の日本農林規格」による天然木化粧合板

施工箇所	化粧板に使用する 単板の樹種名	厚さ(mm)	接合の程度	防虫処理
			・1類 ・2類	・行う ・行わない

・「合板の日本農林規格」による特殊加工化粧合板

施工箇所	品目	厚さ(mm)	接合の程度	単板の樹種名	化粧加工の方法	防虫処理
			・1類 ・2類		・オーバーレイ ・プリント ・塗装	・行う ・行わない

・パーティクルボード

施工箇所	表裏面の状態 による区分	曲げ強さによる 区分	耐水性による 区分	難燃性による 区分	厚さ(mm)
		※13タイプ ・	※MR1(M)又は MR2(P)タイプ ・		※15 ・

・構造用パネル

施工箇所	品名	寸法(mm)

・MDF

施工箇所	厚さ(mm)	表裏面の状態 による区分	曲げ強さによる 区分	接着剤による 区分	難燃性による 区分

6 接合具等

(12.2.2)

7 防腐・防蟻処理

(12.2.2)(表12.2.3~表12.2.5)

8 間仕切軸組に用いる木材

(12.4.1)

9 床組に用いる木材

(12.4.1)

10 窓、出入口、その他に用いる木材

(12.5.1)

11 絶甲板及び上がまちに用いる木材

(12.6.1)

12 壁及び天井に用いる木材

(12.7.1)

13
屋根及びふた工事

①長尺金属板葺

(13.2.2)(13.2.3)(表13.2.1)

2 折板葺

(13.3.2)(表13.2.1)

造作材の化粧面の釘打ち
・適用する(※隠し釘打ち) ・適用しない
諸金物の形状、寸法及び材質
※標準仕様書12.2.2(2)(7)による
接着剤(木れんが用接着を含む)のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆

・薬剤による防腐・防蟻処理を省略できる樹種による製材
適用部材: ()

・工場における薬剤の加圧注入処理による防腐・防蟻処理
適用部材

適用部材	保存処理性能区分	
	・K2 ・K3 ・K4	・K2 ・K3 ・K4

・薬剤の塗布等による防腐・防蟻処理
適用部材

適用部材	処理の方法		薬剤の種類
	※薬剤の製造所の仕様による		

・薬剤の接着剤への混入による防腐・防蟻処理
適用部材: ()

・合板等の加圧注入処理等による防腐・防蟻処理
適用部材: ()

※(製材を用いる場合) 杉又は松 ・

※(製材を用いる場合) 杉又は松 ・

※(製材を用いる場合) 杉又は松 ・

※(製材を用いる場合) ひのき ・

※(製材を用いる場合) ひのき ・

※(製材を用いる場合) 杉又は松 ・

3 粘土瓦葺

(13.4.2)

①とい

(13.5.2)(表13.5.1)

5 ルーフドレイン

(13.5.2)

材料

施工箇所	種類			大きさ	産地	役物瓦の種類	雪止め瓦
	製法による区分	形状による区分	寸法による区分				

JIS A 5208 に基づく凍害試験 ・行う ・行わない
瓦葺本 材質 ※杉
寸法 ※幅21×高さ15(mm)以上
機械強用心材 材質 ※杉
寸法 ※幅40×高さ30(mm)以上
瓦葺結用釘又はねじ 種類
径
長さ
機械強等に使用する金物等 材質 ・ステンレス製
・溶融亜鉛めっき処理を行った鋼製
形状
寸法
留め付け方法

工法
建築基準法に基づき定まる風圧力又は地震力に対応した瓦の緊結方法などの工法
風圧力 ・図示による
地震力 ・図示による
・適用しない
瓦葺結用釘又はねじの有効長さの最小値 () mm
瓦葺木の留付け工法 ・図示による
様の工法 ・7寸丸伏せ様又はF型用冠瓦伏せ様
・のし積み様
面戸、雀口、葺土の露出する瓦接合部に仕上げを施す場合
・モルタルによる ・瓦葺き用しつくいによる

材料
・配管用鋼管 ②硬質ポリ塩化ビニル管(カラー)
・表面処理鋼板
・表面及び裏面の塗膜の種類 ()
・耐蝕被覆鋼板

とい受金物
とい受金物の材質、形状、取付け間隔
※標準仕様書 表13.5.2による
足金物の材質、形状、取付け間隔
※標準仕様書 表13.5.2による
・多雪地域の場合の軒といの取付間隔0.5m以下
・図示による
防震材のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆

工法
・鋼管製といの場合の防露巻きの工法
※標準仕様書 表13.5.4による

JCW 301によるルーフドレインの種類及び呼び

種 類		呼 び	施工箇所
・ろく屋根用たて形I型	ねじ込み式	・	
・ろく屋根用機形I型	ねじ込み式	・	
・バルコニー中継用	・ねじ込み式 ・差し込み式	・	
・バルコニー用	・ねじ込み式 ・差し込み式	・	
・		・	

工事名

美佐野加圧ポンプ場

更新工事

施工箇所名

御嵩町 美佐野 地内

図面の種類

ポンプ室
建築工事特記仕様書(5)

縮 尺

図面番号 A-5

事務所名

岐阜県御嵩町

16 建具工事へ 続き	9 ステンレス製建具	性能値等（建具符号は建具表による） （16.6.2） 耐風圧性等級、気密性等級、水密性等級 ・建具表による 外部に面する建具の耐風圧性（表16.2.1による） ・S-4 ・S-5 ・S-6 ・耐震ドアとする場合 面内変形追随性の等級（ ） ・防音ドア、防音サッシとする場合 遮音性の等級（ ） ・断熱ドア、断熱サッシとする場合 断熱性の等級（ ） ステンレス鋼板の種類 ※SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1 （16.6.3） 表面仕上げ ※H L ・鏡面仕上げ （16.6.4） ステンレス鋼板のくつりの仕上げ ※H L （16.6.4）（16.4.4） ステンレス鋼板の曲げ加工 ※普通曲げ ・角出し曲げ （16.6.5） 10 木製建具	建具材の加工、組立時の含水率 ※A種 ・B種 （16.7.2）（表16.7.1） 接着材のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ （16.7.2） 枠、くつずりの材料 ・建具表による （16.7.2） ・フラッシュ戸 （16.7.2）（表16.7.2） 表面材の合板の種類 <table><tr><th>合板の種類</th><th>表面材の品質等</th><th>備 考</th></tr><tr><td>・普通合板</td><td>接着の程度 ※水掛り箇所1類、その他2類以上 ・ 板面の品質 ※広葉樹1等 ・（ ）</td><td></td></tr><tr><td>・天然木化粧合板</td><td>接着の程度 ※水掛り箇所1類、その他2類以上 ・ ・（ ）</td><td></td></tr><tr><td>・特殊加工化粧合板</td><td>接着の程度 ※水掛り箇所1類、その他2類以上 ・ ・（ ）</td><td></td></tr><tr><td>・ミディアムデンシティ ファイバーボード （MDF）</td><td>表裏面の状態による区分（ ） 曲げ強さによる区分（ ） 接着剤による区分（ ） 難燃性による区分（ ） ・（ ）</td><td></td></tr></table> 表面材の材料のホルムアルデヒド放散量 ※標準仕様書16.7.2(f)(a)による 表面板の厚さ ※表16.7.6による （16.7.3） 引戸の定規縁 ・召し合せかまちをいんろう付きとする （16.7.4） ・かまち戸 （16.7.2）（表16.7.3）（表16.7.7） かまち樹種（ ） 鏡板樹種（ ） 見込み寸法 ※36mm ・建具表による ・ふすま （16.7.2）（表16.7.3）（表16.7.7）（表16.7.4）（表16.7.10） 種別、工法 ・Ⅰ型 ・Ⅱ型 上張り ・鳥の子 縁仕上 ・塗り縁 ・生地縁（素地） ・生地縁（ウレタンクリヤー塗装） 見込み寸法 ※19.5mm ・建具表による ・戸ぶすま （16.7.2）（表16.7.3）（表16.7.7）（表16.7.4） 表面材の種類、品質等（ ） 見込み寸法 ※30mm ・建具表による ・紙張り障子 （16.7.3）（表16.7.7） 見込み寸法 ※30mm ・建具表による	合板の種類	表面材の品質等	備 考	・普通合板	接着の程度 ※水掛り箇所1類、その他2類以上 ・ 板面の品質 ※広葉樹1等 ・（ ）		・天然木化粧合板	接着の程度 ※水掛り箇所1類、その他2類以上 ・ ・（ ）		・特殊加工化粧合板	接着の程度 ※水掛り箇所1類、その他2類以上 ・ ・（ ）		・ミディアムデンシティ ファイバーボード （MDF）	表裏面の状態による区分（ ） 曲げ強さによる区分（ ） 接着剤による区分（ ） 難燃性による区分（ ） ・（ ）		14 自閉式上吊り引戸装置	性能 （16.10.3） ※標準仕様書表16.10.11による ・図示による	15 重量シャッター	シャッターの種類 ・管理用シャッター（16.11.2） ・外壁用防火シャッター ・屋内用防火シャッター ・防護シャッター 外壁開口部に設ける重量シャッター 耐風圧強度（ ）pa 開閉方式の種類（標準仕様書 表16.11.1）（16.11.2） ・電動式（手動併用） ・手動式 安全装置の設置箇所（16.11.2） 急降下制動装置又は急降下停止装置の設置箇所 ・図示による 障害物感知装置の設置箇所 ・図示による 危害防止機構の設置箇所 ・図示による 管理用シャッターのシャッターケース（16.11.2） ・設ける ・設けない スラット及びシャッターケース用鋼板（16.11.3） 鋼板の種類 ・JIS G 3302（溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯） ・JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯） めっきの付着量 ※Z12又はF12 ステンレス鋼板の種類（16.11.3）（16.6.3） ※SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1 16 軽量シャッター	開閉形式 ※手動式 ・電動式（手動併用）（16.12.2）（表16.12.1） 耐風圧強度（ ）pa 電動式の場合の安全装置 障害物感知装置の設置箇所 ・図示による スラットの材質の種類（16.12.3） ・JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯） めっき付着量 ※Z06又はF06 ・JIS G 3322（塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯） めっき付着量 ※AZ90 スラットの形状 ・インターロック形状 ・オーバーラッピング形（16.12.4） 区分、材料（16.13.2）（表16.13.3） <table><tr><th>セクション材料 による区分</th><th>耐風圧 区分(Pa)</th><th>開閉方式 による区分</th><th>収納形式 による区分</th><th>ガイドレールの材質</th></tr><tr><td>※スチールタイプ ・アルミニウムタイプ ・ファイバーグラス タイプ</td><td>・125 ・100 ・75 ・50</td><td>※バランス式 ・チェーン式 ・電動式</td><td>・スタンダード形 ・ローヘッド形 ・ハイルフト形 ・パーチカル形</td><td>※溶融亜鉛めっき鋼板 ・ステンレス鋼板</td></tr></table> 電動式の場合の障害物感知装置の設置箇所 ・図示（ ） 適用は以下によるほか、ガラスの種類、厚さの組合せは建具表及び図示による。（16.14.2） ・フロート板ガラスの品質及び厚さの呼びによる種類 ・図示（※建具表 ）による ・型板ガラスの厚さによる種類 ・図示（※建具表 ）による ○納入板ガラス及び組入板ガラス 網又は縁の形状、板の表面の状態、厚さの呼びによる種類 ○図示（※建具表 ）による ・合わせガラス 材料板ガラスの種類、厚さの組合せ、合わせガラスの合計厚さ、特性による種類 ・図示（※建具表 ）による ・強化ガラス 形状による種類、材料板ガラスの種類による名称（呼び厚を含む）。特性による種類 ・図示（※建具表 ）による ・熱線吸収板ガラス 板ガラスによる種類、厚さによる種類、性能による種類 ・図示（※建具表 ）による ・複層ガラス 材料板ガラスの種類、厚さの組合せ、複層ガラスの厚さ、断熱性による区分、日射取得性及び日射遮蔽性による区分、乾燥気体の種類 ・図示（※建具表 ）による ・熱線反射ガラス 材料板ガラスの種類、厚さによる種類、日射熱遮へい性及び耐久性による区分 ・図示（※建具表 ）による ・倍強度ガラス 材料板ガラスの種類、厚さによる種類 ・図示（※建具表 ）による	セクション材料 による区分	耐風圧 区分(Pa)	開閉方式 による区分	収納形式 による区分	ガイドレールの材質	※スチールタイプ ・アルミニウムタイプ ・ファイバーグラス タイプ	・125 ・100 ・75 ・50	※バランス式 ・チェーン式 ・電動式	・スタンダード形 ・ローヘッド形 ・ハイルフト形 ・パーチカル形	※溶融亜鉛めっき鋼板 ・ステンレス鋼板	17 カーテンウォール工事	1 取付方法、性能等 性能 （17.1.3） 耐風圧性 <table><tr><th rowspan="2">耐風圧性</th><th colspan="2">耐震性</th><th rowspan="2">水密性</th><th rowspan="2">気密性</th><th rowspan="2">耐火性</th><th colspan="2">耐温度差性 (℃)</th><th rowspan="2">遮音性</th><th rowspan="2">断熱性</th></tr><tr><th>水平方向(kH)</th><th>垂直方向(kV)</th><th>・30分</th><th>・80</th></tr><tr><td></td><td>・1.0</td><td>・0.5</td><td></td><td></td><td>・1時間</td><td>・70</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> 性能の確認方法及び判定方法 ※性能の確認及び判定方法が確認できる適切な資料 ・ 適用は以下によるほか、カーテンウォール図による（17.2.2） 金属系材料の種類 ・アルミニウム材 ・鋼材 ・ステンレス鋼材 （アルミニウム材の場合） 規格等 標準仕様書16.2.31による 種別 ・ 着色 ・標準色 ・特注色 シーリング材（ガラスの取付けは除く）（17.2.2） 下表以外は標準仕様書 表9.7.1による <table><tr><th rowspan="2">被着体の組合せ</th><th colspan="2">シーリング材の種類</th></tr><tr><th>記 号</th><th>主成分による区分</th></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table> ガラスの取付け材料（17.2.2） ・シーリング（種類： ） ・構造ガスケット（材質、形状等 ・図示 ） 断熱材 種類（ ） 厚さ（mm）（ ） 施工箇所 ・図示による 形状及び仕上げ（17.2.3） 製品の寸法許容差 ※標準仕様書表17.2.11による 見え掛り部の仕上げ ガラス溝の寸法、形状等 ※カーテンウォールの製造所の仕様 取付け（17.2.5） 躯体付け金物の取付け位置の寸法許容差 ※標準仕様書 表17.2.2による ・図示による カーテンウォール部材の取付け位置の寸法許容差 ※標準仕様書 表17.2.31による ・図示による ガラスの取付け方法（17.2.6） 適用は以下によるほか、カーテンウォール図による（17.3.2） 材料 コンクリート 種類（ ） 品質 設計基準強度（F _o ） ※30N/mm ² スラップ ※12cm 気乾単位容積質量 ・普通コンクリートの場合 2.1t/m ³ を超え2.5t/m ³ 以下 ¹⁾ 単位水量の最大値 ※185kg/m ³ 鉄筋 種類記号 ※SD295 補強鉄線 径（mm） ・3.2 ・4.0 ・5.0 ・6.0 網目寸法 シーリング材（17.3.2） 下表以外は標準仕様書 表9.7.1による <table><tr><th rowspan="2">被着体の組合せ</th><th colspan="2">シーリング材の種類</th></tr><tr><th>記 号</th><th>主成分による区分</th></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table> ガラスの取付け材料（17.3.2） ・構造ガスケット（材質、形状等 ・図示 ） 耐火目地材 ・ 断熱材（17.3.2） 種類（ ） 厚さ（mm）（ ） 施工箇所 ・図示による 先付けの材料（17.3.2） ・先付け材料の仕上材 ・石材（ ・花こう岩 ・大理石 ） ・セラミックタイル ・ ・建具枠 ・ゴンドラ用ガイドレール	耐風圧性	耐震性		水密性	気密性	耐火性	耐温度差性 (℃)		遮音性	断熱性	水平方向(kH)	垂直方向(kV)	・30分	・80		・1.0	・0.5			・1時間	・70				被着体の組合せ	シーリング材の種類		記 号	主成分による区分							被着体の組合せ	シーリング材の種類		記 号	主成分による区分						
	合板の種類	表面材の品質等	備 考																																																																														
・普通合板	接着の程度 ※水掛り箇所1類、その他2類以上 ・ 板面の品質 ※広葉樹1等 ・（ ）																																																																																
・天然木化粧合板	接着の程度 ※水掛り箇所1類、その他2類以上 ・ ・（ ）																																																																																
・特殊加工化粧合板	接着の程度 ※水掛り箇所1類、その他2類以上 ・ ・（ ）																																																																																
・ミディアムデンシティ ファイバーボード （MDF）	表裏面の状態による区分（ ） 曲げ強さによる区分（ ） 接着剤による区分（ ） 難燃性による区分（ ） ・（ ）																																																																																
セクション材料 による区分	耐風圧 区分(Pa)	開閉方式 による区分	収納形式 による区分	ガイドレールの材質																																																																													
※スチールタイプ ・アルミニウムタイプ ・ファイバーグラス タイプ	・125 ・100 ・75 ・50	※バランス式 ・チェーン式 ・電動式	・スタンダード形 ・ローヘッド形 ・ハイルフト形 ・パーチカル形	※溶融亜鉛めっき鋼板 ・ステンレス鋼板																																																																													
耐風圧性	耐震性		水密性	気密性	耐火性	耐温度差性 (℃)		遮音性	断熱性																																																																								
	水平方向(kH)	垂直方向(kV)				・30分	・80																																																																										
	・1.0	・0.5			・1時間	・70																																																																											
被着体の組合せ	シーリング材の種類																																																																																
	記 号	主成分による区分																																																																															
被着体の組合せ	シーリング材の種類																																																																																
	記 号	主成分による区分																																																																															
17 建具用金物	① 建具用金物	金物の種類・見え掛り部の材質等 （16.8.2） ※標準仕様書表16.8.1及び適用（備考欄の特記事項も含め）は建具表による ・ 金属製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ ※標準仕様書表16.8.2による 樹脂製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ ※標準仕様書表16.8.3による 木製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ ※標準仕様書表16.8.4による 木製建具に使用する戸車及びレール ※標準仕様書表16.8.5による 廻り玉、レバーハンドル、押板類、クレセントの取付位置 （16.8.3） ・建具表による ○特記なき限りFL+1,000mm 18 鍵	マスターキー ○製作する ・製作しない（16.8.4） 鍵の製作本数 ※各室3本1組 13 自動ドア開閉装置	戸の開閉方式 ・図示による （16.9.2） 自動ドア開閉装置の性能値 駆動装置の性能 ※引き戸用駆動装置の場合、標準仕様書 表16.9.11による 防鎖の適用 ・適用する ・適用しない ・ 車椅子使用者用扉出入口の引き戸用駆動装置の性能 ※標準仕様書 表16.9.21による 防鎖の適用 ・適用する ・適用しない ・ 検出装置の性能 ※引き戸用検出装置の性能は標準仕様書 表16.9.31による 防鎖の適用 ・適用する ・適用しない ・ 引き戸用検出装置の種類は標準仕様書 表16.9.41による 種類 ・光線（反射）センサー ・熱線センサー ・音波センサー ・光電センサー ・電波センサー ・タッチスイッチ （ ・無線式タッチスイッチ ・光電式タッチスイッチ） ・押しボタンスイッチ ・車椅子使用者用スイッチ （ ・大形（開・閉）押しボタンスイッチ ・非接触スイッチ） 凍結防止措置（16.9.2） ・適用する ・適用しない	14 自閉式上吊り引戸装置	性能 （16.10.3） ※標準仕様書表16.10.11による ・図示による	15 重量シャッター	シャッターの種類 ・管理用シャッター（16.11.2） ・外壁用防火シャッター ・屋内用防火シャッター ・防護シャッター 外壁開口部に設ける重量シャッター 耐風圧強度（ ）pa 開閉方式の種類（標準仕様書 表16.11.1）（16.11.2） ・電動式（手動併用） ・手動式 安全装置の設置箇所（16.11.2） 急降下制動装置又は急降下停止装置の設置箇所 ・図示による 障害物感知装置の設置箇所 ・図示による 危害防止機構の設置箇所 ・図示による 管理用シャッターのシャッターケース（16.11.2） ・設ける ・設けない スラット及びシャッターケース用鋼板（16.11.3） 鋼板の種類 ・JIS G 3302（溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯） ・JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯） めっきの付着量 ※Z12又はF12 ステンレス鋼板の種類（16.11.3）（16.6.3） ※SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1 16 軽量シャッター	開閉形式 ※手動式 ・電動式（手動併用）（16.12.2）（表16.12.1） 耐風圧強度（ ）pa 電動式の場合の安全装置 障害物感知装置の設置箇所 ・図示による スラットの材質の種類（16.12.3） ・JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯） めっき付着量 ※Z06又はF06 ・JIS G 3322（塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯） めっき付着量 ※AZ90 スラットの形状 ・インターロック形状 ・オーバーラッピング形（16.12.4） 区分、材料（16.13.2）（表16.13.3） <table><tr><th>セクション材料 による区分</th><th>耐風圧 区分(Pa)</th><th>開閉方式 による区分</th><th>収納形式 による区分</th><th>ガイドレールの材質</th></tr><tr><td>※スチールタイプ ・アルミニウムタイプ ・ファイバーグラス タイプ</td><td>・125 ・100 ・75 ・50</td><td>※バランス式 ・チェーン式 ・電動式</td><td>・スタンダード形 ・ローヘッド形 ・ハイルフト形 ・パーチカル形</td><td>※溶融亜鉛めっき鋼板 ・ステンレス鋼板</td></tr></table> 電動式の場合の障害物感知装置の設置箇所 ・図示（ ） 適用は以下によるほか、ガラスの種類、厚さの組合せは建具表及び図示による。（16.14.2） ・フロート板ガラスの品質及び厚さの呼びによる種類 ・図示（※建具表 ）による ・型板ガラスの厚さによる種類 ・図示（※建具表 ）による ○納入板ガラス及び組入板ガラス 網又は縁の形状、板の表面の状態、厚さの呼びによる種類 ○図示（※建具表 ）による ・合わせガラス 材料板ガラスの種類、厚さの組合せ、合わせガラスの合計厚さ、特性による種類 ・図示（※建具表 ）による ・強化ガラス 形状による種類、材料板ガラスの種類による名称（呼び厚を含む）。特性による種類 ・図示（※建具表 ）による ・熱線吸収板ガラス 板ガラスによる種類、厚さによる種類、性能による種類 ・図示（※建具表 ）による ・複層ガラス 材料板ガラスの種類、厚さの組合せ、複層ガラスの厚さ、断熱性による区分、日射取得性及び日射遮蔽性による区分、乾燥気体の種類 ・図示（※建具表 ）による ・熱線反射ガラス 材料板ガラスの種類、厚さによる種類、日射熱遮へい性及び耐久性による区分 ・図示（※建具表 ）による ・倍強度ガラス 材料板ガラスの種類、厚さによる種類 ・図示（※建具表 ）による	セクション材料 による区分	耐風圧 区分(Pa)	開閉方式 による区分	収納形式 による区分	ガイドレールの材質	※スチールタイプ ・アルミニウムタイプ ・ファイバーグラス タイプ	・125 ・100 ・75 ・50	※バランス式 ・チェーン式 ・電動式	・スタンダード形 ・ローヘッド形 ・ハイルフト形 ・パーチカル形	※溶融亜鉛めっき鋼板 ・ステンレス鋼板	17 カーテンウォール工事	1 取付方法、性能等 性能 （17.1.3） 耐風圧性 <table><tr><th rowspan="2">耐風圧性</th><th colspan="2">耐震性</th><th rowspan="2">水密性</th><th rowspan="2">気密性</th><th rowspan="2">耐火性</th><th colspan="2">耐温度差性 (℃)</th><th rowspan="2">遮音性</th><th rowspan="2">断熱性</th></tr><tr><th>水平方向(kH)</th><th>垂直方向(kV)</th><th>・30分</th><th>・80</th></tr><tr><td></td><td>・1.0</td><td>・0.5</td><td></td><td></td><td>・1時間</td><td>・70</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> 性能の確認方法及び判定方法 ※性能の確認及び判定方法が確認できる適切な資料 ・ 適用は以下によるほか、カーテンウォール図による（17.2.2） 金属系材料の種類 ・アルミニウム材 ・鋼材 ・ステンレス鋼材 （アルミニウム材の場合） 規格等 標準仕様書16.2.31による 種別 ・ 着色 ・標準色 ・特注色 シーリング材（ガラスの取付けは除く）（17.2.2） 下表以外は標準仕様書 表9.7.1による <table><tr><th rowspan="2">被着体の組合せ</th><th colspan="2">シーリング材の種類</th></tr><tr><th>記 号</th><th>主成分による区分</th></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table> ガラスの取付け材料（17.2.2） ・シーリング（種類： ） ・構造ガスケット（材質、形状等 ・図示 ） 断熱材 種類（ ） 厚さ（mm）（ ） 施工箇所 ・図示による 形状及び仕上げ（17.2.3） 製品の寸法許容差 ※標準仕様書表17.2.11による 見え掛り部の仕上げ ガラス溝の寸法、形状等 ※カーテンウォールの製造所の仕様 取付け（17.2.5） 躯体付け金物の取付け位置の寸法許容差 ※標準仕様書 表17.2.2による ・図示による カーテンウォール部材の取付け位置の寸法許容差 ※標準仕様書 表17.2.31による ・図示による ガラスの取付け方法（17.2.6） 適用は以下によるほか、カーテンウォール図による（17.3.2） 材料 コンクリート 種類（ ） 品質 設計基準強度（F _o ） ※30N/mm ² スラップ ※12cm 気乾単位容積質量 ・普通コンクリートの場合 2.1t/m ³ を超え2.5t/m ³ 以下 ¹⁾ 単位水量の最大値 ※185kg/m ³ 鉄筋 種類記号 ※SD295 補強鉄線 径（mm） ・3.2 ・4.0 ・5.0 ・6.0 網目寸法 シーリング材（17.3.2） 下表以外は標準仕様書 表9.7.1による <table><tr><th rowspan="2">被着体の組合せ</th><th colspan="2">シーリング材の種類</th></tr><tr><th>記 号</th><th>主成分による区分</th></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table> ガラスの取付け材料（17.3.2） ・構造ガスケット（材質、形状等 ・図示 ） 耐火目地材 ・ 断熱材（17.3.2） 種類（ ） 厚さ（mm）（ ） 施工箇所 ・図示による 先付けの材料（17.3.2） ・先付け材料の仕上材 ・石材（ ・花こう岩 ・大理石 ） ・セラミックタイル ・ ・建具枠 ・ゴンドラ用ガイドレール	耐風圧性	耐震性		水密性	気密性	耐火性	耐温度差性 (℃)		遮音性	断熱性	水平方向(kH)	垂直方向(kV)	・30分	・80		・1.0	・0.5			・1時間	・70				被着体の組合せ	シーリング材の種類		記 号	主成分による区分							被着体の組合せ	シーリング材の種類		記 号	主成分による区分																				
	セクション材料 による区分	耐風圧 区分(Pa)	開閉方式 による区分	収納形式 による区分	ガイドレールの材質																																																																												
※スチールタイプ ・アルミニウムタイプ ・ファイバーグラス タイプ	・125 ・100 ・75 ・50	※バランス式 ・チェーン式 ・電動式	・スタンダード形 ・ローヘッド形 ・ハイルフト形 ・パーチカル形	※溶融亜鉛めっき鋼板 ・ステンレス鋼板																																																																													
耐風圧性	耐震性		水密性	気密性	耐火性	耐温度差性 (℃)		遮音性	断熱性																																																																								
	水平方向(kH)	垂直方向(kV)				・30分	・80																																																																										
	・1.0	・0.5			・1時間	・70																																																																											
被着体の組合せ	シーリング材の種類																																																																																
	記 号	主成分による区分																																																																															
被着体の組合せ	シーリング材の種類																																																																																
	記 号	主成分による区分																																																																															
18 塗装工事	①材料 ②素地ごしらえ ③錆止め塗料塗り ④塗装 ⑤養生 ⑥下塗り ⑦上塗り ⑧仕上げ ⑨保護 ⑩清掃 ⑪養生 ⑫養生 ⑬養生 ⑭養生 ⑮養生 ⑯養生 ⑰養生 ⑱養生 ⑲養生 ⑳養生 ㉑養生 ㉒養生 ㉓養生 ㉔養生 ㉕養生 ㉖養生 ㉗養生 ㉘養生 ㉙養生 ㉚養生 ㉛養生 ㉜養生 ㉝養生 ㉞養生 ㉟養生 ㊱養生 ㊲養生 ㊳養生 ㊴養生 ㊵養生 ㊶養生 ㊷養生 ㊸養生 ㊹養生 ㊺養生 ㊻養生 ㊼養生 ㊽養生 ㊾養生 ㊿養生	①材料 ②素地ごしらえ ③錆止め塗料塗り ④塗装 ⑤養生 ⑥下塗り ⑦上塗り ⑧仕上げ ⑨保護 ⑩清掃 ⑪養生 ⑫養生 ⑬養生 ⑭養生 ⑮養生 ⑯養生 ⑰養生 ⑱養生 ⑲養生 ⑳養生 ㉑養生 ㉒養生 ㉓養生 ㉔養生 ㉕養生 ㉖養生 ㉗養生 ㉘養生 ㉙養生 ㉚養生 ㉛養生 ㉜養生 ㉝養生 ㉞養生 ㉟養生 ㊱養生 ㊲養生 ㊳養生 ㊴養生 ㊵養生 ㊶養生 ㊷養生 ㊸養生 ㊹養生 ㊺養生 ㊻養生 ㊼養生 ㊽養生 ㊾養生 ㊿養生	①材料 ②素地ごしらえ ③錆止め塗料塗り ④塗装 ⑤養生 ⑥下塗り ⑦上塗り ⑧仕上げ ⑨保護 ⑩清掃 ⑪養生 ⑫養生 ⑬養生 ⑭養生 ⑮養生 ⑯養生 ⑰養生 ⑱養生 ⑲養生 ⑳養生 ㉑養生 ㉒養生 ㉓養生 ㉔養生 ㉕養生 ㉖養生 ㉗養生 ㉘養生 ㉙養生 ㉚養生 ㉛養生 ㉜養生 ㉝養生 ㉞養生 ㉟養生 ㊱養生 ㊲養生 ㊳養生 ㊴養生 ㊵養生 ㊶養生 ㊷養生 ㊸養生 ㊹養生 ㊺養生 ㊻養生 ㊼養生 ㊽養生 ㊾養生 ㊿養生	①材料 ②素地ごしらえ ③錆止め塗料塗り ④塗装 ⑤養生 ⑥下塗り ⑦上塗り ⑧仕上げ ⑨保護 ⑩清掃 ⑪養生 ⑫養生 ⑬養生 ⑭養生 ⑮養生 ⑯養生 ⑰養生 ⑱養生 ⑲養生 ⑳養生 ㉑養生 ㉒養生 ㉓養生 ㉔養生 ㉕養生 ㉖養生 ㉗養生 ㉘養生 ㉙養生 ㉚養生 ㉛養生 ㉜養生 ㉝養生 ㉞養生 ㉟養生 ㊱養生 ㊲養生 ㊳養生 ㊴養生 ㊵養生 ㊶養生 ㊷養生 ㊸養生 ㊹養生 ㊺養生 ㊻養生 ㊼養生 ㊽養生 ㊾養生 ㊿養生	①材料 ②素地ごしらえ ③錆止め塗料塗り ④塗装 ⑤養生 ⑥下塗り ⑦上塗り ⑧仕上げ ⑨保護 ⑩清掃 ⑪養生 ⑫養生 ⑬養生 ⑭養生 ⑮養生 ⑯養生 ⑰養生 ⑱養生 ⑲養生 ⑳養生 ㉑養生 ㉒養生 ㉓養生 ㉔養生 ㉕養生 ㉖養生 ㉗養生 ㉘養生 ㉙養生 ㉚養生 ㉛養生 ㉜養生 ㉝養生 ㉞養生 ㉟養生 ㊱養生 ㊲養生 ㊳養生 ㊴養生 ㊵養生 ㊶養生 ㊷養生 ㊸養生 ㊹養生 ㊺養生 ㊻養生 ㊼養生 ㊽養生 ㊾養生 ㊿養生																																																																												

19 内装工事	1 接着剤	接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ 施工箇所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合の ゴム床タイル用接着剤の主成分による区分 ・ 図示による 下地の施工 標準仕様書19.2.3(1) (7)から(9)以外の下地の工法 ・ 図示による	2 ビニル床シート	材料 種類 色柄 厚さ (mm) 備考 ※FS (複層ビニル床シート) ・ 厚さ ※2.0	3 ビニル床タイル	材料 種類 色柄 寸法 (mm) 厚さ (mm) 備考 ※KT (コンポジションビニル床タイル) ・ TT (単層ビニル床タイル) ・ FT (複層ビニル床タイル) ・ FOA (置敷きビニル床タイル) ・ FOB (薄型置敷きビニル床タイル)	4 特殊機能床	材料 シート・タイル種別 種 類 性能 厚さ、寸法、形状 (mm) ・ 帯電防止床シート 厚さ： ・ 帯電防止床タイル 寸法： 厚さ： ・ 視覚障害者用床タイル 形状： ・ 耐動荷重性床シート 厚さ： ・ 防滑性床シート 厚さ： ・ 防滑性床タイル 寸法： 厚さ：	5 ビニル幅木	材質 ・ 軟質 ・ 硬質 高さ (mm) ※60 ・ 70 ・ 100 厚さ (mm) ※1.5以上	6 ゴム床タイル	種類 ・ 単層品 ・ 複層品 色柄 () 厚さ (mm) ・ 3.0 ・ 4.5 ・ 6.0 ・ 9.0 寸法 (mm) ()	7 カーペット敷き	・ 織じゅうたん 織り方 バイル形状 帯電性 備 考 ・ ウィルトンカーペット ・ カットバイル ・ 適用する ・ ダブルフェスカーペット ・ ループバイル ・ 適用しない ・ アキスミンスターカーペット ・ カット・ループ併用 色柄、バイル系の種類等 ※色柄は模様のない無地のもの 種 別 ・ A種 ・ B種 ・ C種 下敷き材 ※反毛フェルト (JIS L 3204) の第2種1号 呼び厚さ8mm 見切り、押え金物 ・ 適用する (材質、形状等 ・ 図示 ・) ・ 適用しない 織じゅうたんの接合方法 ※ヒートボンド工法 ・ タフテッドカーペット バイル形状 バイル長 (mm) 工 法 帯電性 備 考 ・ カットバイル ・ ・ ・ グリッパ―工法 ・ 適用する ・ ループバイル ・ ・ ・ 全面接着工法 ・ 適用しない ・ カット、ループ併用 ・ ・ ・ ・ ・ 下敷き材 (グリッパ―工法の場合) ※JIS L 3204 (反毛フェルト) の第2種1号 呼び厚さ8mm 見切り、押え金物 ・ 適用する (材質、形状等 ・ 図示 ・) ・ 適用しない ・ タイルカーペット 種類 バイル形状 寸法 (mm) 総厚さ (mm) 施工箇所 備考 ※第一種 ※ループバイル ※500×500 ※6.5 ・ 第二種 ・ ・ ・ ・ 第一種 ※500×500 ※6.5 ・ 第二種 ・ カットバイル ・ ・ ・ 第一種 ※500×500 ※6.5 ・ 第二種 ・ カット、ループ併用 ・ ・ 見切り、押え金物 ・ 適用する (材質、形状等 ・ 図示 ・) ・ 適用しない タイルカーペットの敷き方 平場 ※市松敷き ・ 模様流し ・ 階段部分 ※模様流し ・ 市松敷き ・ 合成樹脂塗床材のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ 種類 (19.4.2) (19.4.3) (表19.4.1～8) 種 類 工 法 仕上げの種類 施工箇所 ・ 厚膜型塗床材 (弾性か/樹脂系塗床材) ※平滑仕上げ ・ 防滑仕上げ ・ つや消し仕上げ ・ 厚膜型塗床材 (エポキシ樹脂塗床材) ・ 薄膜流しのべ工法 ・ 平滑仕上げ ・ 厚膜流しのべ工法 ・ 防滑仕上げ ・ 樹脂t外工法 ・ 薄膜型塗床材 (エポキシ樹脂塗床材) ※平滑仕上げ ・ ・	8 フローリング張り	フローリングのホルムアルデヒド放散量 ※標準仕様書19.5.2(2)による 単層フローリング (19.5.2～19.5.5) 種 類 工 法 樹種 厚さ及び大きさ ・ フローリングボード1等 ・ 釘留め工法 (根太張り) ・ ※標準仕様書19.5.1による ・ ・ 釘留め工法 (直張り) ・ ※標準仕様書19.5.3による ・ 接着工法 ・ ※標準仕様書19.5.5による ・ ・ フローリングブロック1等 ・ 接着工法 ・ ・ 複合フローリング (19.5.2～19.5.5) 種 類 工 法 樹種 厚さ及び大きさ ・ 複合フローリング (天然木化粧) ・ 釘留め工法 (根太張り) ・ ※標準仕様書19.5.2による ・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ 釘留め工法 (直張り) ・ ※標準仕様書19.5.4による ・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ 接着工法 ・ ※標準仕様書19.5.6による ・ A種 ・ B種 ・ C種 接着工法の場合の不陸補修材 ※合成樹脂発泡シート 種別 (19.6.2) (表19.6.1) ・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種 (置床： ・ KT-I ・ KT-II ・ KT-III ・ KT-K ・ KT-N) ・ 衝撃緩和型畳 畳表 (JIS A 5902) ・ C1 ・ C2 材料 (19.7.2) (表19.7.1) 規格名称 種 類 厚さ (mm) 木質系セメント板 ・ 硬質木セメント板 ・ 15 ・ 20 ・ 25 ・ ・ 中質木セメント板 ・ 15 ・ 20 ・ 25 ・ ・ 普通木セメント板 ・ 16 ・ 20 ・ 25 ・ ・ 硬質木片セメント板 ・ 12 ・ 15 ・ 18 ・ 21 ・ ・ 普通木片セメント板 ・ 30 ・ 繊維強化セメント板 ・ けい酸カルシウム板 472 (無石棉) ・ 6 ・ 8 火山性ガラス質複層板 (VSボード) ・ 火山性ガラス質複層板 ・ ・ ・ ミディアムデンシティファイバーボード (MDF) ・ 3 ・ 7 ・ 9 ・ 12 ・ ・ ハードボード (素地) ・ 無研磨板 (・ スタンダード ・ テンパード) ・ 研磨板 (・ スタンダード ・ テンパード) ・ 2.5 ・ 3.5 ・ 5 ・ 7 ・ ハードボード (化粧) ・ 内装用 ・ 外装用 ・ 2.5 ・ 3.5 ・ 5 ・ 7 ・ インシュレーションボード A級 (・ 天井仕上 ・ 内装仕上 ・) ・ 9 ・ 12 ・ 15 ・ 18 ・ 単板張りパーティクルボード ・ 無研磨板 ・ 研磨板 ・ 10 ・ 12 ・ 15 ・ 18 ・ ・ 単板オーバレイ ・ プラスチックオーバレイ ・ 塗装 ・ 10 ・ 12 ・ 化粧パーティクルボード 吸音材料 ・ ロックウール化粧吸音板 ・ フラットタイプ (・ 9 (不燃) ・ 12 (不燃) ・) ・ 凹凸タイプ (・ 9 (不燃) ・ 12 (不燃) ・) ・ ロックウール吸音ボード1号 ・ ロックウール吸音ボード32K ・ 25 ・ ・ 25 (ガラスクロス包) ・ ・ セっこうボード ・ 12.5 (不燃) ・ 15 (不燃) ・ ・ 不燃積層セっこうボード ・ 化粧無 (下地張り用) ・ 化粧有 (トラバーチン模様) ・ 9.5 (不燃) ・ ・ シーディングセっこうボード ・ 12.5 (不燃) ・ ・ 強化セっこうボード ・ 12.5 (不燃) ・ 15 (不燃) ・ セっこうラスボード ・ 9.5 ・ ・ 化粧セっこうボード (木目) ・ 模様の ・ 板目 ・ 板目 ・ 専用下地材有り ・ 12.5 (不燃) 幅440mm程度 ・ 化粧セっこうボード (トラバーチン模様) ・ 9.5 (準不燃) MDF及びパーティクルボードのホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ ボード表面への化粧張仕上の有無 ・ 有り (種類：) ・ 天井のボードの重ね張りの張り付け方法 (ロックウール吸音板を除く) () セっこうボードの目地工法 (19.7.3) 種類 ・ 図示 (仕上表) による ・ セっこうボードのエッジの種類 (突付け工法、目差し工法の場合) ・ 図示による ・	9 畳敷き	種別 (19.6.2) (表19.6.1) ・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種 (置床： ・ KT-I ・ KT-II ・ KT-III ・ KT-K ・ KT-N) ・ 衝撃緩和型畳 畳表 (JIS A 5902) ・ C1 ・ C2 材料 (19.7.2) (表19.7.1) 規格名称 種 類 厚さ (mm) 木質系セメント板 ・ 硬質木セメント板 ・ 15 ・ 20 ・ 25 ・ ・ 中質木セメント板 ・ 15 ・ 20 ・ 25 ・ ・ 普通木セメント板 ・ 16 ・ 20 ・ 25 ・ ・ 硬質木片セメント板 ・ 12 ・ 15 ・ 18 ・ 21 ・ ・ 普通木片セメント板 ・ 30 ・ 繊維強化セメント板 ・ けい酸カルシウム板 472 (無石棉) ・ 6 ・ 8 火山性ガラス質複層板 (VSボード) ・ 火山性ガラス質複層板 ・ ・ ・ ミディアムデンシティファイバーボード (MDF) ・ 3 ・ 7 ・ 9 ・ 12 ・ ・ ハードボード (素地) ・ 無研磨板 (・ スタンダード ・ テンパード) ・ 研磨板 (・ スタンダード ・ テンパード) ・ 2.5 ・ 3.5 ・ 5 ・ 7 ・ ハードボード (化粧) ・ 内装用 ・ 外装用 ・ 2.5 ・ 3.5 ・ 5 ・ 7 ・ インシュレーションボード A級 (・ 天井仕上 ・ 内装仕上 ・) ・ 9 ・ 12 ・ 15 ・ 18 ・ 単板張りパーティクルボード ・ 無研磨板 ・ 研磨板 ・ 10 ・ 12 ・ 15 ・ 18 ・ ・ 単板オーバレイ ・ プラスチックオーバレイ ・ 塗装 ・ 10 ・ 12 ・ 化粧パーティクルボード 吸音材料 ・ ロックウール化粧吸音板 ・ フラットタイプ (・ 9 (不燃) ・ 12 (不燃) ・) ・ 凹凸タイプ (・ 9 (不燃) ・ 12 (不燃) ・) ・ ロックウール吸音ボード1号 ・ ロックウール吸音ボード32K ・ 25 ・ ・ 25 (ガラスクロス包) ・ ・ セっこうボード ・ 12.5 (不燃) ・ 15 (不燃) ・ ・ 不燃積層セっこうボード ・ 化粧無 (下地張り用) ・ 化粧有 (トラバーチン模様) ・ 9.5 (不燃) ・ ・ シーディングセっこうボード ・ 12.5 (不燃) ・ ・ 強化セっこうボード ・ 12.5 (不燃) ・ 15 (不燃) ・ セっこうラスボード ・ 9.5 ・ ・ 化粧セっこうボード (木目) ・ 模様の ・ 板目 ・ 板目 ・ 専用下地材有り ・ 12.5 (不燃) 幅440mm程度 ・ 化粧セっこうボード (トラバーチン模様) ・ 9.5 (準不燃) MDF及びパーティクルボードのホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ ボード表面への化粧張仕上の有無 ・ 有り (種類：) ・ 天井のボードの重ね張りの張り付け方法 (ロックウール吸音板を除く) () セっこうボードの目地工法 (19.7.3) 種類 ・ 図示 (仕上表) による ・ セっこうボードのエッジの種類 (突付け工法、目差し工法の場合) ・ 図示による ・	10 セっこうボード、その他ボード及び合板張り	11 壁紙張り	材料 (19.7.2) 種 類 規 格 防虫処理 ・ 普通合板 表板の樹種名 () 板面の品質 () 厚さ (mm) () ・ 天然木化粧合板 化粧板の樹種名 () 厚さ (mm) () ・ 特殊加工化粧合板 化粧加工の方法 ・ オーバレイ ・ プリント ・ 塗装 表面性能 () 厚さ (mm) () 合板のホルムアルデヒド放散量 ※標準仕様書19.7.2(2) (4)のいずれかによる 合板の張付け ・ A種 ・ B種 (19.7.3) (表19.7.3) ホルムアルデヒド放散量 (19.8.2) ※F☆☆☆☆ 種類 施工箇所 壁紙の種類 紙 繊維 プラスチック 無機質 塩化ビニル その他 防火性能 備考 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ 不燃 ・ 準不燃 ・ 難燃 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ 施工 (19.8.3) モルタル面及びプラスター面の吸込止めの塗布等の素地ごしらえ ※B種 ・ A種 (表18.2.4) コンクリート面の吸込止めの塗布等の素地ごしらえ ※B種 ・ A種 (表18.2.5) セっこうボード面の素地ごしらえ及び けい酸カルシウム板面の吸込止めの塗布等の素地ごしらえ ※B種 ・ A種 (表18.2.7) ・ 断熱材打込み工法 (19.9.3) 種 類 厚さ (mm) 施工箇所 断熱材名 種類 (記号) ・ ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材 ・ ・ 押出法ポリスチレンフォーム断熱材 (スキン層なし) ・ ・ 硬質ウレタンフォーム断熱材 ・ ・ フェノールフォーム断熱材 ・ フェノールフォームを使用した断熱材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ ・ 断熱材現場発泡工法 (19.9.4) 断熱材の種類 ※A種I ・ A種IH ・ 吹付け厚さ (mm) ・ 25 ・ 30 ・ 施工箇所 ・ 図示による ・	12 断熱材	20 ニュートン及びその他の工事	1 フリーアクセスフロア	材料等 (20.2.2) 施工箇所 構 造 寸法 (mm) 高さ (mm) 耐震性能 所定荷重 表面仕上げ材 備 考 ・ 支柱調整式 ・ 500×500 ・ 1.0G ・ 3.000N ・ 帯電防止床タイル ・ 置台式 ・ 0.6G ・ 5.000N ・ タイルカーペット 帯電防止性能 ・ U値 (クラス1) ・ U値 (クラス2) 漏えい抵抗 ・ R≧1×10 2 耐荷重性能、耐衝撃性能、ローリングロード性能、耐燃焼性能の試験方法 ※標準仕様書20.2.2(2) (4)による 寸法精度 ※標準仕様書20.2.2(2) (4)による 材料等 (20.2.3) 構造形式による種類 構成基材の種類 パネル表面仕上げ 遮音性能 (dB/500Hz) スタッド パネル ・ スタッド式 (内蔵) ・ メラミン樹脂焼付又はアクリル樹脂焼付け ・ スタッド式 (露出) ・ 壁紙張り ・ スタッドパネル式 ・ パネル式 パネル内に取付ける建具 ・ あり (寸法及び形状 ・ 図示 ・) なし パネルの材料のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ 材料等 (20.2.4) 操作方法による種類 圧縮装置の操作方法 パネル表面材 遮音性 (dB/500Hz) 材質 仕上げ ・ 手動式 ・ ブッシュ式 ・ 鋼板 ・ 焼付塗装 ・ 36未満 ・ 電動式 ・ ハンドル式 ・ 壁紙張り ・ 36以上 ・ 部分電動式 ハンガーレールの取付け下地の補強 ・ 標準仕様書20.2.4(3) (9)による ・ 図示による パネルをランナーに取り付ける部品 ・ 標準仕様書20.2.4(3) (a)による ・ 図示による ハンガーレール ・ 標準仕様書20.2.4(3) (9)による ・ 図示による ランナー ・ 標準仕様書20.2.4(3) (a)による ・ 図示による あと施工アンカー ・ 使用する 種類： 材質： 寸法： ・ 使用しない 材料等 (20.2.5) パネル表面材の材質 脚部の種類 ドアエッジの材質 ・ メラミン樹脂系化粧板 ※縦木タイプ ・ ※製造所の仕様による ・ ポリエステル樹脂系化粧板 ・ ・ ・ アルミニウム製 ・ ・ ・ ステンレス製 ・ ・ ・ 表面材と同材 パネル材料のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ 2 可動間仕切	2 可動間仕切	3 移動間仕切	4 トイレブース	5 手すり	材料の種類 ・ (20.2.7) 仕上げ ・ 材料等 (20.2.7) 材 種 形 状 寸法 (mm) 取付け工法 ・ ステンレス製 (SUS 304) ・ ひも型 ・ ※接着工法 ・ 貴銅製押出型材 ・ タイプ型 ・ ・ 埋込み工法 ・ アルミニウム製押出型材 ・ 黒板及びホワイトボード (20.2.9) ・ 黒板 ※焼付け ・ 種類 ・ 鋼製黒板 ・ ほうろう黒板 ・ ホワイトボード () (20.2.9) ・ ホワイトボード () 取付箇所 () (20.2.10) 寸法 (mm) ・ 図示による ・ 厚さ (mm) ※5 ・ 9 表示 (20.2.11) ・ 衝突防止表示 形状、寸法 (・ 30φ) 材質 (・ ステンレス製) ・ 非常用進入口等の表示等 ※消防法に適合する市販品 室名札、ピクトグラフ、案内板等の形状寸法材質色、書体、印刷等の種別、取付け形式 ・ 図示による ・ (20.2.11) 10 タラップ (20.2.12) 材料の種類 ※ステンレス製 仕上げ ※研磨等の仕上げを行わない ・ 11 煙突ライニング (20.2.13) 煙突用成形ライニング材 適用安全使用温度 ・ ℃ 工法 () 12 ブラインド (20.2.12) 材料等 ・ 横形ブラインド 種類 ※ギア式 ・ コード式 ・ 操作棒式 幅、高さ ・ 図示による ・ スラットの幅 ※25mm 材質 スラット ※アルミニウム合金製 ・ ヘッドボックス ※鋼製 ・ ボトムレール ※鋼製 ・ ・ 縦形ブラインド 幅、高さ ・ 図示による ・ 開閉方式 ・ 片開き ・ 両開き 操作方法 ※2本操作コード方式 ・ 1本操作コード方式 スラットの材質 ・ 焼付け塗装仕上げのアルミスラット ・ 消防法で定める防火性能の表示がある特殊樹脂加工クロスラット スラットの幅 () mm 13 ロールスクリーン (20.2.15) 材料等 (20.2.16) (表20.2.1) 材 種 品 質 操作方式 幅、高さ 取付箇所 ・ ポリエステル ・ ・ 電動式 ・ 図示 ・ 図示 ・ ・ ・ スプリング式 ・ ・ ・ ・ ・ チェーン式 巻取りパイプ、ウェイトバー、操作コード又は操作チェーンその他の材料 ※製造所の仕様による 14 カーテン (20.2.16) (表20.2.1) 材料等 (20.2.16) (表20.2.1) 形 式 開閉操作 ひだの種類 生地の種類、品質、特殊加工等 取付箇所 備 考 ・ シングル ・ 片引き ・ 手引き ・ つまみひだ ・ ・ ・ ダブル ・ 引分け ・ ひも引き (三つ山ひだ、二つ山ひだ) ・ ・ ・ ・ ・ 電動 ・ 箱ひだ、片ひだ ・ ・ ・ ・ プレェンひだ 暗幕用カーテンの開端、上部及び召合せの重なり ※300mm以上 15 カーテンレール (20.2.16) 材料等 レール及びブラケットの強さによる区分 ※10-90 レールの材料による区分 ※アルミニウム及びアルミニウム合金の押出し成型材 ・ ステンレス製 レールの仕上げ ※アルマイト レールの形状 ※角形 カーテン付属物 フック (ひくるん) ※鋼製 ・ 樹脂製 補強鉄線の径及び網目寸法 ・ 図示による 製作 (20.2.3) コンクリートの設計基準強度 ※水セメント比55%以下、単位セメント量の最小値300kg/m ³ を満足する調合強度 ・ 図示による 配筋 ・ 図示による 取付け方法 (20.2.3) ・ 図示による 16 プレキャストコンクリート
------------	-------	--	-----------	--	-----------	--	---------	---	---------	--	----------	--	-----------	---	------------	--	-------	--	-------------------------	---------	--	--------	------------------	--------------	---	---------	---------	----------	-------	---

20 ユニット及びその他の工事へ続き

17	間知石及びコンクリート間知ブロック積み積み	材料等 (20. 4. 2)				
		材 料	材 種	種 類	質量区分	備 考
		・ 間知石	・ 花こう岩 ・ 凝灰岩	—	—	
		・ コンクリート間知ブロック	—		・ A ・ B	
		工法 (20. 4. 3)				
		積み方	※谷積み	・ 布積み		
		目塗り	・ 図示による	・		
		伸縮調整目地	材質	・ 図示による		
		厚さ	・ 図示による	・		
18	ブライドボックス及びカーテンボックス	溝幅×深さ (mm) ・ 90×150 ・ 120×80 ・ 120×150 ・ 150×80 ・ 図示による 材質 ・ 集成材 (仕上げ:) ・ アルミニウム製 押出し型材 (市販品) 種別 (標準仕様書表14. 2. 1) ・ BC-1種 ・ BC-2種 色合い ・ 標準色 () ・ 特注色 () ・ 鋼製 (仕上げ:)				
19	天井点検口	材 種	寸 法	形 式	外 枠	内 枠
		・ アルミニウム製 ・	・ 450×450 ・ 600×600 ・	・ 一般形 ・ ・	・ 屋内外用 ・ 屋内用 ・ 目地タイプ ・ 目地タイプ	・ 縦継タイプ ・ 縦継タイプ ・ 目地タイプ
20	床点検口	材 種	寸 法	形 式	備 考	
		・ アルミニウム製 ・ ステンレス製 ・ 鋼製	・ 450×450 ・ 600×600 ・	・ 一般形 ・ 密閉形 ・	・ 屋内外用 ・ 屋内用	・ 鍵付き
21	耐震スリット	方 向	タイプ	耐火性能	防水性能	備 考
		・ 垂直方法 ・ 水平方向	・ 完全 (全貫通型) ・	・ 耐火型 ・ 非耐火型	・ 有り ・ 無し	
		目地				
		目 地	内 壁		外 壁	
		目地材	・ シーリング材 (見え掛り部のみ) ・		・ シーリング材 (見え掛り部のみ) ・ シーリング材 (内外とも)	
		目地寸法 (mm)	・ 幅20×深さ10 ・		・ 幅20×深さ10 ・	
		目地材の材質は標準仕様書表9. 7. 2による				
22	止水板	形式	・ 差込式 ・ 据置式 ・ 壁張り式 施工箇所 ・ 図示による ・			
23	エキスパンションジョイント金物	材 種	クリアランス	耐火性能	備 考	
		・ アルミニウム製 ・ ステンレス製	・ 50 ・ 100 ・ 150 ・	・ 有り () ・ 無し		
		外部は防水型とする				
24	くつふきマット	材 種	受 け 枠		備 考	
		・ 塩化ビニル又はゴム製 ・ 硬質アルミニウム合金製 ・ ステンレス鋼 (SUS 304) 製 ・	・ ステンレス鋼 (SUS 304) ・ 硬質アルミニウム合金 ・			
25	流し台ユニット	材 種	寸 法 (mm)		備 考	
			W	D	H	
		・ 流し台	・ 1, 200 ・ 1, 500 ・ 1, 800	・ 550 ・ 600 ・ 650	・ 800 ・ 850	市販品 トラップ付き 天板ステンレス製
		・ コンロ台	・ 600	・ 550 ・ 600 ・ 650	・ 620 ・ 670	市販品 バックガード有り 天板ステンレス製
		・ つり戸棚	・ 1, 200 ・ 900	・ 450	・ 500 ・ 700	市販品
		・ 水切り	・ 1, 200 ・ 900 ・ 600	—	—	市販品 ステンレス製 ・ 1段式 ・
		品質・性能 JIS A 4420による 形状 ※図示による ・				
26	旗竿	材 質	形 式	高さ (m)	操作方法	固定方法 備 考
		・ アルミニウム合金製 ・	・ テーパー型 ・ 同一断面型		・ ハンドル式 ・ ロープ式	・ 埋込み式 ・ ベース式 ・ バンド式
27	旗竿受金物	材質 ・ ステンレス製 (SUS 304) ・				
28	車止め支柱	形 式	材 種	柱径・肉厚 (mm)	高さ (mm)	
		・ 上下式鎖内蔵型 ・	・ 標準品 ・ スプリング式 ・	・ ステンレス製 ・	・ ・	
29	フェンス	フェンスの種類 ・ ビニル被覆エキスパンドフェンス ・ 樹脂塗装メッシュフェンス ・ 鋼管フェンス ・ アルミフェンス 高さ ・ 図示による ・				
30	鋼製書架及び物品棚	種 類	規格等		耐荷量による種類	
		・ 鋼製書架 ・ 鋼製物品棚	JIS S 1039による		・ 1種 ・ 2種 ・ 3種 ・ 4種 ・ 5種 ・ 6種 ・	
31	屋内掲示板	枠の材質 ※アルミニウム製 表面の材質 ※塩ビ発泡シート張り ・				
32	洗面カウンター	材質 ・ メラミン樹脂化粧板張り (心材: 集成材) ・ 人工大理石 奥行き (mm) ・ 約450 ・ 約600				

33	防煙垂れ壁	・固定式						
		材 質	厚さ (mm)	高さ (mm)	備 考			
		※網入り磨き板ガラス ・ 網入り磨き板ガラス	※6.8 ・	※500 ・	アルミ製枠付き			
		・可動式						
		種 類	材 質	高さ (mm)	備 考			
		・ 垂直降下式 (巻取り型)	※不燃布 (不燃認定品)	※500 ・ 800	ガイドレール ※固定式 (壁埋込み型)			
		・ 回転降下式	鋼板製又はアルミ製	※500 ・ 800 ・	表面仕上げ ※天井材質張り ・			
降下機構 煙感知器連動及び手動開放装置 (埋込み型)								
34	収納家具	材質形状・寸法 ※図示による 合板・集成材・MDF、パーティクルボード等のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆						
35	屋外掲示板	照明器具 ※有り ・無し 施設 ※有り ・無し						
36	敷地境界石標	種類 ※コンクリートブロック製 (市販品) ・ 花こう石類 (文字記号等入り)						
1	屋外雨水排水	排水管用材料 (21.2.1) (表21.2.1)						
		材 種	種類・記号	形 状	呼び径	備 考		
		・ 遠心力鉄筋コンクリート管	外圧管 (1種)	・ B形管 ・	・ 図示 ・			
		・ 硬質ポリ塩化ビニル管	・ VP ・ VU ・ RS—VU		・ 図示 ・ 図示 ・ 図示			
		・ 硬質ポリ塩化ビニル管継手	・ DV ・ VU継手		・ 図示 ・ 図示			
		基礎の厚さ及び種類 ・ 図示による (21.2.2)						
		硬質ポリ塩化ビニル管の継手に用いる材料 ※接着剤 ・ ゴム輪 (21.2.2)						
		側地の形状及び寸法 ・ 図示による (21.2.1)						
		排水樹の種類 ・ 図示による (21.2.1)						
		砂地業に用いる材料 (21.2.1)						
		・ シルト ・ 山砂 ・ 川砂 ・ 砕砂						
		砂利地業に用いる材料 (21.2.1)						
		・ 再生クラッシュラン ・ 切込砂利 ・ 切込砕石						
		・ 現場打ちの場合のコンクリート材料 (21.2.1)						
		※普通コンクリート ・						
		設計基準強度 ※18N/mm ²						
		スランプ ※15cm又は18cm ・						
		・ 現場打ちの場合の鉄筋 種類の記号 ※SD295 (21.2.1)						
		凍上抑制層に用いる材料 ・ (21.2.1)						
		砂を用いる場合の粒度試験 ・ 行う ・ 行わない						
		・ 標準仕様書表21.2.2(6) (f) の排水樹を現場打ちとする場合の足掛け金物 (21.2.2)						
		・ 幅400mm、径22mmのステンレス製						
		・ 径22mmの防錆処理を行った鋼製						
		・ 径19mmの成樹脂被覆加工を行ったもの						
2	舗装製ふた	種類 (21.2.1)						
		名 称	種 類	適用荷重	壁	備 考		
		鉄線製マン ホールふた	・ 水封形 ・ 簡易密閉形 (バッキン式) ・ 密閉形 (テーパー・バッキン式) ・ 中ふた付き密閉形 (テーパー・バッキン式) ・	・ T—2用 ・ T—6用 ・ T—20用 ・	・ 有り ・ 無し	左記以外の品質等は (公社) 空気調和衛生 工学会SHASE—S209 による		
3	グレーチング	材料等 (21.2.1)						
		材 質	形 式	用 途	適用荷重	メインバー ピッチ	重給めつき (付着量)	上面形状
		・ 鋼製	・ 受枠付き、 ボルト固定 ・	・ 溝ふた (横断用) ・ 溝ふた (側溝用) ・ 樹ふた用 ・ U字溝用	・ 歩行用 ・ ・ T—2用 ・ T—6用 ・ T—14用 ・ T—20用	・ 細目 ・ 細目	・ () ・	・ 凹凸形 ・ ・ 平行 ・
		・ ステンレス 製	・ 受枠付き、 ボルト固定 ・	・ 溝ふた (横断用) ・ 溝ふた (側溝用) ・ 樹ふた用 ・ U字溝用	・ 歩行用 ・ ・ T—2用 ・ T—6用 ・ T—14用 ・ T—20用	・ ・	— —	・ 凹凸形 ・ ・ 平行 ・
4	街きよ、緑石、側溝	材料 (21.3.1) (表21.3.1)						
		種 類			形状、寸法			
		・ 緑石			・ 図示 ・			
		・ L形側溝			・ 図示 ・			
		・ U形側溝			・ 図示 ・			
		・ U形側溝ふた			・ 図示 ・			
		・			・ 図示 ・			
		砂地業の材料 (21.3.1)						
		・ シルト ・ 山砂 ・ 川砂 ・ 砕砂						
		砂利地業に用いる材料 (21.3.1)						
		・ 再生クラッシュラン ・ 切込砂利 ・ 切込砕石						
		砂利地業の厚さ ※100 (mm) ・ 図示による (21.3.2)						
		・ 現場打ちの場合のコンクリート材料 (21.3.1)						
		※普通コンクリート ・						
		設計基準強度 ※18N/mm ²						
		スランプ ※15cm又は18cm ・						
		・ 現場打ちの場合の鉄筋 種類の記号 ※SD295 (21.3.1)						
		凍上抑制層に用いる材料 ・ (21.3.1)						
		砂を用いる場合の粒度試験 ・ 行う ・ 行わない						
5	埋戻し土	※B種 (標準仕様書表3.2.1) ・ (21.2.1)						

22 舗装工事

1	路床	路床の材料 (22. 1. 3) (22. 2. 2) (22. 2. 3)						
	種 別		材 料		厚 さ (mm)			
	・盛土	標準仕様書 表3. 2. 1により ・A種 ・B種 ・C種 ・D種		・ 図示 ・				
	・凍上抑制層	※再生クラッシュラン ・クラッシュラン ・切込み砂利 ・砂		・ 図示 ・				
	透水性舗装に用いるフィルター層の厚さ ・ 図示による ・							
	路床安定処理 ・適用する ・適用しない (22. 2. 2) (22. 2. 3) 安定処理の方法 ・置き換え工法 ・安定処理工法 添加材料 (表22. 2. 1) 種類 ・普通ポルトランドセメント ・高炉セメントB種 ・フライアッシュセメントB種 ・生石灰 (・特号 ・1号) ・消石灰 (・特号 ・1号) 添加量を定めるために用いるCBR () (22. 2. 4)							
	試験 (22. 2. 5) 路床土の支持力比 (CBR) 試験 ・行う ・行わない 路床締固め度の試験 (現場密度) ・行う ・行わない 現場CBR 試験 ・行う ・行わない							
	2	路盤	路盤の厚さ ・ 図示による ・ (22. 3. 2) 路盤材料 ※再生クラッシュラン ・クラッシュラン ・粒度調整砕石 (表22. 3. 1) ※再生粒度調整砕石 ・クラッシュラン鉄鋼スラグ ・粒度調整鉄鋼スラグ ・水硬性粒度調整鉄鋼スラグ					
	アスファルト舗装		アスファルト舗装の構成及び厚さ ※図示による ・ (22. 4. 2) 材料 アスファルト ・再生アスファルト (・60～80 ・80～100) ・ストレートアスファルト					
	3	加熱アスファルト混合物の種類 (22. 4. 4) (表22. 4. 4)						
区 分		地 域		種 類				
表層		・一般地域		・密粒度アスファルト混合物 (13) ・細粒度アスファルト混合物 (13)				
		・寒冷地域		・密粒度アスファルト混合物 (13F)				
試験 アスファルト混合物等の抽出試験 ・行う ・行わない 舗装の平坦ん性 ※通行の支障となる水たまりを生じない程度 ・								
コンクリート舗装		コンクリート舗装の厚さ (22. 5. 2)						
4		舗装の種類		部 位	構 成	厚 さ (mm)		
		コンクリート舗装	歩行者用通路		・図示 ・	※70 ・図示		
			車路及び駐車場		・図示 ・	・図示 ・		
		材料 (22. 5. 3) コンクリート ※標準仕様書表22. 5. 1による ・ 図示による 早強ポルトランドセメント ・使用する ・使用しない 注入目地材料 ※低弾性タイプ ・高弾性タイプ 施工: 目地 (22. 5. 4) 種類、間隔、構造 ※標準仕様書表22. 5. 3及び図22. 5. 1による ・ 図示による (22. 5. 2) 舗装の平坦ん性 舗装の平坦ん性 ※通行の支障となる水たまりを生じない程度 ・						
	カラー舗装	・加熱系カラー舗装 (22. 6. 2) (22. 6. 3) (22. 6. 4) (表22. 6. 1) 構成・厚さ ・ 図示による ・ 表層に用いる加熱系混合物の結合材 ・アスファルト混合物 ・石油樹脂系混合物 顔料の添加量 (%) 加熱系混合物に添加する材料 ・着色骨材 () ・自然石 () アスファルト混合物の抽出試験 ・行う ・行わない (22. 6. 6)						
	5	・常温系カラー舗装 (22. 6. 2) (22. 6. 3) (22. 6. 4) (表22. 6. 1) 工法 ・ニート工法 ・塗布工法 着色部の下部 ・アスファルト舗装 ・コンクリート舗装 ニート工法及び塗布工法の配合等 ・ 舗装の平坦ん性 (22. 6. 6) ※通行の支障となる水たまりを生じない程度 ・						
		透水性 アスファルト舗装	舗装の構成 ※図示による ・ (22. 7. 2) 材料 (22. 1. 3) (22. 7. 3) アスファルト ※再生アスファルト (・60～80 ・80～100) ・ストレートアスファルト (22. 7. 6) 試験 (22. 7. 2) 開粒度アスファルト混合物等の抽出試験 ・行う ・行わない 舗装の平坦ん性 ※著しい不陸がないもの ・					
		ブロック系舗装	・コンクリート平板舗装 (22. 8. 2) (22. 8. 3)					
		7	種 類		寸法 (mm)	厚さ (mm)	目地材	
			※普通平板 (N) ・透水性平板 (P) ・保水性平板 (M)		・300角 ・	※60 ・	・砂 ・モルタル	
クッション材 ・砂 ・空線モルタル (22. 8. 2) 仕上がり面の平坦ん性 ※コンクリート平板間の段差3mm以内 ・ (22. 8. 2)								
・インターロッキングブロック舗装 (22. 8. 2) (22. 8. 3)								
種 類			部 位	形状、寸法	厚さ (mm)	曲げ強度 (N/mm ²)	色彩、表面加工等	
※普通ブロック (N) ・透水性ブロック (P) ・保水性ブロック (M)			車路 歩行者用通路	・図示 ・図示	※80 ※60	※5. 0 ※3. 0	・標準品 ・	
インターロッキングブロックの割付け ・ 図示による ・ (22. 8. 4) 仕上がり面の平坦ん性 ※コンクリート平板間の段差3mm以内 ・ (22. 8. 2)								
・舗石舗装 (22. 8. 2) (22. 8. 3)								
種 類			形状、寸法	厚さ (mm)	割付け	基層 (mm)		
・小舗石 (花崗岩) ・			・ 図示 ・	・80 ・	・ 図示 ・	・コンクリート舗装 (※70 ・) ・アスファルト混合物 (※50 ・)		
クッション材 ・砂 ・空線モルタル (22. 8. 2) 舗石の割付け ・ 図示による ・ (22. 8. 4) 仕上がり面の平坦ん性 ※コンクリート平板間の段差3mm以内 ・ (22. 8. 2)								

8	砂利敷き	種別 通路 ※A種 ・図示による 建築物周囲その他 ※B種 ・図示による () ・	(22. 9. 2) (表22. 9. 1)
23	植栽及び屋上緑化工事	1 植栽地の確認等 2 植栽基盤の整備 3 植込み用土 4 土壌改良材 5 樹木 6 支柱 7 幹巻き用材料 8 芝 9 吹付けは種 10 地被類 11 新植、移植樹木、芝等の枯保証 12 屋上緑化	土壌の水素イオン濃度指数 (pH) 試験 ・行う ・行わない 電気伝導度 (EC) の試験 ・行う ・行わない (23. 1. 3) 整備内容 (23. 2. 2) (表23. 2. 1) (表23. 2. 2) 種類、指定量 ・バーク堆肥 施工箇所 ・植栽範囲 ・図示による 指定量 植栽基盤面積1㎡あたり (・ L ・) ・汚泥発酵肥料 (下水汚泥コンポスト) 施工箇所 ・植栽範囲 ・図示による 指定量 植栽基盤面積1㎡あたり (・ L ・) 樹種、寸法、株立数 ・図示による ・ 刈込みものの適用 ・適用する (数量:) ・適用しない 支柱材の種類 ※丸太 (間伐材) ・真竹 ・ 防腐処理方法 ※加圧式防腐処理丸太材 ・ 形式 ・添え柱形 ・鳥居形 ・ハツ掛け形 ・布掛け形 ・ワイヤ掛け形 地下埋設形 材料 ※幹巻き用テープ ・わら ・こも 種類 ※コウライシバ ・ノシバ 芝張りの工法 平地 ※目地張り ・べた張り 法面 ・目地張り ※べた張り 種類等 種子の種類 種子の量 (g/㎡) 備 考 ※洋芝類 ・ ・ 種類等 植物の種類 芽立数 径 単位面積当たりの株数 ・ ・ ・ ・ ・ ・ 新植樹木の枯補償の期間 (芝張り、吹付けは種及び地被類を含む) (23. 3. 4) (23. 4. 7) ※引渡しの日から1年 ・ ・無し 移植樹木の枯損処理を行う期間 (23. 3. 6) ・引渡しの日から1年 ・ ・無し 植栽基盤及び材料 (23. 5. 2) (23. 5. 3) ・屋上緑化システム 土壌層の厚さ ・図示による ・ 排水層 ・軽量骨材 (層の厚さ:) ・板状成形品 植込み用土 ※改良土 ・人口軽量土 ・屋上緑化軽量システム 樹木、芝及び地被類 (23. 5. 3) 樹種、寸法、株立数 ・図示による ・ 刈込みものの適用 ・適用する (数量:) ・適用しない 見切り材、舗装材、水抜き管、マルチング材等 ・図示による ・ 工法 (23. 5. 4) 平成12年建設省告示第1458号に基づく風圧力に対応した工法 ・図示による ・ 支柱 ・設置する (形式 ・図示 ・) (23. 5. 4) かん水装置 ・設置する (種類 ・図示 ・) (23. 5. 4)

工 事 名	美佐野加圧ポンプ場		
	更新工事		
施工箇所名	御嵩町 美佐野 地内		
図面の種類	ポンプ室 建築工事特記仕様書 (9)		
縮 尺	—	図面番号	A-9
事務所名	岐阜県御嵩町		

工 事 名	美佐野加圧ポンプ場	
	更新工事	
施工箇所名	御嵩町 美佐野 地内	
図面の種類	ポンプ室 建築工事特記仕様書(9)	
縮 尺	——	図面番号 A-9
事務所名	岐阜県御嵩町	

工事区分一覧表（工事区分の記載事項については区分が不明確になる恐れのあるものについて記入する。）																				
NO	項 目	場 所	建築工事	建築機械 設備工事	建築電気 設備工事	土木工事	プラント機械 設備工事	プラント電気 設備工事	備 考	NO	項 目	場 所	建築工事	建築機械 設備工事	建築電気 設備工事	土木工事	プラント機械 設備工事	プラント電気 設備工事	備 考	記 載 項 目 例
1	土工事（埋め戻し・盛土）		○							3 2										・ 躯体 ・ ポーチ
2	地業工事 （砕石・捨コンクリート）		○							3 3										・ 捨コン ・ 客 土
3	躯体		○							3 4										・ 砂利地業 ・ 足洗場
4	スリーブ・箱抜		○							3 5										・ 止水板 ・ スロープ
5	仕上（内外装特記なき限り）	全て	○							3 6										・ スリーブ ・ 床流し
6	床無筋コンクリート	1階 ポンプ室					○			3 7										・ 箱 抜 ・ 花 壇
7	側溝（勾配用モルタル共）	1階 ポンプ室					○			3 8										・ 仕 上 ・ 流し台
8	自在ドレイン	屋根	○							3 9										・ 取合差筋 ・ コンロ台
9	竖樋（カラーV P管）	外部	○							4 0										・ マンホール蓋 ・ 水切棚
1 0	雨水排水（雨水枡への接続）	外部				○				4 1										・ ハンドホール ・ 吊戸棚
1 1										4 2										・ タラップ ・ 浴 槽
1 2										4 3										・ ホイストレール ・ スノコ
1 3										4 4										・ 受枠及蓋 ・ バランス釜
1 4										4 5										・ ドレーン ・ 防火パン
1 5										4 6										・ 樋 ・ 安全水槽
1 6										4 7										・ 換気扇取付枠 ・ フード
1 7										4 8										・ 床排水目皿 ・ 配管トラフ
1 8										4 9										・ 連通管 ・ 配管ビット
1 9										5 0										・ トップライト
2 0										5 1										・ ルーフファン
2 1										5 2										・ 防液堤
2 2										5 3										・ 床無筋コンクリート
2 3										5 4										・ 床仕上
2 4										5 5										・ 機械基礎及差筋
2 5										5 6										・ 階段室及び段ウラ
2 6										5 7										・ 側 溝
2 7										5 8										・ グレーチング
2 8										5 9										・ 手 摺
2 9										6 0										・ 雨水枡
3 0										6 1										・ 笠 木
3 1										6 2										・ ノンスリップ

工 事 名	美佐野加圧ポンプ場		
	更新工事		
施工箇所名	御嵩町 美佐野 地内		
図面の種類	ポンプ室 工事区分一覧表		
縮 尺	――	図面番号	A-10
事務所名	岐阜県御嵩町		

建 築 概 要	
建 物 名	ポンプ棟
敷 地 面 積	2 5 4㎡
構 造・規 模	R C造 地上1階
建 築 面 積	1 5 . 9 1㎡
延 べ 面 積	1 5 . 9 1㎡
軒 高 さ	3 . 0 3m
最高の高さ	3 . 8 3m

地 域 ・ 地 区				
審査項目		法令条項		該当事項
		法	令	
都市計画法	都市計画区域・準都市計画	5 5-2		都市計画区域内
	区域区分	7		区域区分非設定（非線引き）区域
	地区計画	8		該当なし
建築基準法	敷地等と道路の関係	43		法42条1項1号に接道
	用途地域	48		指定なし
	容積率	52		200%
	建べい率	53		60%
	高さ制限	斜線制限	56	道路、隣地
		日影規制	56の2	平均地盤面からの高さ 4 . 0m、5時間／3時間
	防火・準防火地域内の建築物	61		指定なし

建 築 基 準 法 （令）					
審査項目		法令条項		チェック	判定
		法	令		
防火・準耐火構造等	地域・規模による構造制限	61	136の2	防火地域 ― 階数（ ） 延べ面積（ ㎡） 構 造（ ） [階数3以上又は延べ面積100㎡を超えるもの 耐火] [階数2以下かつ延べ床面積100㎡以下のもの 耐火又は準耐火] 準防火地域 ― 階数（ ） 延べ面積（ ㎡） 構 造（ ） [地上4以上又は延べ面積1 , 500㎡を超えるもの 耐火] [地上3で延べ床面積1 , 500㎡以下のもの又は地上2以下かつ延べ床面積500㎡を超え、1 , 500㎡以下のもの 耐火又は準耐火]	該当なし
	屋根の構造	22 62	109の8 136の2の2	構 造（RC造） 屋根材（ 不燃材 ） ・ 法第22条の区域 [H12建告第1361号] ・ 法第62条の区域 [H12建告第1365号] ○ 区域外	該当なし
居室の採光・換気等	居室の採光及び換気	28	20	[別表の計算書による]	該当なし
	換気設備の技術的基準	28	20の2 20の3	居室の換気のための窓その他開口部 [別表の計算書による] 換気方法（ ） 火を使用する室の有無 ・ 有 ― 室名（ ）、換気方法（ ） ○ 無	該当なし
	換気設備（自然換気）	28	20の2 129の2の5	給気口高さ（ m） ／ 天井高さ（ m） ≤ 1／2 排気口高さ（ m） > 給気口高さ（ m）	該当なし
	窓その他開口部を有しない居室等	35	116の2	採光（無窓）居室 ・ 有（室名： ） ○ 無 排煙（無窓）居室 ・ 有（室名： ） ○ 無	該当なし
	無窓居室の主要構造部	35の3	111	構 造（ ） [耐火構造又は不燃材料]	該当なし
階段・廊下	2以上の直通階段（5階以下の階の場合）	35	117 121	居室の床面積 避難階の直上階（ ㎡） > 200㎡ （準耐火構造又は不燃材料でつくられた建築物の場合 は400㎡） その他の階（ ㎡） > 100㎡ （準耐火構造又は不燃材料でつくられた建築物の場合は200㎡） ・ 有（直通階段2以上） ○ 無	該当なし
	避難階段の設置及び特別避難階段	35	122	地上（ 1 ）階、 地下（ ）階 ・ 避難階段 又は特別避難階段[5階以上、地下2階以下] ・ 特別避難階段 [15階以上、地下3階以下] ○ 該当せず（ ）	該当なし

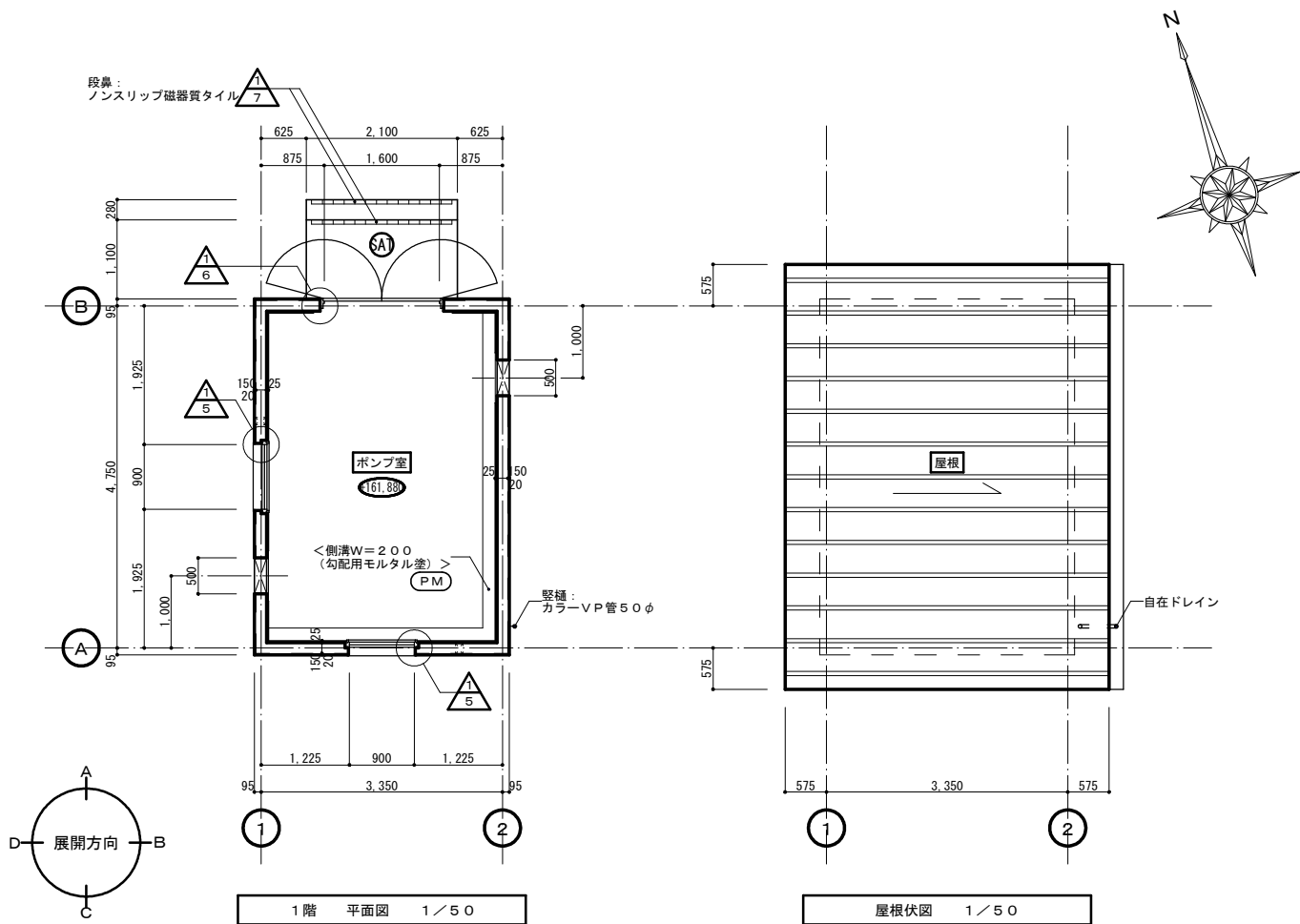
建 築 基 準 法 （ 令 ）						
審査項目	法令条項		チェック	判定		
	法	令				
階段・廊下	直通階段・歩行距離	35	117 120 121	【主要構造部が準耐火構造又は、不燃材料で作られている場合】 採光無窓居室 ： 歩行距離（ m） ≤ 30m ・ （40m：廊下・階段・その他通路の壁及び天井の仕上げを準不燃材料以上） その他の居室 ： 歩行距離（ m） ≤ 50m ・ （60m：廊下・階段・その他通路の壁及び天井の仕上げを準不燃材料以上） 【2以上の直通階段を設ける場合】 重複距離（ m） ≤ 当該歩行距離の2分の1	該当なし	
	階段・踊場の幅・ けあげ・踏み面寸法	36	23	直上階居室の合計（ m ² ） > 200m ² 地階又は地下工作物の居室の合計（ m ² ） > 100m ² ・ 階段幅（ cm） ≥ 120cm、踊場の幅（ cm） ≥ 120cm けあげ（ cm） ≤ 20cm、踏面（ cm） ≥ 24cm 上 記 外 ・ 階段幅（ cm） ≥ 75cm、踊場の幅（ cm） ≥ 75cm けあげ（ cm） ≤ 22cm、踏面（ cm） ≥ 21cm	該当なし	
	踊場の位置及び 直通階段の踏幅	36	24	階高（ m） ・ 4mまで ・ 階高（ m） ≥ 4m、踊場（ ）カ所、踏幅（ cm） ≥ 120cm	該当なし	
	階段及び踊場の 手すり等	36	25	階段の幅 ： （ m） > 3.0m、高さ（ m） > 1.0m 一般手すり 両側設置 ・ 有 ・ 無 中間手すり（幅 > 3m、ただし高さ1m以下の階段の部分には適用しない） ・ 設置 ・ 不要 [けあげ：（ cm） ≤ 15cm、踏面：（ cm） ≥ 30cm]	該当なし	
	階段に代わる傾斜路	36	26	勾 配（ / ） ≤ 1／8 表面仕上材（ ）	該当なし	
	廊下幅	35	117 119	その階の床面積の合計（ m ² ） ≥ 200m ² （地階の場合、100m ² ） 両側居室（ m） ≥ 1.6m 、片側居室（ m） ≥ 1.2m	該当なし	
	屋外階段	35	23 121の2	直通階段の幅（ cm） ≥ 90cm、その他の階段（ cm） ≥ 60cm 直通階段の構造（ ） [木造以外]	該当なし	
	屋上広場・バルコニー等 の手摺	35	117 126	高さ（ m） ≥ 1.1m	該当なし	
	防火区画	面積区画	36	112-1 112-4 112-5	・ 耐火建築物 [別表の計算書による・すべて1,500m ² 以内] ・ 外壁耐火 [別表の計算書による・すべて500m ² 以内] ・ 不燃構造 [別表の計算書による・すべて1,000m ² 以内]	該当なし
		竪穴区画	36	112-11	居室を有する階数（地上 ） ≥ 3、（地下 ） [吹抜き、階段、昇降機の昇降路、ダクトスペース、その他]	該当なし
防火区画に接する 部分の構造等		36	112-16 112-17 112-19	90cm以内の壁面等の構造（ ） [準耐火構造・H12建告第1358号] 50cm以上突き出した庇、床、袖壁等の構造（ ） 防火戸面積（ m ² ） ≤ 3m ² ・ 常時閉鎖式 ・ 随時閉鎖式 [防火設備等の構造：S48建告第2563号] [遮煙性能を有する防火設備等の構造：S48建告第2564号] [特定防火設備の構造：H12建告第1369号]	該当なし	
防火区画を貫通する 配管の隙間等の処理		36	112-20	防火区画を貫通する配管と防火区画との隙間（使用材料： ） 防火区画を貫通する配管の構造 ・ 貫通部分から1m以内の部分の構造（ ） ・ 大臣認定（名称： 、認定番号： ） [貫通する給水管、配電管その他の管の外径：H12建告第1422号]	該当なし	
防火区画を貫通する ダンパーの構造等		36	112-21	AM No.（ 図）による [防火設備の構造：S48建告第2565号] [風道に防火設備を設ける方法：H12建告第1376号]	該当なし	
防火戸その他の 防火設備		2-9の2 2-9の3	109 109の2	延焼のおそれのある部分 ・ 有 [建具表による] ○ 無	該当なし	
排煙	排煙設備の設置	35	126の2	・ 要 ・ 階数3以上で延べ床面積500m ² を超える （防煙壁による100m ² ごとの区画 ・ 有（室名： ） ・ 無） ・ 排煙無窓居室 ・ 延べ床面積1,000m ² 超の建築物で床面積200m ² を越の居室（室名： ） ○ 不要（ ）	該当なし	

工 事 名	美佐野加圧ポンプ場	
	更新工事	
施工箇所名	御嵩町 美佐野 地内	
図面の種類	ポンプ室 法規チェックリスト(1)	
縮 尺	――	図面番号 A-11
事務所名	岐阜県御嵩町	

建 築 基 準 法 （令）					
審査項目		法令条項		チェック	判定
		法	令		
排煙	排煙設備の構造	35	126の3	各部分から排煙口までの水平距離（ m ） $\leq 3.0\text{m}$ ・ 手動開放装置の床面からの高さ 壁付 $1.5\text{m} \geq (\text{m}) \geq 0.8\text{m}$ ・ 手動開放装置のうち、手で操作する部分は、天井吊下げ（m）$\asymp$ 床面からおおむね 1.8m ・ 防煙区画（m^2）$\leq$ 床面積 500m^2 排煙口面積〔別表計算書による〕 ・ 全て自然排煙 ・ 一部機械排煙〔S45建告第1829号〕	該当なし
	非常照明の設置	35	126の4	・ 設置 ・ 階数が3以上で延べ面積 500m^2を超える建築物の居室 ・ 延べ面積 $1,000\text{m}^2$を超える建築物の居室及びこれらの居室から地上に通ずる廊下、階段、その他通路並びにこれらに類する建築物の部分で照明装置の設置を通常要する部分 ・ 採光無窓居室 ☐ 不要（ m^2 ）	該当なし
非常照明	非常照明の構造	35	126の5	設置を要する部分（ m^2 ）〔S45建告第1830号〕 ・ （電灯の種類：Lx）$\geq 1\text{Lx}$（蛍光灯、LED 2Lx） ・ 予備電源（30分間継続点灯）	該当なし
	非常用進入口の設置	35	126の6	階数（ 1 ） ・ 設置の階〔≥ 3階〕 ・ 代用進入口の間隔（m）$\leq 10\text{m}$ ・ 非常用進入口の間隔（m）$\leq 40\text{m}$ ☐ 不要	該当なし
非常用進入口	非常用進入口の構造	35	126の7	代用進入口の幅、高さ、大きさ、及び開閉方法 ・ （幅 $\text{cm} \geq 75\text{cm}$、高さ $\text{m} \geq 1.2\text{m}$、大きさ $\text{m} \geq$ 直径 1.0mの円が内接 ・ 開閉方法（縦滑り出し） ・ ガラスの種類・厚さ（mm） 非常用進入口の幅、高さ、及び下端の床面からの高さ〔S45建告第1831号〕 ・ （幅：$\text{cm} \geq 75\text{cm}$、高さ：$\text{m} \geq 1.2\text{m}$、床面からの高さ：$\text{cm} \leq 80\text{cm}$） ・ バルコニー（奥行き：$\text{m} \geq 1.0\text{m}$、長さ：$\text{m} \geq 4.0\text{m}$） ・ ガラスの種類・厚さ（$\text{mm}$）	該当なし
	敷地内通路	35	128	・ 該当する ・ 道又は公園、広場その他の区内に通ずる道都の幅員（$\text{m} \geq 1.5\text{m}$） ☐ 該当しない	該当なし
内装制限	制限を受ける特殊建築物等	35の2	128の4	・ 該当する ・ 自動車車庫 ・ 階数が3以上で、延べ面積 500m^2を超える建築物 ・ 階数が2で延べ面積 $1,000\text{m}^2$を超える建築物 ・ 階数が1で延べ面積 $3,000\text{m}^2$を超える建築物 ・ 火を使用する調理室等 ☐ 該当しない（ m^2 ）	該当なし
	特殊建築物等の内装	35の2	128の5	・ 該当する〔H12建告第1439号・H21国交告第225号〕 ・ 地上に通ずる主たる通路の壁及び天井の室内に面する部分の仕上げを準不燃材料 ・ 居室及び廊下・階段・その他の通路の壁及び天井の室内に面する部分の仕上げは準不燃材料 ☐ 該当しない	該当なし
その他	避雷設備	33	129の14	・ 設置 ・ 最高の高さ（m）$> 20\text{m}$ ・ 指定数量の10倍以上の危険物の製造所・貯蔵庫 * 消防法（危険物の規制に関する政令；第9条第1項第十九号、第10条第1項第十四号） ☐ 不要	該当なし
	石綿その他の物質の飛散、又は発散に対する衛生上の措置	28の2	20の4～20の8	化学物質を発散する建築材料を使用する居室〔H14国交告第1112、1113、1114、1115、H15国交告第273、274〕 ・ 有 室名（m^3）換気方式（m^3/h） ☐ 無	該当なし
	特定天井及び特定天井の構造	20	39-3	・ 該当する〔H25国交告第771号〕 ・ 居室、廊下その他の人が日常立ち入る場所に設けられている ・ 天井高さ（m）$> 6\text{m}$かつ、その水平投影面積（m^2）$> 200\text{m}^2$ ・ 天井面構成部材等の質量（kg/m^2）$> 2\text{kg}/\text{m}^2$ ・ 腐食、腐朽、その他の劣化の措置方法 室名（m^2） ☐ 該当しない	該当なし

消 防 法 （令）					
審査項目		法令条項		チェック	判定
		法	令		
消火設備	消火器具	17	10	延べ面積（ 15.91m^2 ） 地階・無窓階又は3階以上の階の床面積 ・ 設置〔延べ面積 300m^2以上又は地階等の部分で床面積 50m^2以上〕 ☐ 不要	該当なし
	屋内消火栓設備	17	11	延べ面積（ 15.91m^2 ）構造（ m^2 ） 地階・無窓階・4階以上の階の床面積 室名（1階（無窓階））面積（ 15.91m^2 ） ・ 設置〔耐火構造で延べ面積 $3,000\text{m}^2$以上又は地階等の部分で床面積 600m^2以上〕（主要構造部を耐火構造とし、かつ、壁・天井の仕上げを難燃材料） ☐ 不要	該当なし
	水噴霧消火設備等	17	13～18	発電機室・電気室・ボイラー室等の床面積 室名（ m^2 ）面積（ m^2 ） ・ 設置〔発電機室等の部分で床面積 200m^2以上〕 ・ 緩和申請する（スプリンクラー設備を設置） ☐ 不要	該当なし
	屋外消火栓設備	17	19	地上階の1階又は、1及び2階の部分の床面積の合計（ 15.91m^2 ）、耐火建築物等（ m^2 ） 建築物相互の外壁間の中心線からの水平距離が1階にあっては 3m 以下、2階にあっては 5m 以下の部分を有するものは1の建築物とみなす ・ 設置〔耐火建築物で床面積 $9,000\text{m}^2$以上〕 ☐ 不要	該当なし
警報設備	自動火災報知器設備	17	21	延べ面積（ 15.91m^2 ） 地階・無窓階・3階以上の階の床面積 室名（1階（無窓階））面積（ 15.91m^2 ） ・ 設置〔延べ面積 $1,000\text{m}^2$以上又は地階等の部分で床面積 300m^2以上〕 ☐ 不要	該当なし
	非常警報設備	17	24	地階の階数（ 階 ） ・ 設置〔地下の階数3以上〕 ☐ 不要	該当なし
避難設備	誘導灯・誘導標識	17	26	〔避難口誘導灯・通路誘導灯〕 地階・有 ☐ 無 無窓階 ☐ 有 ☐ 無 ☐ 設置 ☐ 不要 〔誘導標識〕 ・ 設置 ☐ 不要〔誘導灯の有効範囲内〕	☐
その他	消防用水	17	27	敷地面積（ m^2 ）※ 床面積（ 15.91m^2 ）耐火建築物等（ m^2 ） 建築物相互の外壁間の中心線からの水平距離が1階にあっては 3m 以下、2階にあっては 5m 以下である部分を有するもので、かつ、これらの建築物の床面積を耐火建築物（準耐火建築物、その他）にあっては $15,000\text{m}^2$ （ $10,000\text{m}^2 \cdot 5,000\text{m}^2$ ）でそれぞれ除した商の和が1以上となるものは1の建築物とみなす ・ 設置〔敷地面積が $20,000\text{m}^2$以上かつ、耐火建築物で床面積が $15,000\text{m}^2$以上〕 ☐ 不要	該当なし
	連結散水設備	17	28の2	地階の床面積合計（ m^2 ） ・ 設置〔地階の床面積の合計 700m^2以上〕 ☐ 不要	該当なし
	無窓階		規則5-2	避難上消火活動上有効な開口部〔別表の計算書による〕 ・ 各階共床面積の $1/30$以上有り ☐ 床面積の $1/30$未満の階有り（1 階）	☐
	緩和適用条項		32	・ 屋内消火栓設備 ・ 水噴霧消火栓設備等 ・ 屋外消火栓設備 ・ 消防用水 ・ 連結散水設備 ・ 自動火災警報装置	該当なし
危険物	危険物の貯蔵・取扱い制限等	10		軽油・重油・潤滑油等の使用量及び保管場所	該当なし
	（危険物の規制に関する政令）			・ 少量危険物 ・ 一般取扱所 室名（m^3） ・ 貯蔵所 危険物の量（ kg ） 構造及び仕上（ m^2 ）	該当なし

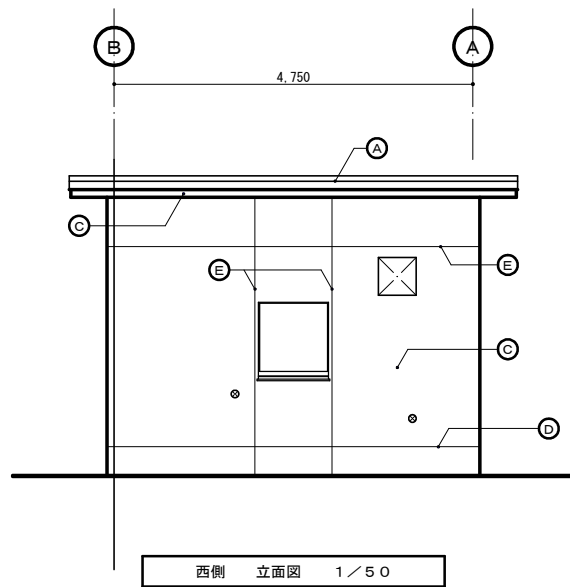
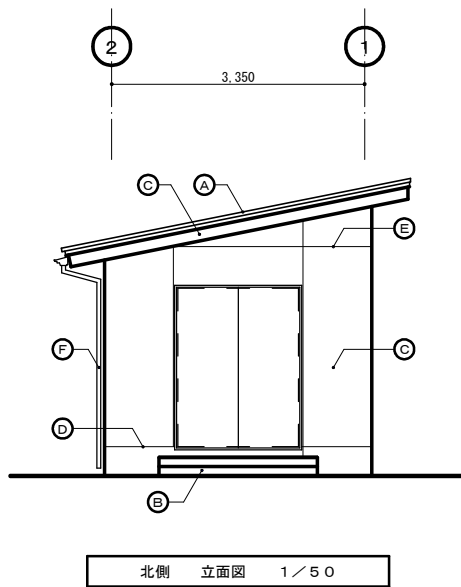
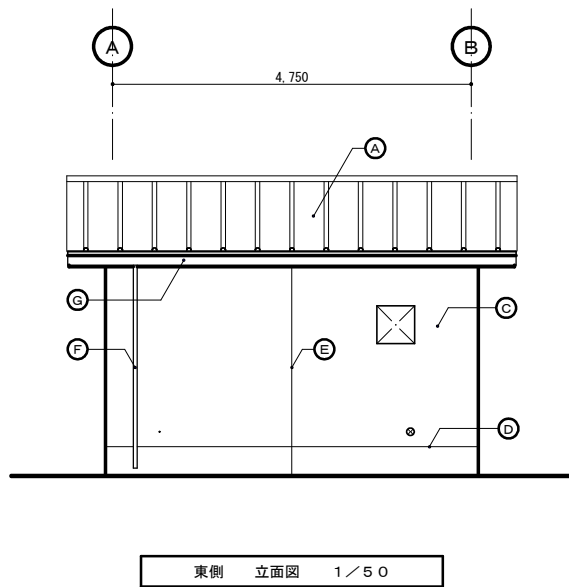
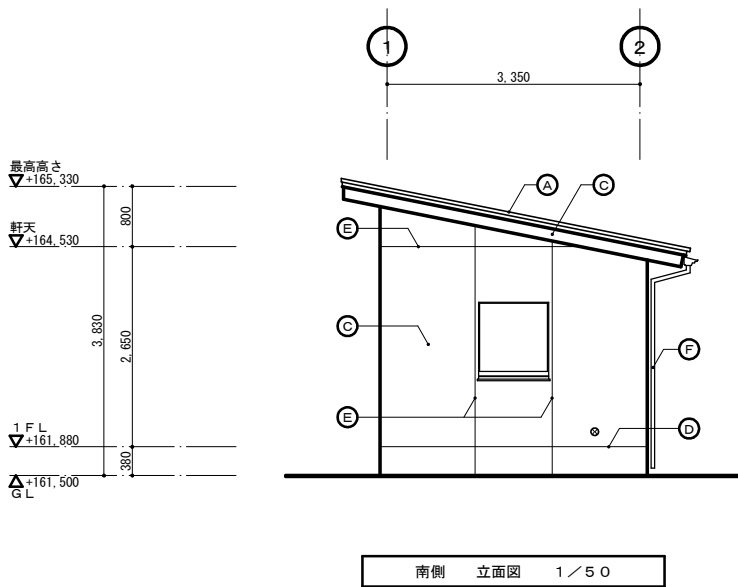
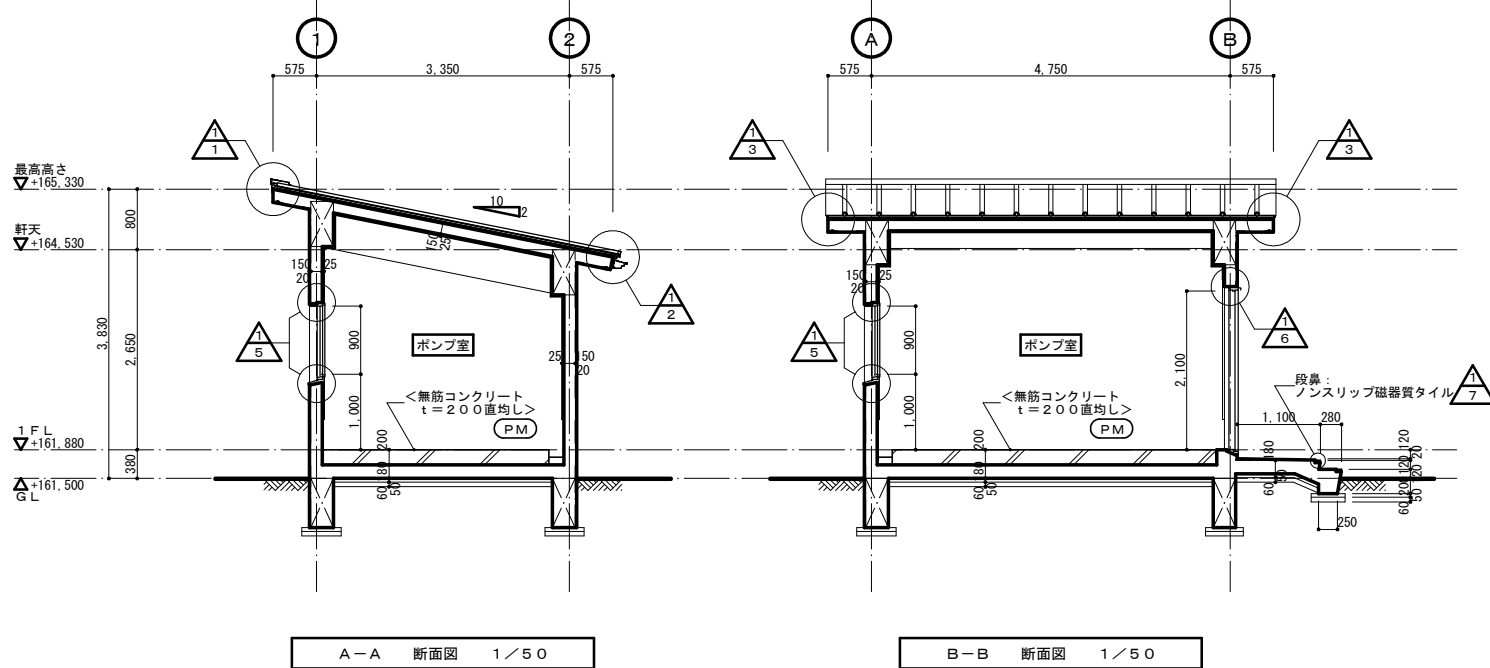
工 事 名	美佐野加圧ポンプ場		
	更新工事		
施工箇所名	御嵩町 美佐野 地内		
図面の種類	ポンプ室 法規チェックリスト(2)		
縮 尺	――	図面番号	A-12
事務所名	岐阜県御嵩町		



(凡 例)

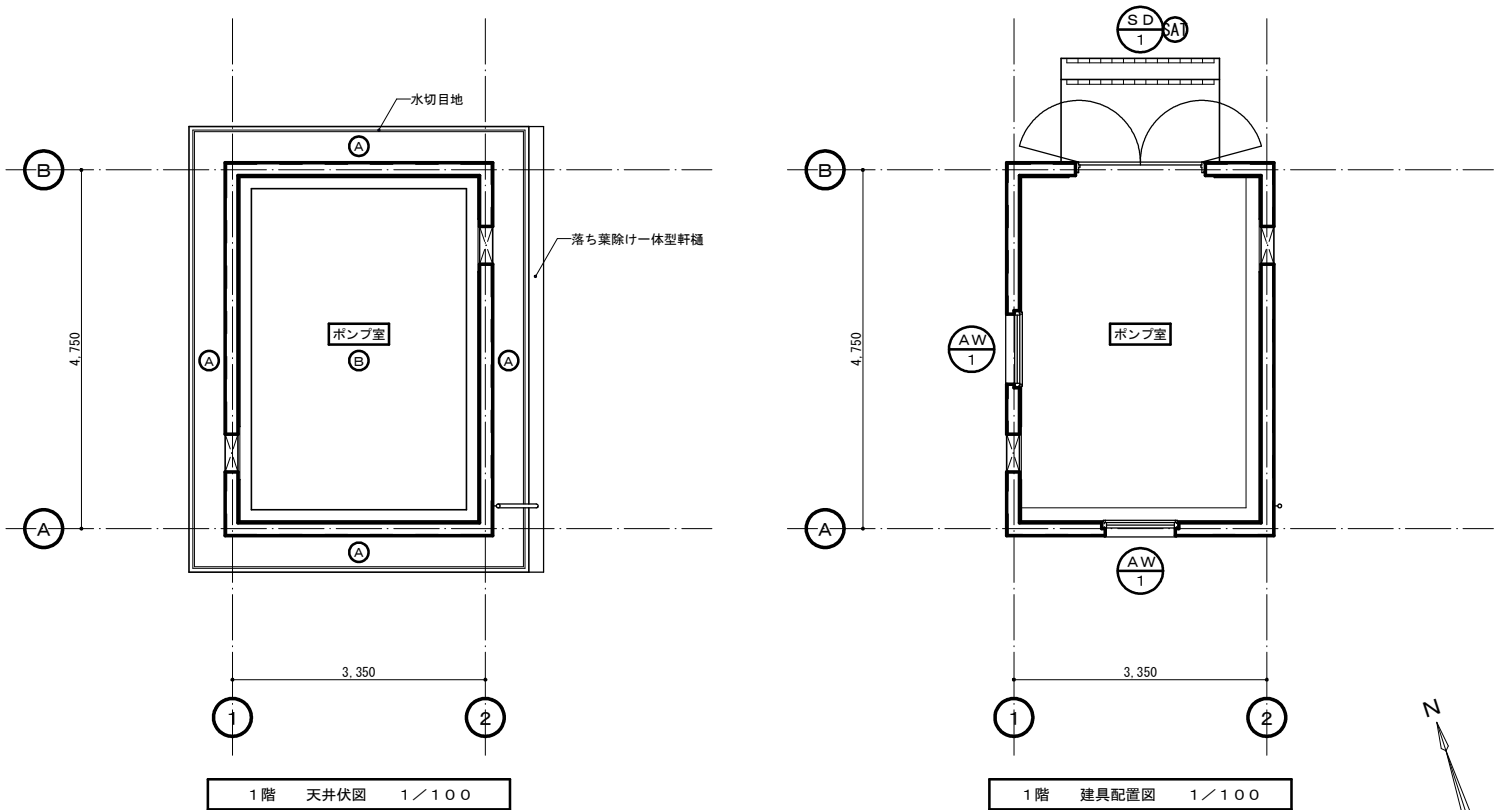
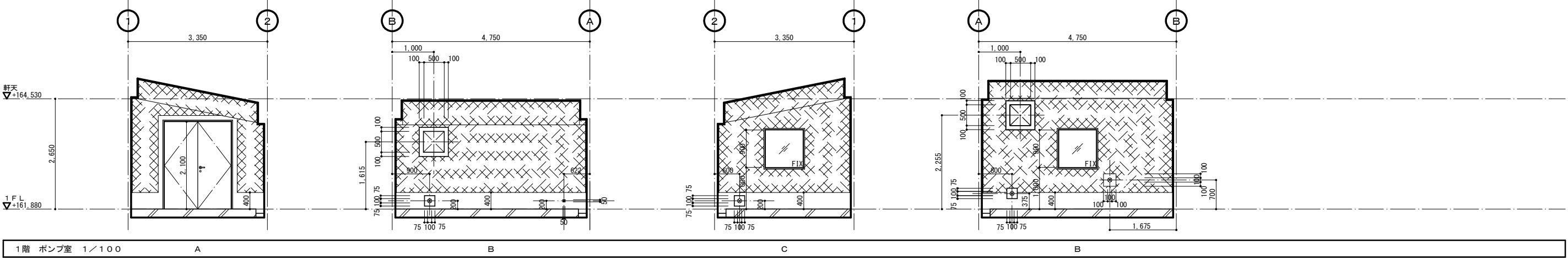
① 簡易気密性を示す。

○ 内の数字は、AP表示 床レベルを示す。
水勾配のある部分においては水下レベルとする。



(凡 例)	
①	カラーガルバリウム鋼板 (瓦葺き)
②	コンクリート打放し (B)
③	コンクリート打放し (B) の上複層塗材 (RE)
④	打継目地 (雑詳細図参照)
⑤	誘発目地 (雑詳細図参照)
⑥	縦樋: カラーV P 管 50 φ
⑦	軒樋: カラーガルバリウム鋼板 (既製品)

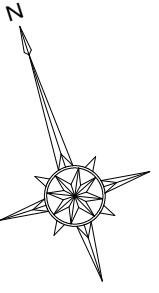
工 事 名	美佐野加圧ポンプ場 更新工事
施工箇所名	御嵩町 美佐野 地内
図面の種類	ポンプ室 平面図・立面図・断面図
縮 尺	1:100 図面番号 A-15
事務所名	岐阜県御嵩町



凡 例	
Ⓐ	コンクリート打放し (C) の上外装薄塗材 (E)
Ⓑ	グラスウール吸音材 t=25

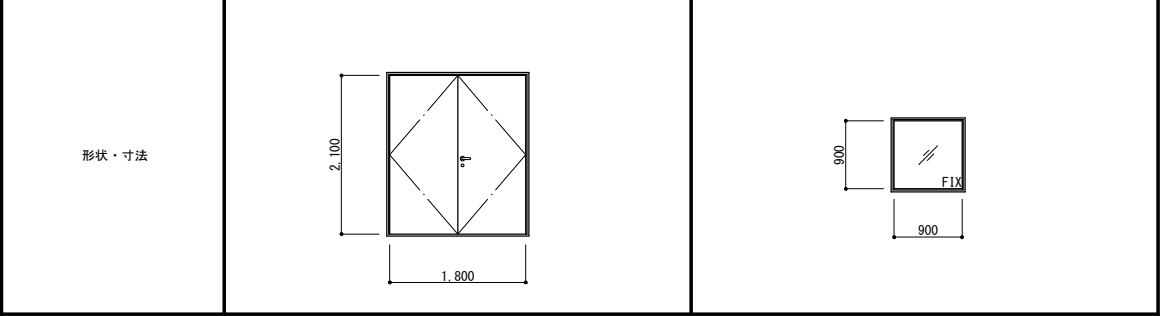
注 記 特記なき梁型等は、天井同仕上とする。

(凡 例)
Ⓐ 簡易気密扉を示す。

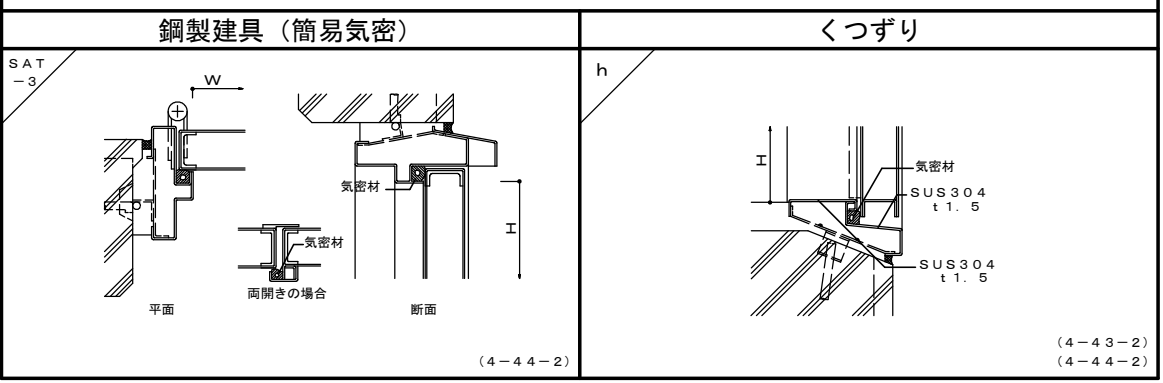


建具 リスト 1/50

符号・名称・個数	SD-1 両開きフラッシュ戸 (外) -1-	AW-1 F1X窓 (外) -2-
場所	1階 ポンプ室	1階 ポンプ室
仕上 (枠共)	D P 塗	無着色陽極酸化塗装複合皮膜 (BB-1)
建具	見込 (ランマ) 40 硝子 (ランマ) ガラリ	メーカー仕様による N 厚 6.8
建具枠	見込取合 番摺 120	70
枠記号 番摺 (水切) 記号	SAT-3, h	詳細図参照
建具金物	一般丁番 (3枚)、戸当り、あおり止め、DC フランス落し、シリンダー箱錠 (レバーハンドル)	付属金物一式 三方アルミ製額縁 25×30、アルミ製膳板 25×30 アルミ製水切 L=120
その他	外部簡易気密戸、上枠水切付	



建具枠廻り詳細及び記号 (No scale)



- 共通事項
1. 特記なき限り外部はシリンダ箱錠 (内部サムターン) とし内部は本締り付きモノロックとする。但し、押板、押棒の場合は、シリンダ本締り錠とする。

2. バイパススペース、ダクトスペースの点検扉の鍵はシリンダ本締り錠 (特記なき限り同一キー) とする。 (内部はサムターン付)

3. 便所等の施設を必要としない箇所は空錠とし、押板、押棒の場合は錠不要とする。

4. AH、FHを除きDCの有無にかかわらず出入口には戸当り、あおり止め (防火戸を除く) をつける。壁仕上げボード類の場合は床付とする。 (但し、通行に支障のあるものは除く。)

5. 特記なき限り外部に面するガラリは防鳥網付きとする。

6. アルミニウム製窓の締り金物、排煙口操作レバーの位置は床から1,500以内とする。

7. 大型、気密鋼製建具はシリンダ本締り錠付きとする。

8. 特記なき限り内部建具ガラリはI型とする。 (枠廻り詳細による。)

9. 特記なき限り鋼製戸の見込みは40mmとする。

10. 防火戸の位置は建具配置図による。

11. 特記なき限り気密扉・簡易気密扉の吸音材の充填は行なわないものとする。

12. 階段室の施設を必要としない箇所は空錠とする。

13. 特記なき限り両開きの防火戸は順位調整器付とする。

14. 特記なき限り扉の取手はレバーハンドルとする。

15. AT-2、AT-4の補強材はアングル (L-50×50×6) の通し物とする。

建具略号	種 別	戸	窓	ガラリ	オーバーヘッドドア	紙障子	ふすま	シャッター	網戸
	アルミニウム製	AD	AW	AG	AOD			AS	aW
	鋼製	SD	SW	SG	SOD			SS	
	鋼製軽量	LD						LS	
	ステンレス製	SSD	SSW	SSG				SSS	
ガラス略号	木製	WD	WW	WG		P	H		
	F	型板ガラス		金物	DC	ドアクローザー			
	P	フロート板ガラス		物	AH	オートヒンジ			
	N	網入型板ガラス		記	FH	フロアヒンジ			
略号	NP	網入みがき板ガラス		号	PH	ピボットヒンジ			

工事名	美佐野加圧ポンプ場
更新工事	
施工箇所名	御嵩町 美佐野 地内
図面の種類	ポンプ室 展開図・天井伏図 建具廻り・建具配置図・建具表
縮尺	1:100 図面番号 A-17
事務所名	岐阜県御嵩町

構造細目共通図(建築構造物)

< 令和4年版 >

※本図面は(一社)全国上下水道コンサルタント協会が著作権を有するものである。

使用にあたっては、上記協会への使用願いの提出と、配布番号の記載が必要である。

枠外右下の【協会員番号】と【配布番号】の記載が無い図面は無効とする。

1 特記事項

1. 1 適用範囲

(1)本構造細目共通図は下水道施設における処理場、ポンプ場の建築構造物に適用する。

(2)図面及び構造細目共通図に記載されていない事項は、下記に基づくものとし、これらに相違がある場合は監督職員に確認し指示を受ける。

1)建築工事特記仕様書

2)建築改修工事特記仕様書

3)建築工事一般仕様書

4)公共建築工事標準仕様書(建築工事編)

5)公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編)

国土交通省大臣官房官庁営繕部

国土交通省大臣官房官庁営繕部

(令和 4 年版)

(令和 4 年版)

(3)項目は、○印のついたものを適用する。○印のない場合は、※ 印のあるものを適用する。○印と⊗印のある場合は、共に適用する。

1. 2 鉄筋の仕様

鉄筋の種類及び継手は、別紙建築工事特記仕様書又は建築改修工事特記仕様書による。

1. 1表 鉄筋の種類及び継手

	種 別	径
鉄筋の種類	SD 295	※D16以下
	SD 345	※D19以上
鉄筋の継手	重ね継手	下記以外
	ガス圧接	※D19以上、D29以下の柱、梁主筋
	機械式継手	※図示による。

1. 3 コンクリートの仕様

コンクリートの仕様は、別紙建築工事特記仕様書又は建築改修工事特記仕様書による。

1. 2表 コンクリートの仕様

分 類	コンクリート種別	設計基準強度(N/mm ²)	スラブ(cm)	セメントの種類	
鉄筋コンクリート	地上	※普通コンクリート	※24	※18	※普通ポルトランドセメント
	地下基礎、基礎梁	※普通コンクリート	※24	※15	※普通ポルトランドセメント
無筋コンクリート	※普通コンクリート	※18	※15	※ 普通ポルトランドセメント	

注1：無筋コンクリートには捨てコンクリートを含む。

1. 4 砕石及び捨てコンクリート

砕石及び捨てコンクリートの厚さは、特記がなければ1. 3表による。

1. 3表 砕石及び捨てコンクリートの仕様

種 別	厚さ(mm)
砂利または砕石	※ 60
捨てコンクリート	※ 50

2 共通事項

2. 1 記号及び符号

設計図中で使用する記号及び符号は、2. 1表及び2. 2表を標準とする。

2. 1表 鉄筋の断面表示

径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
記 号	●	×	∅	●	○	⊙	⊗	⊙

2. 2表 一般凡例

記 号・符 号	内 容	※印の説明及び注意事項
F※	フーチング断面種別	※ 番号
※1C※2	柱断面種別	※1 階数 ※2 その階の番号
※1G※2	大梁断面種別	※1 階数、地中大梁はFとする ※2 その階の番号 X方向1, 2, 3---- Y方向A, B, C----
CG※	片持大梁断面種別	※ 番号、階別区分はしない
※1B※2	小梁断面種別	※1 地中小梁のみFとする。 ※2 階別区分はしない 地中小梁を除く
CB※	片持小梁断面種別	※ 番号、階別区分はしない
※1W※2	壁配筋種別	※1 E：耐震壁、K：階段壁 D：土圧、水圧を受ける壁 ※2 階別区分はしない 壁厚(cm)
※1S※2※3	床版配筋種別	※1 片持床版のみCとする ※2 床版厚(cm) ※3 配筋種別(英大文字) 階別区分はしない
※1K※2	階段の配筋種別	※1 A：片持床版形 B：二辺固定床版形 ※2 配筋種別(数字) 階別区分はしない
CB※	コンクリートブロック壁	※ 壁厚(cm)
////	打ち増し範囲	
////	梁・床版の上がり下がり	一般には基準FLよりの十、一に 応じた凡例により表示
(※)	床用積載荷重	積載荷重の値(kN/m ²)
STP	あばら筋、スターラップ	梁、基礎梁、小梁
HOOP	帯筋、帯鉄筋、フープ	柱
S.HOOP	スパイラル筋、らせん筋	柱
幅止筋	幅止め筋	柱、梁、壁
組立筋	組立て筋	床版、底版

2. 2 一般注意事項

(1)設計図は監督職員の承諾を得なければ変更してはならない。
変更の必要を生じた場合は、監督職員と協議すること。

3 鉄筋の折曲げ加工

鉄筋の折曲げ加工は、3. 1表を標準とする。
(1)Dは、折曲げ内法直径を示す。
(2)dは、鉄筋直径(呼び名)を示す。

3. 1表 鉄筋の折曲げ形状及び寸法(末端部)

曲げ 角度	折 曲 げ 図	折曲げ内法直径(D)		使 用 箇 所
		SD295 SD345		
		D16 以下	D19 ～D38	
180°		3d以上	4d以上	柱、梁の主筋 杭基礎のベース筋 D16以上の鉄筋
135°		3d以上	4d以上	D13以下の鉄筋 あばら筋、帯筋、 スパイラル筋
90°		3d以上	4d以上	T形及びL形の梁の あばら筋
135° 90°		3d以上	4d以上	90° 幅止め筋

(注)1. 片持スラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90° フック又は135° フックを用いる場合は、余長を4d以上とする。
2. 90° 未満の折曲げの内法直径は図面による。

4 異形鉄筋の末端部

4. 1 フックを設ける位置

異形鉄筋の末端部には、4. 1表によりフックを設ける。

4. 1表 フックを設ける位置

部 位	継手方式		備 考
	重ね継手	圧接継手	
柱	四隅の主筋	1)最上階の柱頭部	4. 1図の●印 8. 1図参照
	上下階の柱断面が異なる場合	1)下階の柱主筋を引き通すことができない柱頭部	4. 1図の●印 8. 2図参照
	帯筋(HOOP)	1)末端部 2)継手部	1)末端部 9. 1図参照
梁	あばら筋(STP)	1)末端部 2)継手部	1)末端部 11. 1図参照
杭基礎	独立フーチング基礎の底盤筋	1)末端部 2)継手部	1)末端部 20. 1図参照
煙突の鉄筋	1)末端部 2)継手部	1)末端部	壁の一部となる場合を含む
幅止め筋	――	――	3. 1表参照

4. 1図 異形鉄筋の末端部

5 鉄筋のかぶり及び間隔

5. 1 かぶり厚さ

かぶり厚さとは、一番外側の鉄筋(幅止め筋、組立筋を除く)の外面から躯体面までの距離(5. 1図)をいう。
鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上を確保し、最小かぶり厚さに許容施工誤差10mmを加えた厚さ以内に納めるものとする。

5. 1図 鉄筋のかぶり厚さ

5. 2 最小かぶり厚さ

最小かぶり厚さは、5. 1表による。
(1)床版、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨てコンクリートの厚さを含まない。
(2)柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1. 5倍以上として最小かぶり厚さを定める。
(3)溶接金網にも適用する。

5. 1表 鉄筋の最小かぶり厚さ(mm)

塩害区分		※ 通常の施工の場合	・塩害対策を必要とする場合
構造部分の種類			
一 般	床、耐力壁以外の壁	30	40
	柱、梁、耐力壁	40	50
	底版	40	50
土、水に接する部分	柱、梁、床、壁	40	50
煙突等高熱を受ける部分	底版、基礎	60	70
		60	70

1：打継目地部分は目地底より最小かぶり厚さを確保する。
2：杭基礎の場合の最小かぶり厚さは、杭先端からとし、「21 杭基礎の補強」を参照。
3：仕上なしの場合を標準とする。

5. 3 鉄筋相互のあき及び間隔

鉄筋相互のあきは、下記の最大値のもの以上とする。ただし、機械式継手及び溶接継手の場合のあきは図面による。
(1)粗骨材の最大寸法の1. 25倍
(2)最小のあき25mm
(3)隣り合う鉄筋の平均径(呼び名の数値)の1. 5倍

(注)D:鉄筋の最外径
d:鉄筋直径(呼び名)

5. 2図 鉄筋相互のあき及び間隔

5. 2表 鉄筋径と鉄筋間隔の関係一覧

鉄筋径(mm)		鉄筋相互のあき:a			最小鉄筋芯間隔
鉄筋径d	最外径D	(1)粗骨材径×1.25	(2)最小あき	(3)鉄筋径×1.5	a+D
D10	11	32mm粗骨材最大径25mmの場合	25mm	15mm	43mm
D13	14			20mm	46mm
D16	18			24mm	50mm
D19	21			29mm	53mm
D22	25			33mm	58mm
D25	28			38mm	66mm
D29	33			44mm	77mm

工 事 名

美佐野加圧ポンプ場
更新工事

施工箇所名

御嵩町 美佐野 地内

図面の種類

構造細目共通図(建築構造物)(1)

縮 尺

- 図面番号 S-1

事務所名

岐阜県御嵩町

AWSCJ(第5版)－000－005

6 鉄筋の継手及び定着

6. 1 継手及び定着

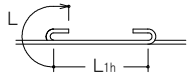
6. 1. 1 鉄筋の重ね継手

- (1)鉄筋の重ね継手の長さは、6. 1表による。
- (2)径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。
- (3)主筋及び耐震壁の鉄筋の重ね継手の長さは40dとする。ただし、SD390、SD490を使用する場合は特記による。

6. 1表 鉄筋の重ね継手の長さ

鉄筋の種 類	コンクリートの設計基準強度 F_c (N/mm ²)	L_1 (フックなし)	L_{1h} (フックあり)
SD295	24, 27	35d	25d
	30	35d	25d
SD345	24, 27	40d	30d
	30	35d	25d

- (注)1. L_1 、 L_{1h} ：フックなし重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ
2. フックありの場合の L_{1h} は、6. 1図に示すようにフック部分 L を含まない。



6. 1図

6. 1. 2 継手の特記事項

- (1) 継手は、極力応力の小さい位置に設ける。

6. 1. 3 鉄筋の定着

- (1) 鉄筋の定着の長さは、6. 2表による。

6. 2表 鉄筋の定着の長さ

鉄筋の種 類	コンクリートの設計基準強度 F_c (N/mm ²)	フックなし				フックあり			
		L_1	L_2	L_3		L_{1h}	L_{2h}	L_{3h}	
				小梁	スラブ			小梁	スラブ
SD295	24, 27	35d	30d	20d	10d かつ 150mm 以上	25d	20d	10d	—
	30	35d	30d			25d	20d		
SD345	24, 27	40d	35d			30d	25d		
	30	35d	30d			25d	20d		

- (注)1. L_1 、 L_{1h} ：2. 以外の直線定着の長さ及びフックありの長さ

2. L_2 、 L_{2h} ：割裂破壊の恐れのない箇所への直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ
3. L_3 ：小梁及びスラブの下端の直線定着の長さ(基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁を除く) なお、片持小梁及び片持スラブの場合は、20d及び10dを25d以上とする。
4. L_{3h} ：小梁の下端筋のフックあり定着の長さ
5. フックあり定着の場合は、6. 2図(イ)に示すようにフック部分 b を含まない。また、中間部での折曲げは行わない。

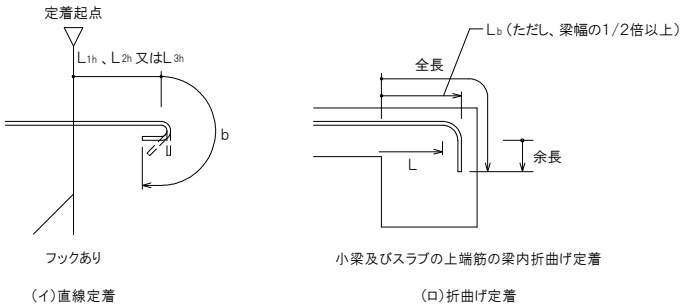
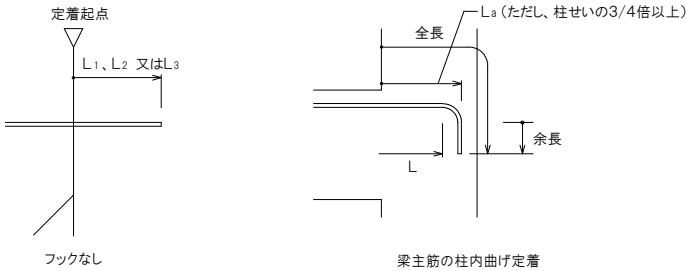
6. 1. 4 定着の方法

定着の方法は6. 2図による。

なお、(ロ)折曲げ定着の梁主筋の柱内折曲げ定着において、仕口内に縦に折曲げて定着する鉄筋の定着長さ L が、6. 2表のフックあり定着の長さを確保できない場合は、全長を6. 2表に示すフックなし定着長さとし、かつ、余長を8d、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さを6. 3表に示す長さをのみ込ませる。

- (注)1. L_a 、 L_b は、6. 3表の鉄筋の投影定着長さを示し、下記条件を満たすものとする。

- ・梁主筋の柱内定着においては、原則として柱せいの3/4倍以上
- ・小梁主筋の大梁内定着においては、原則として大梁幅の1/2倍以上
- ・スラブの梁内定着においては、原則として梁幅の1/2倍以上



6. 2図 定着の方法

6. 3表 鉄筋の投影定着長さ

鉄筋の種 類	コンクリートの設計基準強度 F_c (N/mm ²)	L_a	L_b
SD295	24, 27	15d	15d
	30	15d	15d
SD345	24, 27	20d	15d
	30	15d	15d

- (注)1. L_a ：梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ(基礎梁、片持ちスラブを含む。)
2. L_b ：小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ (片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。)

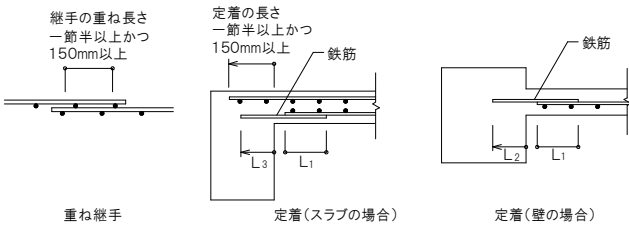
6. 2 隣り合う継手の位置及び定着

- (1)隣り合う継ぎ手の位置は、6. 4表により、 a 寸法を守ること。ただし、壁の場合及びスラブ筋でD16以下の場合を除く。

6. 4表 隣り合う継手の位置

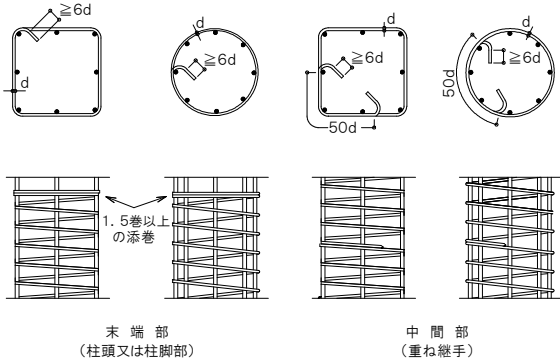
重ね継手	フック有りの場合		
		$a=0.5L_{1h}$	$a\geq 0.5L_{1h}$
	フックなしの場合		
圧接継手		$a=0.5L_1$	$a\geq 0.5L_1$
			$a\geq 400\text{mm}$

- (2)溶接金網の継手及び定着は、6. 3図による。



6. 3図 溶接金網の継手及び定着要領

(3)スパイラル筋の継手及び定着



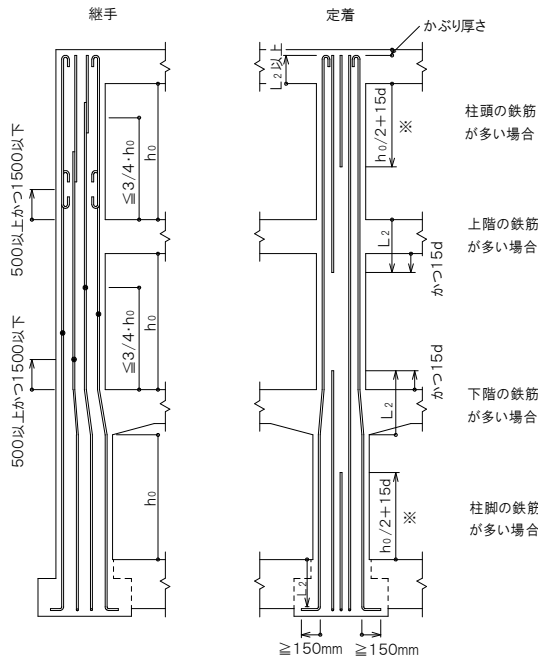
6. 4図 スパイラル筋の継手及び定着要領

7 (欠番)

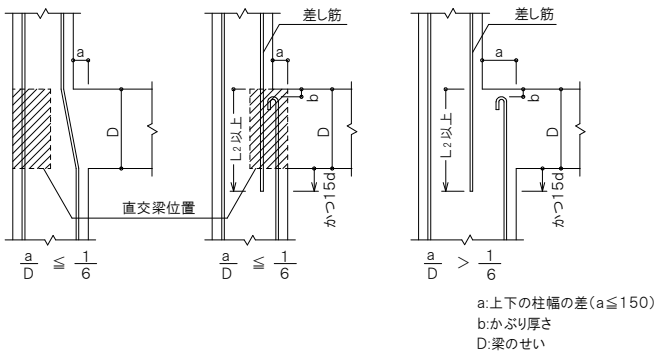
8 柱筋の継手及び定着

8. 1 一般事項

- (1)継手長さは L_1 とし、定着及び余長は、8. 1図による。
- (2)柱頭定着長さ L_2 が確保出来ない場合は、図面による。
- (3)上下の柱断面が異なる場合の柱主筋の折曲げ及び定着は、8. 2図による。
- (4)柱の継手及び圧接中心位置は、梁上端から500mm以上、1500mm以下かつ3/4 h_o (h_o は柱の内法高さ)以下とする。
- (5)※鉄筋のカットオフの位置及び長さは図面による。



8. 1図 柱主筋の継手、定着及び余長

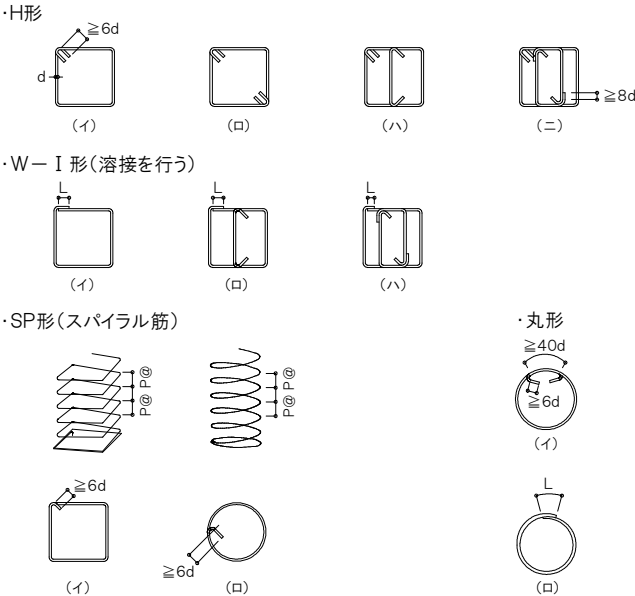


8. 2図 上下の柱断面が異なる柱主筋の折曲げ及び定着

9 帯筋

9. 1 帯筋の形状

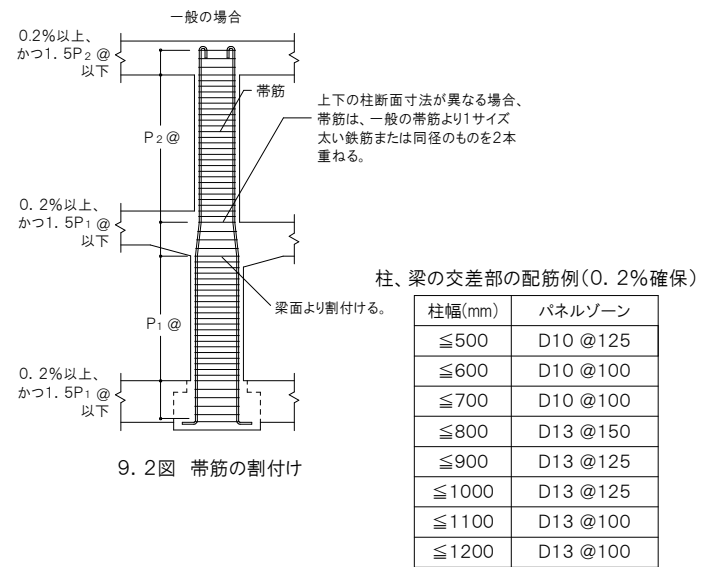
- (1)帯筋の形状は、9. 1図とし、種別は図面による。図面になければ下記による。
- (a)H形を標準とする。
- (b)H形の135°曲げのフックが困難な場合は、W－I形とする。
- (c)溶接する場合の溶接長さ L は、両面フレア溶接の場合は5d以上、片面フレア溶接の場合は10d以上とし、組立前に行う。
- (d)SP形において、柱頭及び柱脚の端部は、1. 5巻以上の添巻きを行う。



9. 1図 帯筋組立の形

9. 2 帯筋の割付け

- (1)フック及び継手の位置は交互とする。
- (2)帯筋の割付けは、9. 2図による。ただし、図面にある場合はそれによる。
- (3)柱、梁の交差部(パネルゾーン)の帯筋のせん断補強比は、0. 2％以上を確保し、補強筋間隔 $\leq 1.5P$ とする。



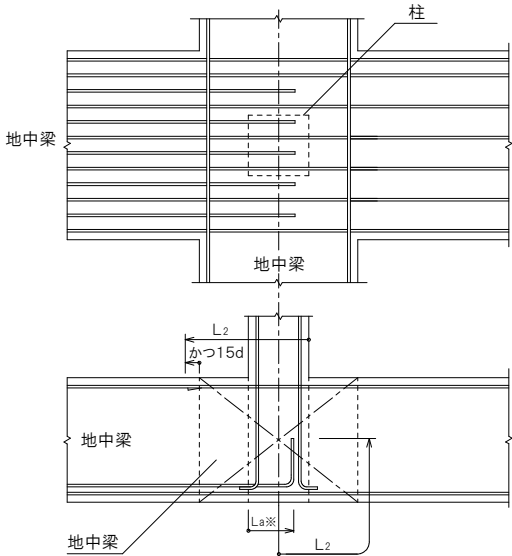
- ※1. 5 P_1 、1. 5 P_2 のピッチは150mm以下とする。

工 事 名	美佐野加圧ポンプ場	
	更新工事	
施工箇所名	御嵩町	美佐野 地内
図面の種類	構造細目共通図(建築構造物)(2)	
縮 尺	-	図面番号 S-2
事務所名	岐阜県御嵩町	

10 大梁筋の継手及び定着	10.3 ハンチのある場合	11 梁のあばら筋、腹筋及び幅止め筋	12 基礎梁及び底版の継手及び定着
10.1 大梁(基礎梁以外の大梁に限る)主筋の継手、定着及び余長	(1)最上階の場合	11.1 一般事項	12.1 基礎梁主筋の継手、定着及び余長
大梁主筋の継手及び定着の一般事項 a. 梁主筋は、原則として、柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことが出来ない場合は、b. により柱内に定着することができる。 ただし、やむ得ず梁内に定着する場合は、10. 1 図による。		(1)腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とする。 (2)壁梁の場合、腹筋の定着長さ及び継手長さは、L ₂ とする。 (3)土圧、水圧を受ける梁は、図面による。 (4)幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10ー1000mmピッチ程度とする。	(1)一般事項 (a)梁筋は、連続端で柱に接する梁筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合は柱内に定着する。やむを得ず梁内に定着する場合は、12. 1 図による。 (b)梁筋を柱内に定着する場合は10. 1 (1)bによる。
	10. 4 図 ハンチのある大梁の定着及び余長(最上階)	11.2 あばら筋組立の形及びフックの位置	
10. 1 図 梁主筋の梁内定着	(2)一般階の場合	(1)形は、11. 1 図(イ)を標準とする。 ただし、(イ)によることが出来ない場合は、下記の方法によることが出来る。 a. 床版が片側に付く場合は、(ロ)又は(ハ) b. 床版が両側に付く場合は、(ロ)～(ニ)	12. 1 図 梁筋の基礎梁内への定着
b. 梁主筋を、柱内に折曲げて定着する場合は次による。 なお、定着の方法は、6. 1. 4による。 上端筋:曲げ下ろす。 下端筋:原則として曲げ上げる。 c. 段違い梁は10. 2 図による。		(2)フックの位置 a. (イ)の場合は交互とする。 b. (ロ)の場合 床版が片側に付く場合は床版の付く側。床版が両側に付く場合は交互。 c. (ハ)の場合は床版の付く側を90°折曲げ、8d確保する。 d. (ホ)の場合は梁の上下にスラブが付く場合でかつ、梁せいが1. 5m 以上の場合に適用する事ができる。(基礎梁)	(2)独立基礎で基礎梁(スラブなどの上載荷重を受ける場合)の主筋の継手、定着及び余長
	10. 5 図 ハンチのある大梁の定着及び余長(一般階)		
10. 2 図 段違い梁	(注)1. 4. 異形鉄筋の末端部で定めた鉄筋には、フックを付ける。 2. 印は、継手及び余長を示す。 3. 梁内定着の端部下端筋が接近するときは、===== のように引き通すことができる。 4. 破線は、梁内定着の場合を示す。 5. 梁筋カットオフ位置及び余長は図面による。 ※ Laの数値は、原則として、6. 3表の数値かつ柱せいの3/4倍以上とする。	11. 1 図 あばら筋組立の形及びフックの位置	(注)1. 図示のない事項は、10. 11による。 2. 印は、継手及び余長位置を示す。 3. 破線は、柱内定着の場合を示す。 ※ Laの数値は、原則として、6. 3表の数値かつ柱せいの3/4倍以上とする。 4. 基礎梁内の主筋カットオフ位置及び余長は図面による。
10.2 ハンチのない場合	10.4 水平段差のある場合	11.3 あばら筋の割付け	
	水平段差のある場合	(1)間隔が一様でハンチのない場合	12. 2 図 主筋の継手、定着及び余長(その1)
10. 3 図 大梁の重ね継手、定着及び余長		(2)間隔が一様でハンチのある場合	(3)連続基礎及びべた基礎の基礎梁(基礎梁の下方より地反力(杭反力)を受ける場合)の主筋の継手、定着及び余長
(注)1. 継手中心位置は次による。 上端筋: 中央L ₀ /2 以内 下端筋: 柱面より梁せい(D)以上離し、L ₀ /4を加えた範囲以内 2. 4. 異形鉄筋の末端部で定めた鉄筋には、フックを付ける。 3. 印は、継手及び余長を示す。 4. 破線は、柱内定着の場合を示す。 5. 梁筋カットオフ位置及び余長は図面による。 ※ Laの数値は、原則として、6. 3表の数値かつ柱せいの3/4倍以上とする。	10. 6 図 大梁の定着及び余長(水平段差のある場合)		
10. 3 図 大梁の重ね継手、定着及び余長	10.5 鉛直段差(e)のある場合	(3)梁の端部で間隔の異なる場合	(注)1. 図示のない事項は、10. 11による。 2. 印は、継手及び余長位置を示す。 3. 破線は、柱内定着の場合を示す。 ※ Laの数値は、原則として、6. 3表の数値かつ柱せいの3/4倍以上とする。 4. 基礎梁内の主筋カットオフ位置及び余長は図面による。
	(1)e/D≤1/6の場合		12. 3 図 主筋の継手、定着及び余長(その2)
		(注)1. あばら筋は、柱面の位置及びハンチに切り替わる位置から割付ける。 2. 図中のP@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。	
	10. 7 図 鉛直段差梁(その1)	11. 2 図 あばら筋の割付け(その1)	
	(2)e/D>1/6の場合		
		(注)1. あばら筋は、柱面の位置から割付ける。 2. 図中のP@、P'@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。	
	10. 8 図 鉛直段差梁(その2)	11. 3 図 あばら筋の割付け(その2)	
		11.4 腹筋及び幅止め筋	
		(1)一般の梁	
		a) 腹筋及び幅止め筋	
		600≤D<900 900≤D<1200 1200≤D≤1500	
		11. 5 図 腹筋及び幅止め筋	
		(2)特殊な梁	
		腹筋及び幅止め筋は、図面による。	

工 事 名	美佐野加圧ポンプ場	
	更新工事	
施工箇所名	御嵩町	美佐野 地内
図面の種類	構造細目共通図(建築構造物)(3)	
縮 尺	-	図面番号 S-3
事務所名	岐阜県御嵩町	

- (4)柱幅<梁幅の場合
- (a)交差部のスターラップを設ける場合は、図面による。

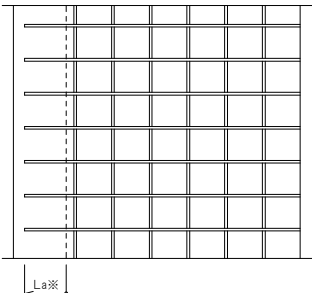


※ Laの数値は、原則として、6. 3表の数値かつ柱せいの3/4倍以上とする。

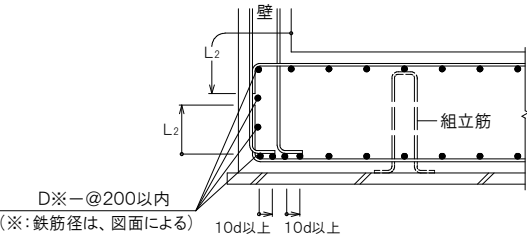
12. 4図 主筋の継手、定着及び余長(その3)

12. 4 梁形を設けない場合の基礎底版(オイルタンク等)

- (1)定着の取り方は、壁の面からとする。
- (2)途中で配筋が変わる場合の定着は、12. 2図のように基礎底版筋を梁筋と読みかえる。

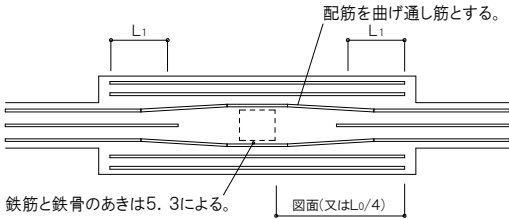


※ Laの数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。



12. 5図 主筋の継手、定着及び余長(その4)

- (3)鉄骨造のBOX柱等が埋め込まれる場合の端部と中央部の断面の異なる場合



12. 6図 主筋の継手、定着及び余長(その5)

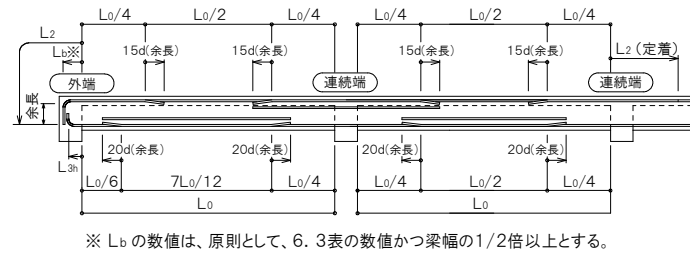
13 小梁及び片持梁の配筋要領

13. 1 一般事項

- (1)図面にない事項は大梁、梁のあばら筋、及び基礎梁の項に準ずる。
- (2)印は、継手及び余長を示す。

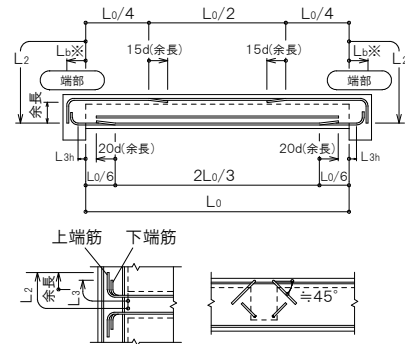
13. 2 小 梁

- (1)連続小梁の場合



13. 1図 小梁主筋の継手、定着及び余長(その1)

- (2)単独小梁の場合

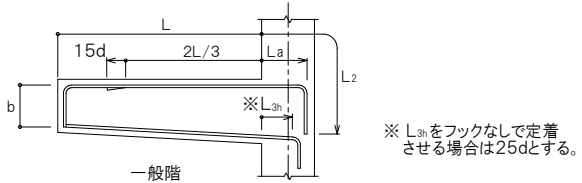


13. 2図 小梁主筋の継手、定着及び余長(その2)

- (注)1. 印は、継手及び余長を示す。
2. 梁内の定着筋において梁せいが小さく垂直で余長がとれない場合、斜めにしてもよい。
3. 図示のない事項は、10. 1及び12. 1に準ずる。
- ※ Lbの数値は、原則として、6. 3表の数値かつ梁幅の1/2倍以上とする。

13. 3 片持梁筋の定着

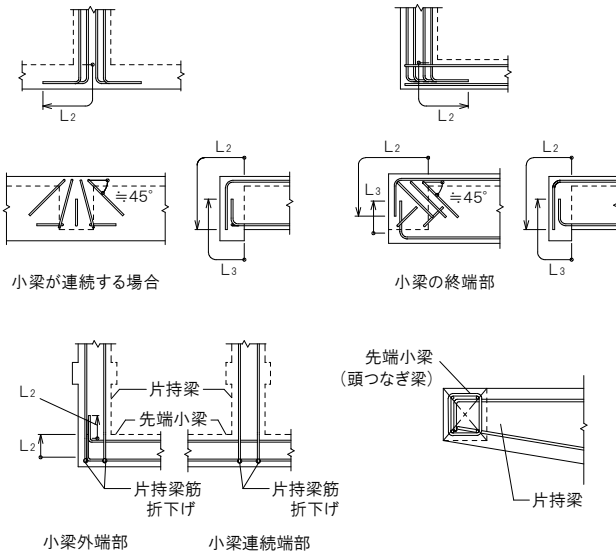
- (1)先端に小梁のない場合
- a. 先端の折曲げの長さbは、梁せいよりかぶり厚さを除いた長さとする。
- b. 梁筋を引き通さない場合は、取り合い部材に定着する。ただし、柱に取り合う場合は、全数を引き通すことができる場合でも、上端筋は、2本以上を柱に定着する。



13. 3図 片持梁主筋の定着及び余長(先端に小梁のない場合)

- (2)先端に小梁がある場合

- a. 上端筋は、先端小梁内に斜めに定着する。
- b. 先端小梁終端部の主筋は、片持梁内に水平定着する。
- c. 先端小梁の連続端は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

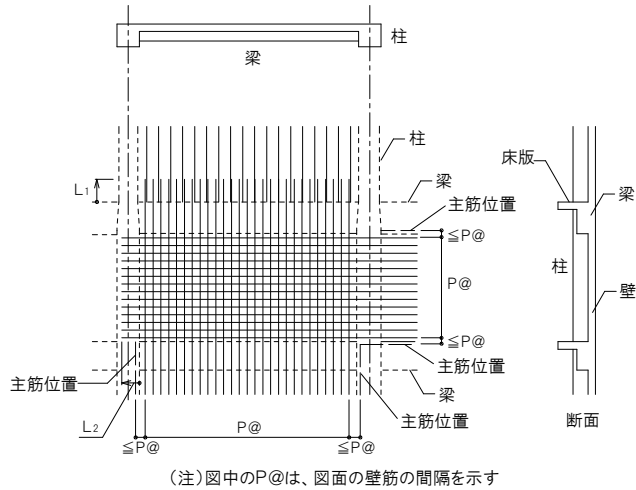


13. 4図 片持梁主筋の定着

14 壁の配筋要領

14. 1 一般事項

- (1)一般壁配筋の重ね継手の長さはL1とし、耐震壁の鉄筋の重ね継手の長さは40dとする。ただし、SD390、SD490を使用する場合は特記による。
- また、定着の長さは、L2とし、鉄筋の継手位置は、柱・梁部以外とする。
- (2)幅止め筋は、縦、横ともD10-@1000を標準とする。
- (3)打増し部分に、壁及びスラブ等が取りつく場合は、壁及びスラブ筋等の定着長さには打増し部分は含まない。
- (4)土圧及び水圧などを受ける壁の配筋は、図面による。



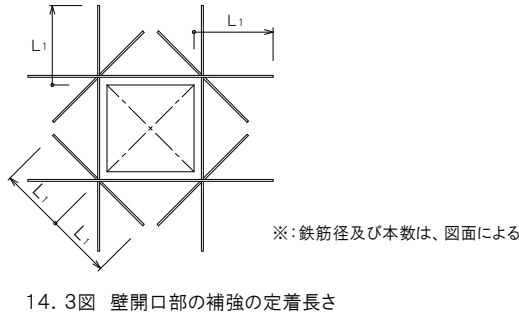
14. 1図 壁の配筋

14. 2 耐震壁の開口

- (1)耐震壁等の開口は、図面以外は設けてはならない。
- (2)やむを得ず開口をあける場合は、H19国土交通省告示593号の規定を満足することを構造計算によって確認すること。

14. 3 壁開口部の補強

- (1)壁開口部の補強は、図面による。補強筋の長さ及び位置は、14. 3図を標準とする。

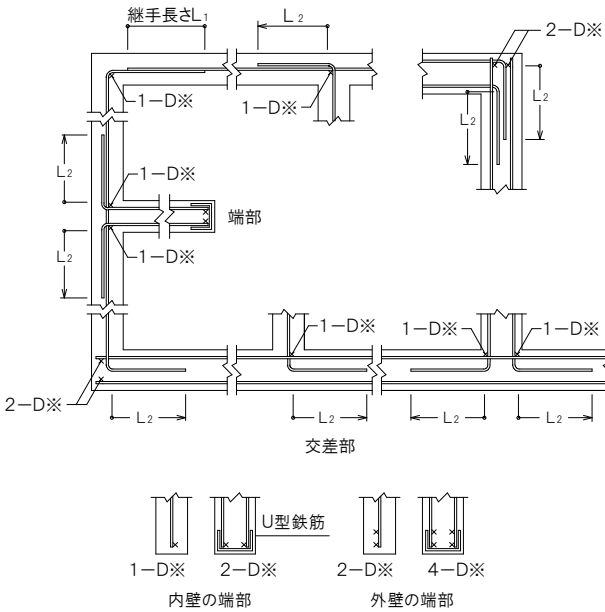


14. 3図 壁開口部の補強の定着長さ

- (2)開口部は柱及び梁に接する部分又は鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋出来る場合は、補強筋を省略することができる。

14. 4 壁の交差部及び端部

- 壁の交差部及び端部の交差部は、14. 4図による。
- a. 交差部補強筋D※はD13以上、かつ壁主筋と同径とする。
- b. 壁の端部にU型鉄筋を使用する場合の径及び間隔は、壁筋と同径及び同間隔とする。

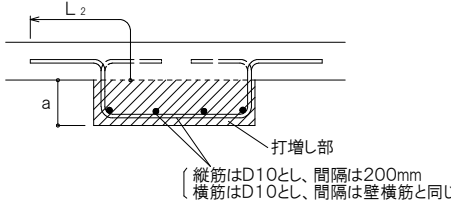


14. 4図 壁の交差部及び端部の配筋

※壁構造の場合は、「壁構造配筋指針・同解説」(日本建築学会)に基づき図面による。

14. 5 壁の打増し要領

- コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の補強は、特記によるほか、配管等での壁の打増し補強筋は、14. 5図による。
- 打増し厚さのaが50mm以上、200mm以下に適用する。
- 200mmを越える場合は、特記による。



14. 5図 壁の打増し補強配筋

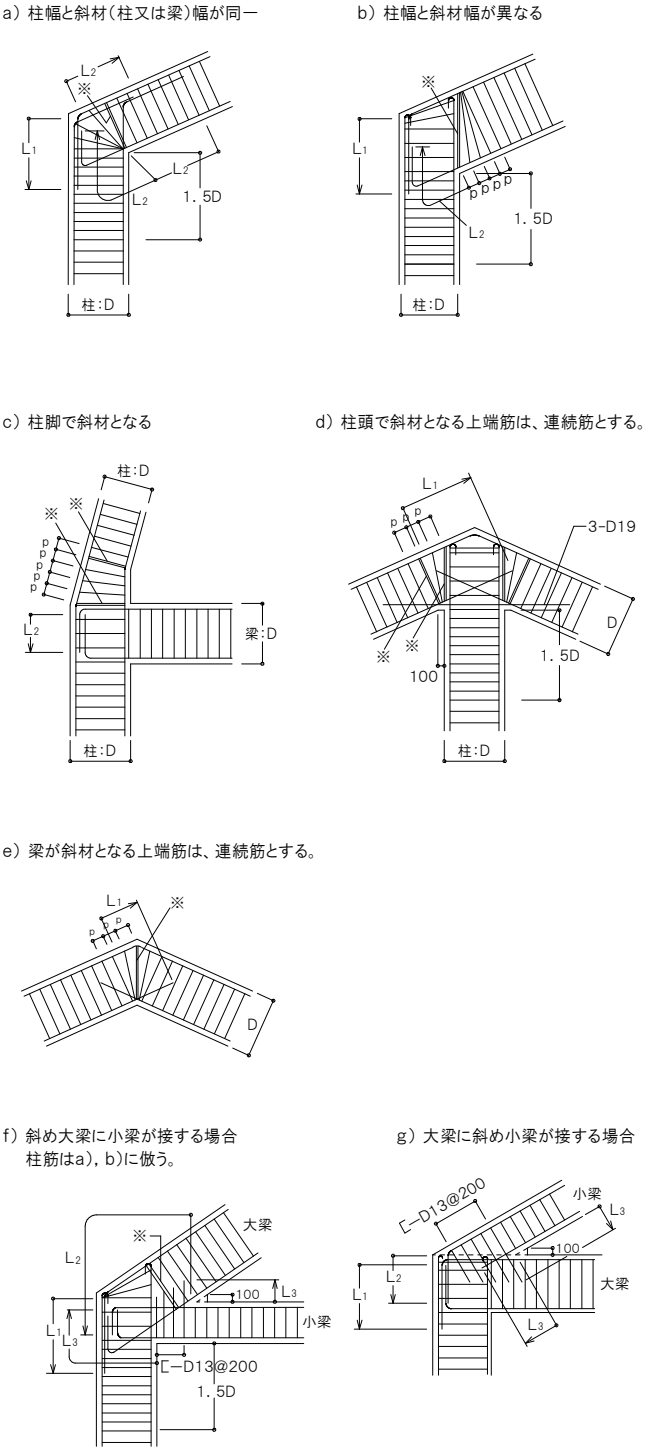
工 事 名	美佐野加圧ポンプ場
	更新工事
施工箇所名	御嵩町 美佐野 地内
図面の種類	構造細目共通図(建築構造物)(4)
縮 尺	- 図面番号 S-4
事務所名	岐阜県御嵩町

15 床の配筋要領 15.1 一般事項 (1)鉄筋の継手長さは、L_1とする。 (2)定着長さ及び受け筋は、15.1図による。ただし、引き通すことができない場合は、15.2図、15.3図により梁内に定着する。 (3)基礎梁と床版を一体打ちとしないで、打ち継ぎを設ける場合の補強は図面による。 15.1図 スラブ筋の定着長さ及び受け筋(その1) 15.2図 スラブ筋の定着長さ及び受け筋(その2) 15.3図 スラブ筋の定着長さ及び受け筋(その3) ※ L_bの数値は、原則として、6.3表の数値かつ梁幅の1/2倍以上とする。 15.2 片持スラブ (1)片持スラブの配筋 15.4図 片持スラブの配筋 ※先端の折り曲げ長さbは、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。 (2)先端に小梁がなく壁が取り付け場合 15.5図 先端に壁が付く場合の配筋 15.3 片持ちスラブ出隅部の補強配筋 (1)出隅部の補強筋は図面により、配筋方法は、15.6図による。 (2)出隅受け部分(図のハッチ部分)の配筋は、図面による。 15.6図 片持ちスラブ出隅部の補強配筋 (注)1. $b_1 \geq b_2$とする 2. 柱又は梁にL_1を定着する 15.4 地上部最上階の屋根床版 (1)出隅及び入隅部分には、15.7図により、補強筋(溶接金網)を上端筋の下側に配筋する。 (2)陸屋根、勾配屋根共通とする。 15.7図 出隅及び入隅部分の補強配筋 PH・吹抜け等 $\phi 6@100(1500\text{角})$溶接金網 15.5 段差床版の補強 同一床版に段差がある場合、15.8図の補強を行う。ただし、$H>150$の場合は、小梁を設ける事を原則とする。 15.8図 段差のある床版の補強配筋 $H \leq 70$ $70 < H \leq 150$ D※:鉄筋径は、図面による。 15.6 床版開口部の補強 (1)開口の最大径≤ 700の場合は、開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部には、斜め方向に主筋径以上の鉄筋2本を上下筋の内側に配筋する。(15.9図)開口の最大径> 700の場合は図面による。 15.9図 床版開口部の補強配筋 ※:鉄筋径は、図面による (2)床版開口の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強筋を省略することができる。 16 柱及び梁の増し打ち要領 16.1 柱 (1)増し打ちコンクリートの補強は、16.1図による。 ただし、$a<70\text{mm}$の場合、補強は行わない。$200\text{mm}<a$の場合は、図面による。 16.1図 柱の増し打ち補強配筋 ※1. 帯筋と同径・同材質・同ピッチとする。 (2)増し打ち部分での鉄筋は、定着長さとして認めない。ただし、躯体と一体打ちの場合は除く。 (3)増し打ち部分の帯筋の定着長さは、L_2以上とする。 (4)増し打ち部分主筋の定着、重ね長さは、柱の主筋による。 16.2 梁 (1)増し打ちコンクリートの補強は、16.2図による。 $a<70\text{mm}$の場合、補強は行わない。$200\text{mm}<a$の場合は、図面による。 16.2図 梁の増し打ち補強配筋 ※1. あばら筋と同径・同材質・同ピッチとする。 (2)増し打ち部分での鉄筋は、定着長さとして認めない。ただし、躯体と一体打ちの場合は除く。 (3)増し打ち部分のあばら筋の定着長さは、L_2以上とする。 (4)増し打ち部分の主筋の定着、重ね長さは、梁の主筋による。 (5)梁の上下の増し打ちが途中で終わる場合 16.3図 梁の上下の増し打ち配筋補強(途中で終わる場合) (6)梁の側面の増し打ちが途中で終わる場合 16.4図 梁の側面の増し打ち補強配筋(途中で終わる場合) 18 階段の配筋要領 18.1 階段の配筋要領 (1)壁配筋は、図面による。 (2)階段主筋は、壁の中心線を越えてから縦に曲げ下ろす。 18.1図 片持ちスラブ形階段配筋の定着 ㊦:壁芯	<table><tr><td>工 事 名</td><td>美佐野加圧ポンプ場</td></tr><tr><td></td><td>更新工事</td></tr><tr><td>施工箇所名</td><td>御嵩町 美佐野 地内</td></tr><tr><td>図面の種類</td><td>構造細目共通図(建築構造物)(5)</td></tr><tr><td>縮 尺</td><td>- 図面番号 S-5</td></tr><tr><td>事務所名</td><td>岐阜県御嵩町</td></tr></table>	工 事 名	美佐野加圧ポンプ場		更新工事	施工箇所名	御嵩町 美佐野 地内	図面の種類	構造細目共通図(建築構造物)(5)	縮 尺	- 図面番号 S-5	事務所名	岐阜県御嵩町
工 事 名	美佐野加圧ポンプ場												
	更新工事												
施工箇所名	御嵩町 美佐野 地内												
図面の種類	構造細目共通図(建築構造物)(5)												
縮 尺	- 図面番号 S-5												
事務所名	岐阜県御嵩町												

19 勾配屋根の取っ組み

19.1 斜め柱・斜め梁の取っ組み

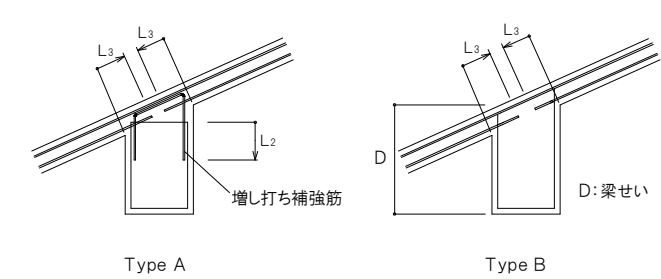
- (1)※印の鉄筋は、同径以上とし、かつダブル巻きとする。
(2)1. 5Dの範囲の柱の帯筋は一段太いものか、またはダブル巻きとし@100以下とする。
(3)柱の取っ組み部における斜め梁のせん断補強筋中心間隔は、当該梁部材のせん断補強筋中心間隔p以下とする。



19.1図 斜め柱・斜め梁の取っ組み配筋

19.2 梁と床版の取っ組み

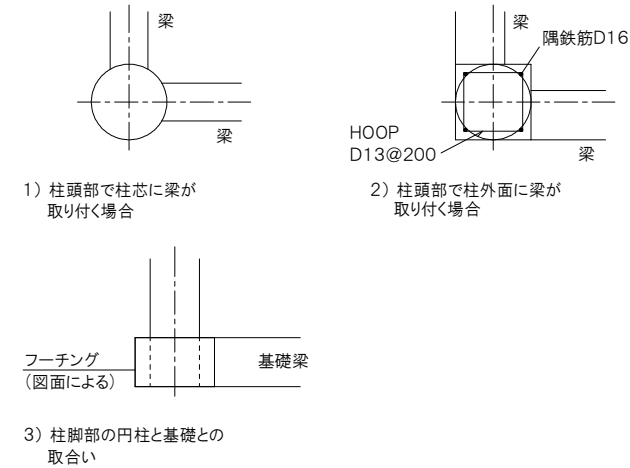
増し打ち補強要領は、16. 2Iによる。



19.2図 梁と床版の取っ組み配筋

19.3 円柱の取っ組み

円柱と梁の取っ組み

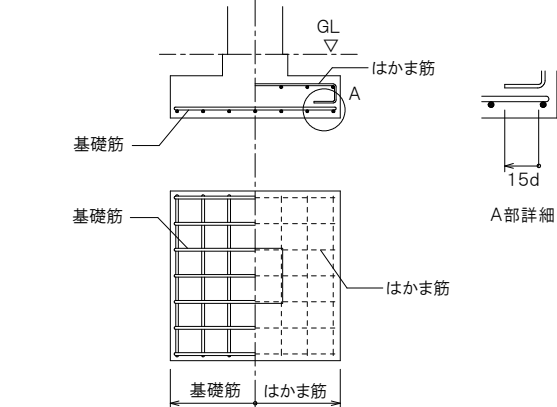


19.3図 円柱の取っ組み配筋

20 基礎及び基礎梁の配筋

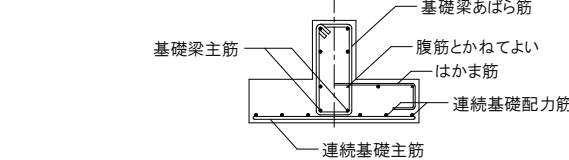
20.1 直接基礎の配筋

(1)独立基礎



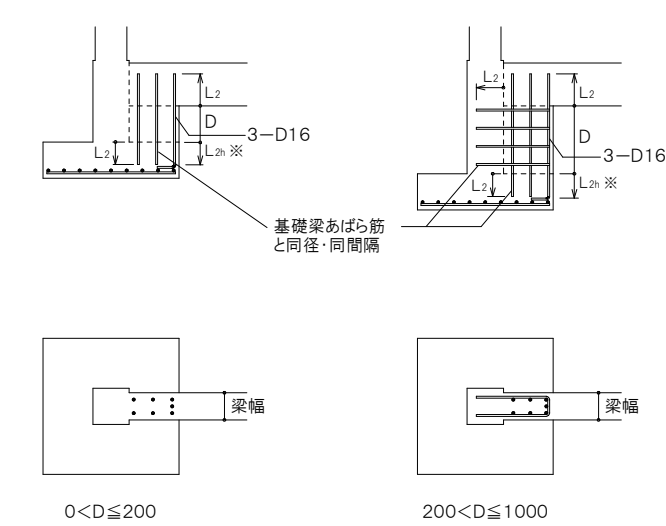
20.1図 独立基礎の配筋

(2)連続基礎



20.2図 連続基礎の配筋

20.2 基礎接合部の補強配筋

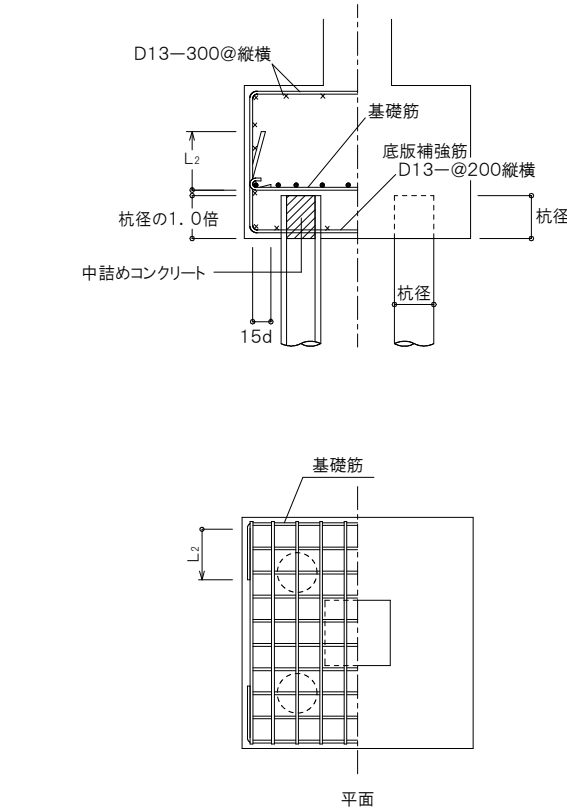


※L2sを確保できない場合は、標仕(5. 3. 4(e)(2))によることができる。

21 杭基礎の補強

21.1 杭基礎の配筋

- (1)中詰めコンクリートは、基礎のコンクリートと同じ調合のコンクリートを使用する。
(2)既製コンクリート杭以外の場合は、特記による。

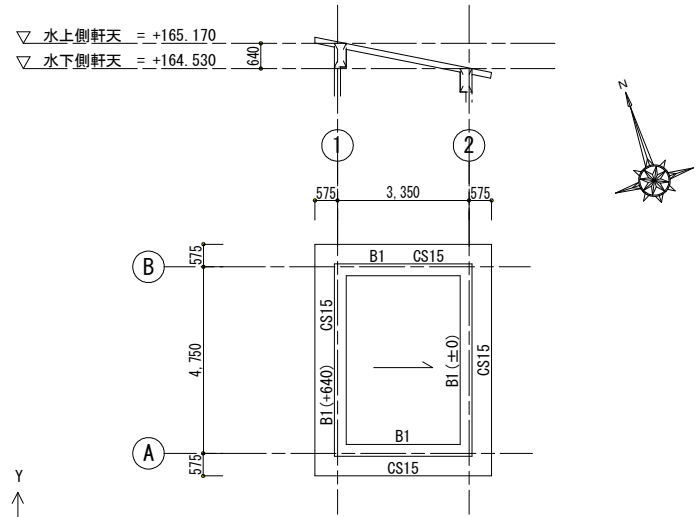


21.1図 杭基礎の配筋及び杭頭部の補強方法

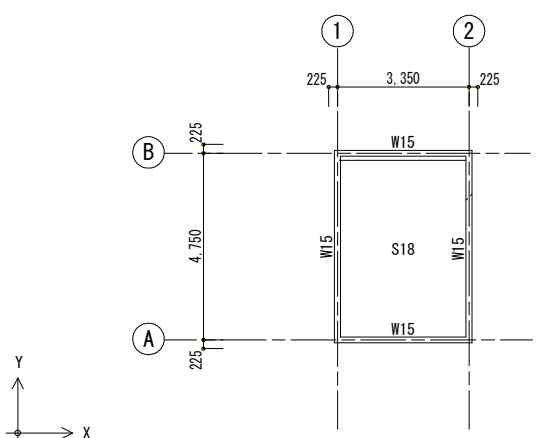
21.2 基礎接合部の補強

基礎接合部の補強は、20. 2Iによる。

工事名	美佐野加圧ポンプ場		
	更新工事		
施工箇所名	御嵩町 美佐野 地内		
図面の種類	構造細目共通図(建築構造物)(6)		
縮尺	-	図面番号	S-6
事務所名	岐阜県御嵩町		



R階 伏図		1:200
共通事項 特記なき限り下表による		
・ ()内数値は、軒天からの梁天端レベルを示す。		
・ スラブ符号は、S15とする。		
・ スラブ天・軒天は勾配による。		
・ — は水勾配を示す。		
(軒天 = +164.530)		



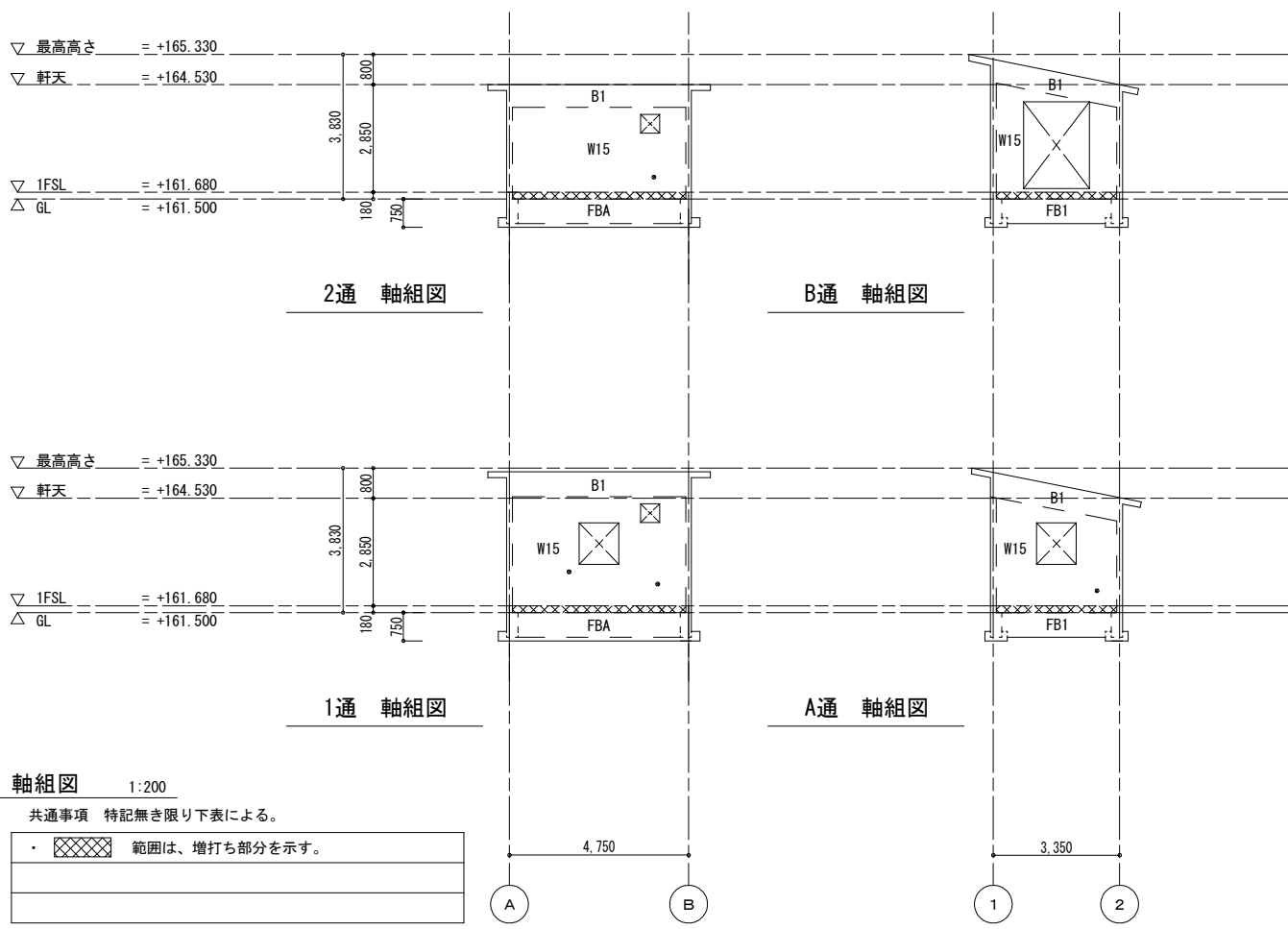
1階 伏図		1:200
共通事項 特記なき限り下表による		
・ 1FLは、GL+0.380		
・ スラブ上端は、1FL-0.200		
(GL=161.500) (1FL=161.880)		

スラブリスト（建築工事）

共通事項 1. 特記なき限り 床開口の最大径≦700の場合は構造細目共通図による。但し、補強筋径は下表による。

符 号	版 厚	位 置	短辺方向		長辺方向		開口補強筋		備 考
			端 部	中 央	端 部	中 央	縦横筋	斜 筋	
S15	150	上	D10D13@200 ダブル		D10 @200 ダブル		D13	D13	
		下							
S18	180	上	D10D13@200 ダブル		D10D13@200 ダブル		D13	D13	
		下							
CS15	150	上	D10D13@200 ダブル		D10 @200 ダブル		—	—	
		下							

壁 リ ス ト （ 建 築 工 事 ）			共通事項 1. 特記なき限り 巾止筋 D10@1000とする。						
符 号	壁 厚	位 置	縦 筋		横 筋		開口補強筋		備 考
			頭 部	脚 部	端 部	中 央	縦横筋	斜 筋	
W15	150	内 外	D10 @150 シングル		D10 @150 シングル		2-D13	1-D13	開口補強筋（縦・横）は詳細図による。



軸組図 1:200	
共通事項 特記無き限り下表による。	
・  範囲は、増打ち部分を示す。	

小梁リスト(建築工事) 1:100		共通事項 特記無き限り 1. 巾止筋 D10@1000 とする。	
符 号	B1		
位 置	全断面		
断 面			
B x D	300x600		
上 筋	3-D19		
下 筋	3-D19		
スタラップ	2-D10@200		
腹 筋	2-D10		

地中梁リスト(建築工事) 1/100				共通事項 特記無き限り 1. 巾止筋 D10@1000 とする。			
符 号	FB1	符 号	FBA				
位 置	全断面	位 置	全断面				
断 面		断 面					
B x D	300x650	B x D	300x650				
上 筋	3-D19	上 筋	3-D19				
下 筋	3-D19	下 筋	3-D19				
スタラップ	2-D10@200	スタラップ	2-D10@200				
腹 筋	2-D10	腹 筋	2-D10				

工 事 名	美佐野加圧ポンプ場		
	更新工事		
施工箇所名	御嵩町 美佐野 地内		
図面の種類	伏図・軸組図・部材リスト		
縮 尺	図示	図面番号	S-7
事務所名	岐阜県御嵩町		

